高松市埋蔵文化財調査報告　第118集

高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第７冊

奥の坊遺跡群Ⅶ

（奥の坊遺跡 Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・ⅩⅠ区）

2009年２月

高松市教育委員会

NR91001 出土遺物

例　言

1　本報告書は，高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第7冊で，高松市高松町に所在する奥の坊遺跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ区（おくのぼういせきⅧ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺく）の報告を収録した。

2　発掘調査地ならびに調査期間は次のとおりである。
調 査 地：高松市高松町奥ノ坊
発掘調査：Ⅷ区　　平成12年10月2日～12月28日
Ⅸ区　　平成12年10月5日～平成13年1月12日
Ⅹ区　　平成13年8月27日～平成14年1月18日
Ⅺ区　　平成14年4月2日～7月5日
整理作業：平成20年1月4日～平成20年12月26日

3　発掘調査から整理作業及び報告書編集まで高松市教育委員会教育部文化財課（平成19年度までは文化部文化振興課）文化財専門員大嶋和則が担当した。

4　発掘調査から整理作業，報告書執筆を実施するにあたって，下記の関係諸機関からご教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。（五十音順，敬称略）
香川県教育委員会，古高松土地改良区，地元自治会，地元水利組合

5　発掘調査から整理作業，報告書執筆まで下記の方々の協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。（敬称略）
大野宏和・川部浩司・信吉純恵・増田ゆず・山内康郎（当時徳島文理大学大学院），水田貴士・林田真典（当時徳島文理大学），末光甲正（当時讃岐文化遺産研究会）

6　本調査に関連して，以下の業務を業務委託発注により実施した。
航空写真測量　　国際航業㈱（Ⅹ区），アジア航測㈱（Ⅺ区）
航空写真撮影　　アジア航測㈱（Ⅷ区・Ⅸ区）
遺物写真撮影　　西大寺フォト

7　挿図として，国土地理院発行1／25,000地形図「高松北部」「高松南部」「五剣山」「志度」を一部改変して使用した。

8　本報告の高度値はT.P.を基準とし，方位は国土座標第Ⅳ系（日本測地系）の北を示す。

9　本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SD：溝　　SH：竪穴住居跡　　SK：土坑　　SP：柱穴　　NR：自然河道

10　調査は複数年度・複数調査区・複数遺構面になることが予想されたため，遺構番号は調査区番号，遺構面番号，遺構番号（3桁）の順に5桁ないし6桁の数字としている。（例：Ⅸ区・第1遺構面・土坑001＝SK91001）ただし本書平面図では遺構番号（3桁）のみで省略している部分もある。

11　本書で使用した図版の縮尺は注記の無い場合は次のとおりである。
遺構：1/40　　土器：1/4　　石器・金属製品：1/2

12　発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

本文目次

第１章　調査の経緯と経過

第１節　事業全体の経緯と経過……1
第２節　奥の坊遺跡の発掘調査の経緯と経過……2
第３節　整理作業の経過……4

第２章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境……5
第２節　歴史的環境……5

第３章　調査の成果

第１節　Ⅷ区の調査……8
第２節　Ⅸ区の調査……11
第３節　Ｘ区の調査……32
第４節　ⅩⅠ区の調査……46

第４章　まとめ……51

観察表……55

写真図版……65

報告書抄録……79

挿図目次

第１図　高松市東部運動公園整備事業発掘調査地…… 2
第２図　調査区位置図…… 3
第３図　周辺遺跡分布図…… 7
第４図　Ⅷ区遺構平面図…… 8
第５図　Ⅷ区西壁土層断面図…… 9
第６図　Ⅷ区検出遺構平・断面図……10
第７図　SK81003出土遺物実測図……11
第８図　Ⅸ区遺構平面図……12
第９図　Ⅸ区南壁土層断面図①……13
第10図　Ⅸ区南壁土層断面図②……14
第11図　包含層出土遺物実測図……16
第12図　Ⅸ区試掘調査時出土土器……17
第13図　NR91001上層出土遺物実測図……18
第14図　NR91001中層出土遺物実測図……19
第15図　NR91001下層出土遺物実測図①……20
第16図　NR91001下層出土遺物実測図②……21
第17図　NR91001下層出土遺物実測図③……22
第18図　NR91001下層出土遺物実測図④……23
第19図　NR91001最下層出土遺物実測図①……24
第20図　NR91001最下層出土遺物実測図②……25
第21図　Ⅸ区検出遺構平・断面図①……26
第22図　Ⅸ区検出遺構平・断面図②……28
第23図　SK91011出土遺物実測図……29
第24図　Ⅸ区検出遺構平・断面図③……30
第25図　Ⅸ区検出遺構平・断面図④……31
第26図　Ⅹ区遺構平面図……32
第27図　Ⅹ区東壁土層断面図①……33
第28図　Ⅹ区東壁土層断面図②……34
第29図　包含層出土遺物実測図……35
第30図　Ⅹ区検出遺構平・断面図①……36
第31図　Ⅹ区検出遺構平・断面図②……37
第32図　Ⅹ区検出遺構平・断面図③……39
第33図　Ⅹ区検出遺構平・断面図④……42
第34図　Ⅹ区検出遺構平・断面図⑤……43
第35図　Ⅹ区検出遺構平・断面図⑥……44
第36図　SK101037出土遺物実測図……45
第37図　XI区包含層出土遺物実測図……46
第38図　XI区遺構平面図……47
第39図　XI区検出遺構平・断面図……49
第40図　XI区土坑出土遺物実測図……50
第41図　遺構変遷図……52

挿表目次

表１　東部運動公園整備事業に伴う発掘調査経過…… 1
表２　奥の坊遺跡Ⅷ～XI区整理作業工程表…… 4
表３　土器観察表……57
表４　石器観察表……63
表５　金属製品観察表……63
表６　骨観察表……63

写真図版目次

写真１　Ⅷ区全景……67
写真２　Ⅸ区全景……67
写真３　Ｘ区全景……68
写真４　Ⅺ区全景　……68
写真５　Ⅷ区完掘状況全景（北から）……69
写真６　Ⅷ区SK81003完掘状況（西から）……69
写真７　Ⅸ区完掘状況（南東から）……69
写真８　Ｘ区西半完掘状況（北から）……69
写真９　Ⅸ区NR91001完掘状況（南から）……69
写真10　Ⅸ区NR91001土器出土状況……69
写真11　Ｘ区101001完掘状況（北東から）……69
写真12　Ｘ区SH101002完掘状況（北から）……69
写真13　Ｘ区SK101022完掘状況（南から）……70
写真14　Ｘ区SK101037土器出土状況（南から）……70
写真15　Ｘ区SK101037土層断面図（南から）……70
写真16　Ｘ区SD101007完掘状況（南西から）……70
写真17　Ｘ区SD101008完掘状況（北西から）……70
写真18　Ⅺ区西半完掘状況（西から）……70
写真19　Ⅺ区西半完掘状況（北から）……70
写真20　Ⅺ区東半完掘状況（東から）……70
写真21　Ⅸ区出土遺物①……71
写真22　Ⅸ区出土遺物②……72
写真23　Ⅸ区出土遺物③……73
写真24　Ⅸ区出土遺物④……74
写真25　Ⅸ区出土遺物⑤……75
写真26　Ⅸ区出土遺物⑥……76
写真27　Ｘ・Ⅺ区出土遺物　……77

第１章　調査の経緯と経過

第１節　事業全体の経緯と経過

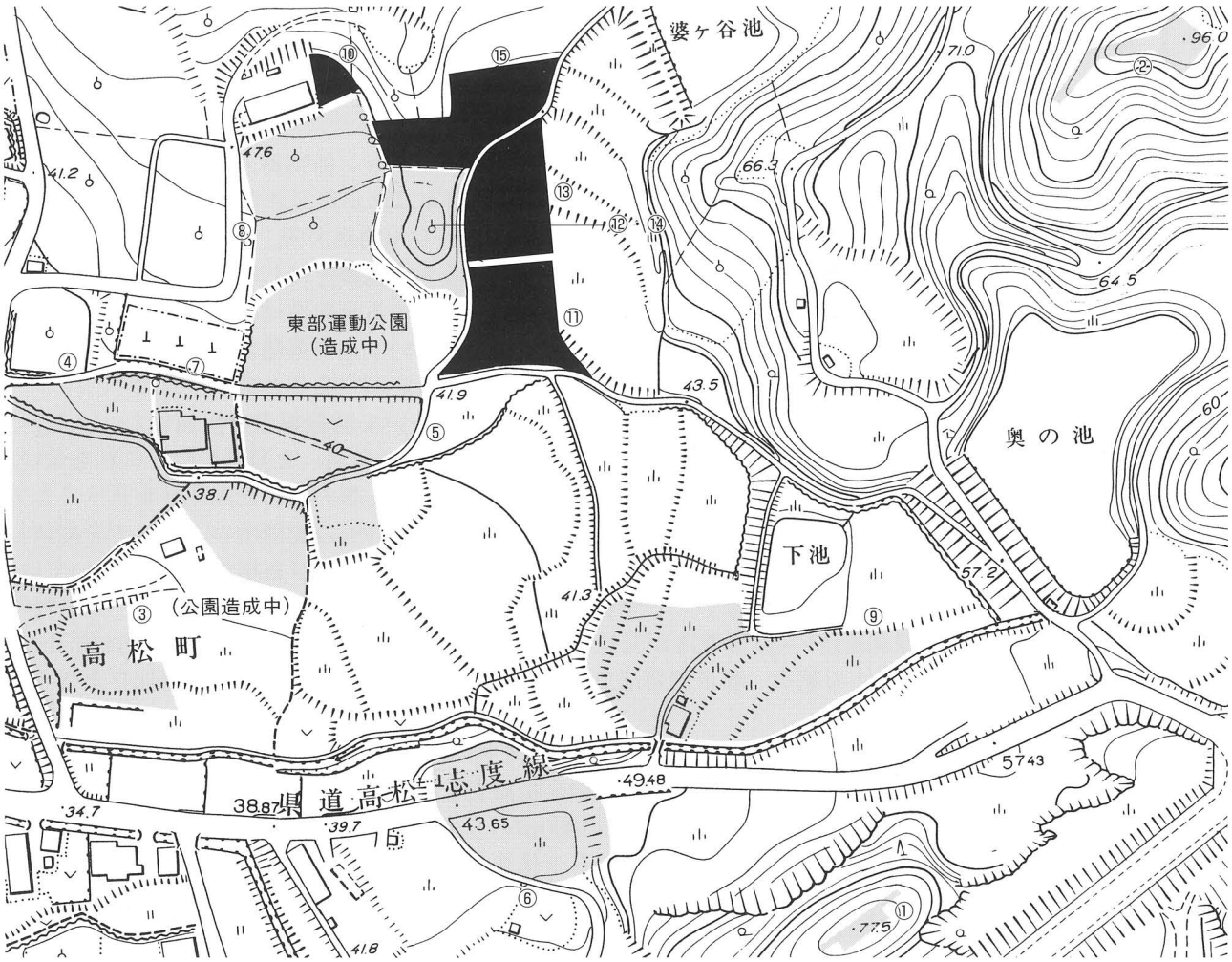
高松市では全市的なレベルでまとまった総合的なスポーツレクリエーション活動拠点として高松市東部運動公園（当時仮称）の整備が計画され，平成5年度には基本構想・基本計画が策定された。運動公園整備予定地となったのは高松市東部の丘陵地帯，高松町の字奥ノ坊・大空・金川渕地区で，総事業面積は47.2haに及ぶ広大なものである。整備予定地には香川県の弥生後期を代表する大空遺跡をはじめ，奥ノ坊古墳及びスベリ古墳の存在が知られており，この他にも未周知の埋蔵文化財が所在する可能性は高いと考えられた。このため工事に先立ち整備予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて都市開発部（当時）公園緑地課と協議を行い，事前に試掘調査を実施し，埋蔵文化財の包蔵状況を明らかにすることで合意した。

高松市教育委員会では，平成7年度から用地買収の完了した土地について試掘調査を実施した。平成7年度には大空古墳，金川渕古墳，奥ノ坊2号墳（その後の本調査で3・4号墳も発見）を発見した。これを受け，再度都市開発部公園緑地課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い，工事の前に記録保存を行うことで合意した。試掘調査はその後も継続して行い，平成9年度までに整備予定地内に203箇所のトレンチを掘削した。これにより，周知の埋蔵文化財包蔵地であった大空遺跡，奥ノ坊古墳，スベリ古墳の3遺跡については，既に消滅しており事前の保護措置の必要がないことが判明した。一方，新たに奥の坊権現前遺跡，奥の坊遺跡，奥の坊奥池西遺跡，大空北遺跡の4集落遺跡が発見された。新たに発見された遺跡の総面積は約30,000㎡である。これらの遺跡についても順次，都市開発部公園緑地課と協議を行い，工事前に記録保存を行うことで合意した。

一方，運動公園整備工事は平成9年度から洪水調整池の工事を行い，平成12年度後半から全体の造成工事を行うことが予定されていた。このため洪水調整池部分の発掘調査を早期に着手し，平成12年度前半までに全調査を終えることとした。調査対象地は遺跡総面積30,000㎡のうち現道及び現水路を除く約26,910㎡とした。その後，工事計画が変更になり，平成14年度後半から全体造成工事が開始されることになり，発掘調査についても平成14年度前半まで期間を延長することとなった。このため，当初は掘削深度が深く，調査面積も広大で，調査期間も短いことから，掘削業務を委託発注して調査を実施していたが，平成11年度より比較的掘削深度の浅い部分については直営で調査を行った。また，平成15年1月には運動公園整備工事に使用する粘土を近傍の新田町久米池から採取することとなり，同地に所在する久米池遺跡についても工事に合わせて調査を実施した。

表１　東部運動公園整備事業に伴う発掘調査経過

番号	遺跡名	調査区	調査期間	調査面積(㎡)	調査方法	報告書
	試掘調査	全域	1995. 8. 4~1997. 10. 8	2,997	直営	Ⅰ(1999. 3刊)
①	大空古墳	全域	1996. 2. 14~1996. 2. 23	150	直営	
②	金川渕古墳	全域	1996. 2. 23~1996. 3. 8	300	直営	
③	奥の坊権現前遺跡	Ⅰ～Ⅲ	1997. 2. 10~1997. 3. 24	1,560	委託	Ⅱ(2004. 3刊)
④	奥の坊権現前遺跡	Ⅳ～Ⅵ	1997. 10. 7~1998. 3. 13	5,200	委託	
⑤	奥の坊遺跡	Ⅰ・Ⅱ	1998. 9. 14~1999. 2. 19	4,900	委託	Ⅴ(2006. 12刊)
		Ⅲ・Ⅳ				未刊
⑥	大空北遺跡	全域	1999. 4. 16~1999. 6. 4	2,200	直営	Ⅲ(2004. 12刊)
⑦	奥の坊遺跡	Ⅴ	1999. 5. 28~1999. 7. 13	700	直営	Ⅵ(2007. 12刊)
⑧	奥の坊遺跡	Ⅵ・Ⅶ	1999. 11. 10~2000. 3. 3	2,300	委託	未刊
⑨	奥の坊奥池西遺跡	全域	2000. 4. 17~2000. 7. 25	3,600	直営	Ⅲ(2004. 12刊)
⑩	奥の坊遺跡	Ⅷ	2000. 10. 2~2000. 12. 28	300	直営	本書
⑪	奥の坊遺跡	Ⅸ	2000. 10. 5~2001. 1. 12	1,180	委託	本書
⑫	奥ノ坊古墳群(測量)	全域	2001. 6. 5~2001. 6. 27	－	直営	Ⅳ(2006. 3刊)
⑬	奥の坊遺跡	Ⅹ	2001. 8. 27~2002. 1. 18	1,320	委託	本書
⑭	奥ノ坊古墳群	全域	2001. 9. 4~2001. 11. 28	1,020	直営	Ⅳ(2006. 3刊)
⑮	奥の坊遺跡	Ⅺ	2002. 4. 2~2002. 7. 5	1,180	直営	本書
	久米池遺跡	全域	2003. 1. 8~2003. 1. 21	200	立会	Ⅳ(2006. 3刊)



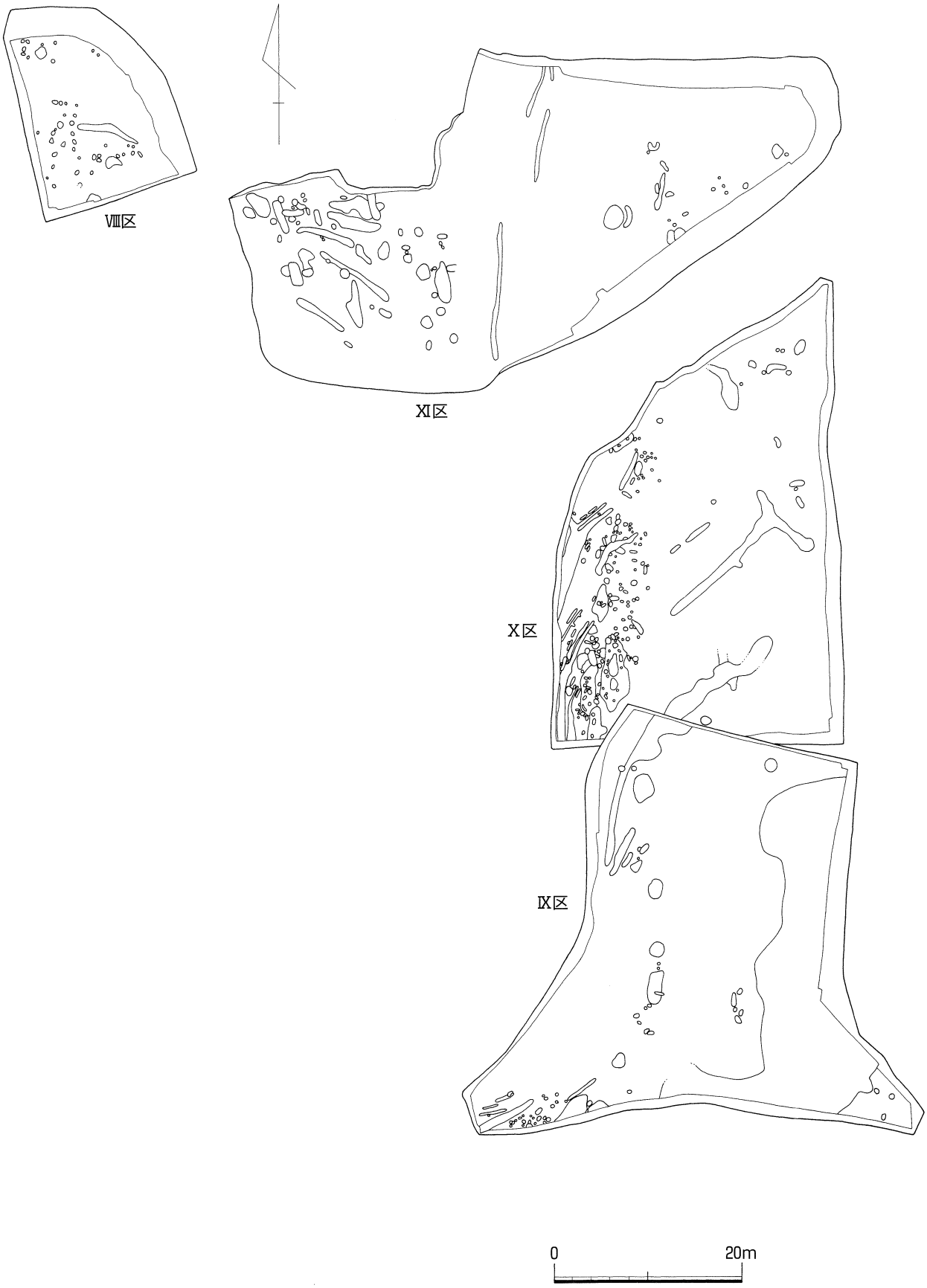
第１図　高松市東部運動公園整備事業発掘調査地（S＝1/2,500）

第２節　奥の坊遺跡の発掘調査の経緯と経過

運動公園予定地内では，平成7年度から用地買収の進捗状況に応じて試掘調査を実施した。奥の坊遺跡は平成8年度の試掘調査によりその所在が明らかになったもので，遺跡は事業地の南緩斜面一体に広がりを見せ，その面積は約12,000㎡にのぼることが判明した。

遺跡の南西部が洪水調整池工事予定地内に含まれ，平成11年度工事着手予定であったことから，平成10年度末までの発掘調査が望まれた。また，運動公園全体の造成が平成12年度下半期に予定されていたことから，その他の部分についても早期の調査が望まれた。都市開発部公園緑地課と協議を行った結果，遺跡の南西部を平成10年度，北東部を平成11年度で調査を実施することで合意した。しかしながら，平成9年度において，一部事業計画の変更があり，洪水調整池は平成12年度，造成は平成14年度下半期着手となることが決定したことから，平成10年度から5ヵ年をかけて発掘調査を実施することとなった。また，調査費用軽減のため一部直営方式により調査を実施した。

本報告書で掲載した調査区は，Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ区であるが，Ⅷ・Ⅺ区については直営で，Ⅸ・Ⅹ区については委託による調査である。なお，調査面積及び調査期間はⅧ区が300㎡で平成12年10月2日～12月28日，Ⅸ区が1,180㎡で平成12年10月5日～平成13年1月12日，Ⅹ区が1,320㎡で平成13年8月27日～平成14年1月18日，Ⅺ区が1,180㎡で平成14年4月2日～7月5日である。



第２図　調査区位置図

第３節　整理作業の経過

東部運動公園整備に伴う発掘調査は平成14年度まで行われた。このため，各調査年度の翌年度に土器洗浄や接合等の基礎整理を行うのみで，本格的な整理作業は全調査終了後の平成14年度後半から実施した。

奥の坊遺跡Ⅷ～Ⅺ区の整理作業は，平成13・14年度において基礎整理を実施し，本格的な整理作業は平成20年1月から12月において実施した。以下に工程表を掲載する。

表２　奥の坊遺跡Ⅷ～Ⅺ区整理作業工程表

	平成13･14年度	平成19年度			平成20年度								
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
基礎整理													
実測													
トレース													
レイアウト													
報告書編集													

第２章　地理的･歴史的環境

第１節　地理的環境

高松市は香川県のほぼ中央に位置し，瀬戸内海に面している。高松市域の大部分は高松平野によって占められている。平野の境界を画する低位山塊及び屋島，紫雲山等の独立山塊は，侵食の容易な花崗岩層（三豊層群）が風化侵食に抵抗の強い安山岩層に覆われていたことによって侵食開析から取り残されて形成されたメサまたはビュートと呼ばれるもので，讃岐の象徴的な田園風景の象徴となっている。

高松平野は四国北東部に東西に連なる讃岐山脈に端を発する中小河川により形成された沖積地である。高松平野には，西から本津川，香東川，春日川，新川といった河川が瀬戸内海に向けて北流している。本調査区の位置する古高松（高松町･新田町･春日町）地区は，この中の春日川，新川にほど近い地域である。春日･新川の両河川は水量に乏しく，平野中央部を流れる香東川のように大規模な扇状地は形成していない。また，古高松地区の北部は，江戸時代初期の干拓により陸地化されたものであり，寛永10年（1633）の『讃岐国絵図』によると，その頃の海岸線はかなり内陸に入り込んでおり，古高松地区の北に位置する屋島は島として描かれている。北を屋島に面した海岸（旧地形による），東を立石山山塊，南を久米山丘陵，西を春日川によって限られた高松平野北東部の一角は，古代･中世を通じて「高松」（讃岐国山田郡高松郷）と呼ばれたが，天正16年（1588）の生駒親正による高松城築造以後は，城下町の高松に対して「古高松」と呼称されてきた。江戸時代以前の古高松の地形が推定可能な史料として香西成資が古老の話を元に享保4年（1719）に編纂した『南海通記』がある。その中に天正10年（1582）頃の地形として「…春日ノ里ニ至ル，此所ハ屋島山，石清尾山両受ノ間，入海ニテ山田郡小山ノ下マデ潮サシ来ル，遠干潟ナ春日里ト木太郷ノ間，海ノ中道アツテ通用ス。…」との記述がある。ここでいう小山とは，現在の高松市新田町小山にあたると考えられ，この小山近辺まで海岸線あるいは河口が湾状に入り込んでいたと想定できる。

東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として発掘調査が行われた「奥ノ坊」は高松町の北東端にあたり，地形的には旧高松市と旧牟礼町（現高松市牟礼町）にまたがる標高100～200mの山塊の，西側低丘陵地の尾根及び谷部に位置する地域である。現在はかなり内陸的な様相を示すが，上記の推定海岸線から考えると海岸から1～1.5kmと非常に近かったと推測される。

第２節　歴史的環境

高松平野では，昭和60年代以降，高松東道路建設，太田第2土地区画整理事業，高松空港跡地再開発などの大規模プロジェクトに伴い発掘調査件数が増大したことによって遺跡数は飛躍的に増大し，高松平野の形成過程や集落の様相が次第に明らかになってきている。今回の発掘調査事業地は高松平野の東部にあたり，平野北西部に位置する石清尾山塊とともに遺跡の多い地帯として早くから認識されてきた地域である。

当事業地周辺の遺跡の大部分は弥生時代から古墳時代にかけてのものであるが，旧石器･縄文時代の遺物･遺構も若干知られている。旧石器時代については，本格的な遺構は知られていないが，久米池南遺跡（東山崎町）においてナイフ型石器が出土している。縄文時代については，小山・南谷遺跡において落とし穴状の土坑が14基検出されているほか，旧河道中から縄文土器が出土している。当事業地においても奥の坊奥池西遺跡において落とし穴と考えられる遺構が検出され，縄文土器が出土しており，小山・南谷遺跡との関連が注目される。一方，平野中央部の発掘調査においては旧河道からの晩期の土器の出土例は多い。なお，井手東Ⅰ遺跡において地表面下約70cmからアカホヤの堆積層が確認されていることが特筆される。

弥生時代前期の遺跡としては，平野中央部では二重の環濠が検出された汲仏遺跡等が知られているが，平野東部では現在のところ発見されていない。中期前半では当事業で確認された奥の坊遺跡は，南向きの緩斜面に営まれた集落で，多量の土器・石器のほか分銅形土製品や擬朝鮮系無文土器等も伴出している。また，丘陵部を東に越えた羽間遺跡では細形銅剣が出土している。中期後半では久米山東側丘陵上に立地する高地性集落の久米池南遺跡がある。後期前半では，香川県の弥生時代後期前半の標式土器が出土したことで知られる大空遺跡が当事業地内に所在した。また，当事業地内の奥の坊権現前遺跡をはじめ，スベリ山南遺跡，南谷遺跡，小山・南谷遺跡がある。いずれの遺跡においても製塩土器が多量に出土することが知られている。後期後半では当事業地西方の小平野にある原中村遺跡があげられる。同遺跡は，漆を採取していたと考えられる資料が確認されている。

古墳時代の集落遺跡は周辺では確認されておらず，平野中央部においてもあまり知られていない。しかし

ながら，古墳は多く築造されている。高松平野では積石塚として有名な石清尾山古墳群があるが，当遺跡の所在する平野東部では盛土古墳しか見られない。その中では諏訪神社古墳が古式の古墳である。また，前期の高松市茶臼山古墳は全長60mの前方後円墳で，後円部には竪穴式石室が2箇所設けられており，第1主体からは鍬形石2点，画文帯神獣鏡1点などが出土している。中期では屋島の北端に所在する長崎鼻古墳において，阿蘇溶結凝灰岩製の石棺が出土している。後期では複室構造の小山古墳，天井石が巨大な1石の石材で構築された山下古墳，T字型の石室をもつ瀧本神社古墳等特異な古墳が多い。中でも香川県で唯一石棚を持ち，畿内型の亀甲型陶棺を埋葬主体とし，承盤付銅鋺を副葬する久本古墳の存在は特筆できる。この他，小規模な長尾古墳群，岡山古墳群，岡山小古墳群，漆谷古墳群，平尾古墳群といった群集墳も見られる。当事業地においても，奥ノ坊古墳群，大空古墳，金川渕古墳の調査が実施されているが，いずれも損壊が著しく，詳細は不明である。

古代の遺跡では，『日本書紀』にも記載されている古代山城屋嶋城の存在が知られている。近年の調査で城門遺構や石垣が検出された。また新田本村遺跡と小山・南谷遺跡では高松平野の条里地割に先行し，方向の異なる条里地割が発見されている。この先行条里地割が当事業地内の奥の坊権現前遺跡及び奥の坊遺跡においても確認されている。古代寺院としては山下廃寺がある。古式の瓦が採集されているが，発掘調査は行われていないので詳細は不明である。また屋島北嶺の千間堂において10～11世紀と考えられる礎石建物跡及び集石遺構が検出されており，屋島寺の前身遺構と考えられている。

中世に入ると高松平野でも武士の台頭が目立つ。中央政権との関わりも深く，数多くの戦いが行われている。まず，源氏と平氏が屋島で戦い，那須与一や佐藤継信の戦いぶりが『平家物語』に記述され，今日まで伝えられている。南北朝期には同じ筆記物『太平記』では，讃岐の守護となった高松（舟木）頼重が喜岡城を本拠としたが，足利方の将細川定禅の攻撃により落城した。その後喜岡城は秀吉の四国平定時にも落城している。

中世の遺跡としては，中世末～近世初頭にかけての溝で区画された屋敷が検出された川南・西遺跡があげられる。当事業地内では中世の遺物は出土するものの，遺構としては奥の坊奥池西遺跡において溝が検出された程度である。

近世の遺跡としては，近年高松城周辺で数多くの調査が実施されており，武家屋敷等が検出されている。平野東部では，東山崎・水田遺跡や川南・東遺跡等において，当時の農村遺構が確認されている。当事業地内では奥の坊遺跡において一部近世の屋敷地を検出しているにすぎない。

第３図　周辺遺跡分布図（S＝1/25,000）

1 奥の坊権現前遺跡	2 奥の坊遺跡	3 大空北遺跡	4 奥の坊奥池西遺跡	5 奥ノ坊1号墳（消滅）
6 奥ノ坊2～4号墳	7 金川渕古墳	8 大空古墳	9 スベリ古墳（消滅）	10 大空古墳（消滅）
11 大空南遺跡	12 屋嶋城跡	13 喜岡城（高松城）跡	14 羽間遺跡	15 長尾1号墳
16 長尾2号墳	17 長尾３号墳	18 南谷遺跡	19 小山・南谷遺跡	20 新田本村遺跡
21 小山古墳	22 山下古墳	23 山下廃寺	24 久本古墳	25 岡山小古墳群
26 岡山古墳群	27 漆谷古墳群	28 久米池遺跡		

第３章　調査の成果

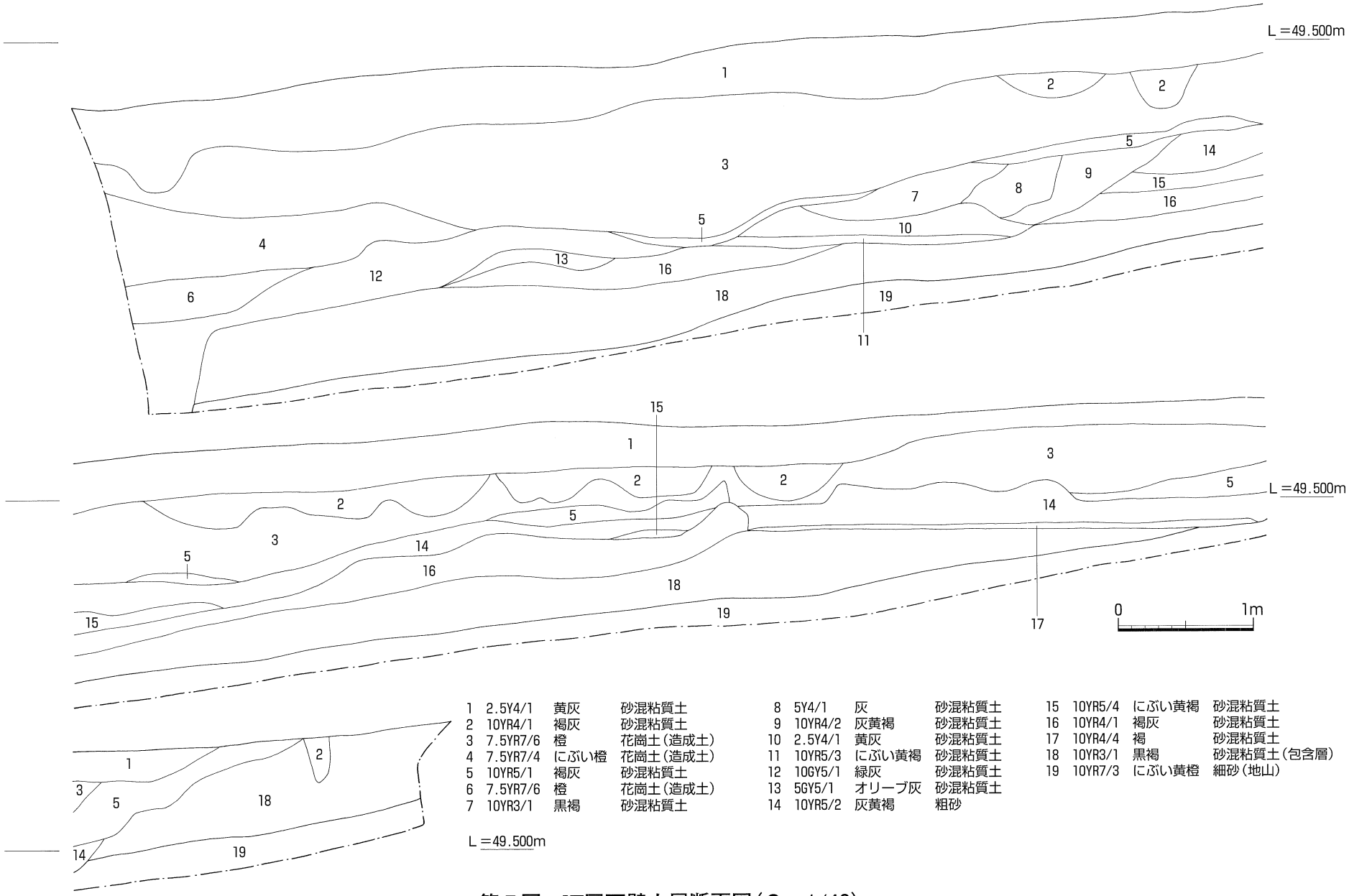
第１節　Ⅷ区の調査

（１）調査地の概要と基本層序（第４・５図）

Ⅷ区は奥の坊遺跡の北端部に位置する。現地表面は果樹園の造成により緩斜面となっており，標高は約49～51mであるが，原地形は南向きの斜面であったと推定できる。調査に際しては，調査区の西壁において土層観察を行い，第5図に掲載した。層序は大きく4層に分類できる。第1～11層は花崗土を主体とする現代の造成土であり，斜面を平坦面にするため南ほど厚くなっており，南端では1.6mを測る。その下部には，砂混粘質土の第12～17層が所在しており，旧耕作土と考えられる。その下部には層厚40～60cmで第18層の黒褐色砂混粘質土の堆積が認められる。第18層は少量ながら弥生土器を包含しており，Ⅷ区の斜面下部に位置するⅠ～Ⅶ区で検出した遺物包含層と同じ層序と考えられる。遺物包含層の直下で第19層のにぶい黄橙色の細砂層となっており，地山と考えられる。地山は近世以降の耕作により，階段状になっている部分もあるが，北東から南西にかけてやや急に下っており，標高50.5～46.8mである。

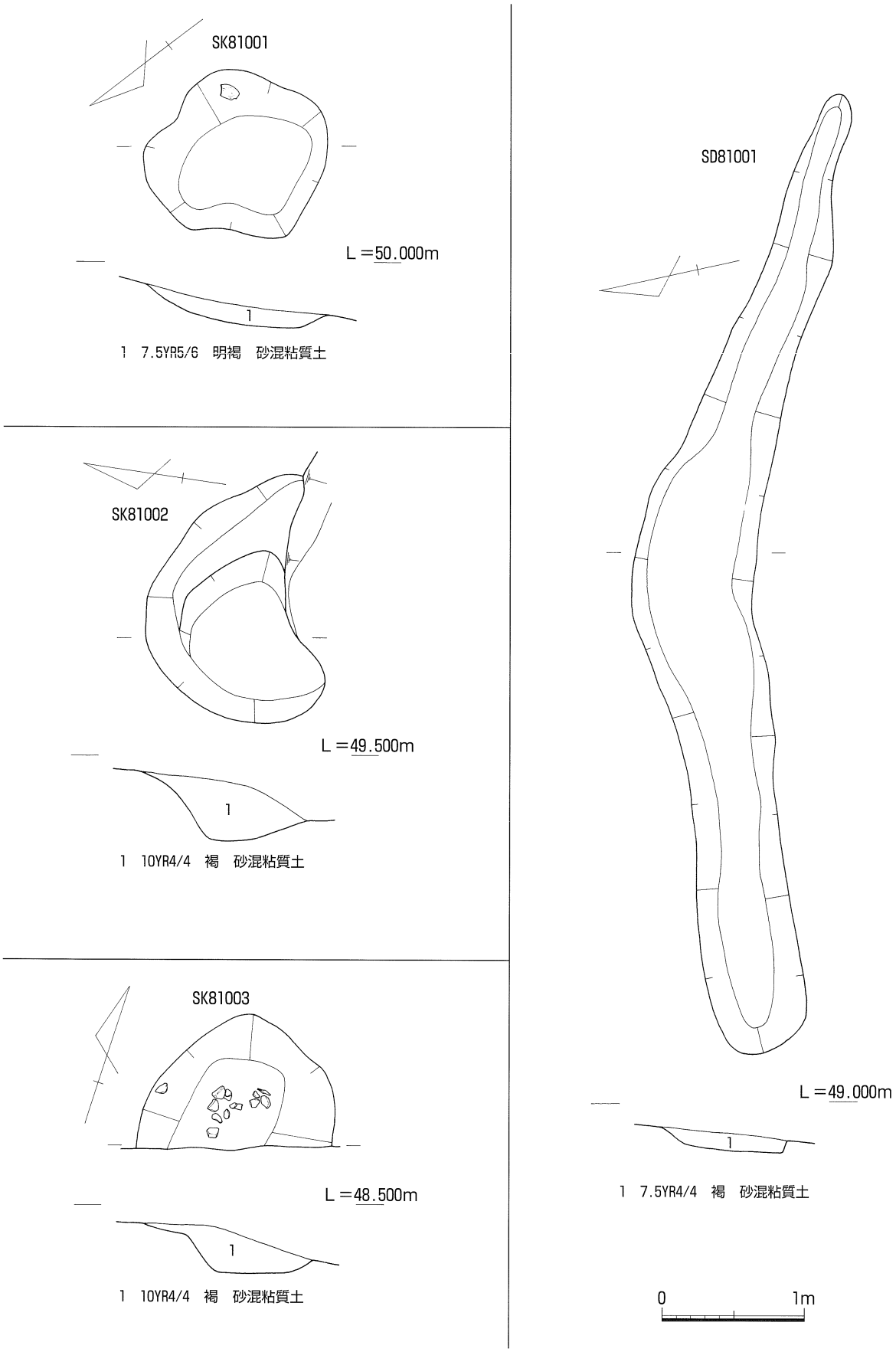
遺構面は地山上面の1面のみ検出した。土坑3基，溝1条，ピット多数を検出した。遺構面の時期は出土遺物から概ね弥生時代中期前半であり，遺構面が斜面であることや近世以降の耕作により階段状に削平を受けたためか，遺構は希薄である。

第４図　Ⅷ区遺構平面図（S＝1/200）



1	2.5Y4/1	黄灰	砂混粘質土
2	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土
3	7.5YR7/6	橙	花崗土（造成土）
4	7.5YR7/4	にぶい橙	花崗土（造成土）
5	10YR5/1	褐灰	砂混粘質土
6	7.5YR7/6	橙	花崗土（造成土）
7	10YR3/1	黒褐	砂混粘質土
8	5Y4/1	灰	砂混粘質土
9	10YR4/2	灰黄褐	砂混粘質土
10	2.5Y4/1	黄灰	砂混粘質土
11	10YR5/3	にぶい黄褐	砂混粘質土
12	10GY5/1	緑灰	砂混粘質土
13	5GY5/1	オリーブ灰	砂混粘質土
14	10YR5/2	灰黄褐	粗砂
15	10YR5/4	にぶい黄褐	砂混粘質土
16	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土
17	10YR4/4	褐	砂混粘質土
18	10YR3/1	黒褐	砂混粘質土（包含層）
19	10YR7/3	にぶい黄橙	細砂（地山）

第５図　Ⅷ区西壁土層断面図（Ｓ＝1/40）



第６図　Ⅷ区検出遺構平･断面図

（2）遺構

SK81001（第6図）

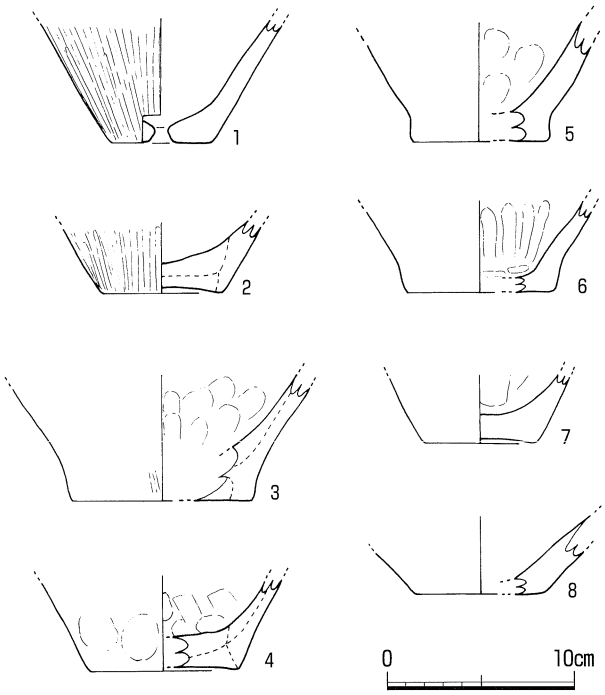
調査区の北部で検出した土坑である。平面形態はややいびつな隅丸方形を呈し，長辺1.15m，短辺1.08m，深さ14cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し，埋土は明褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK81002（第6図）

調査区南部で検出した土坑である。近世以降の耕作により削平されているが，平面形態は楕円形を呈すると考えられ，長径1.76m，短径1.46m，深さ48cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK81003（第6・7図）

調査区南端で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるが，平面形態は楕円形を呈すると考えられ，長辺1.35m，短辺95cm以上，深さ32cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は褐色砂混粘質土の単層である。



第7図　SK81003出土遺物実測図

出土遺物は第7図に掲載した。1～8はすべて弥生土器の底部である。1の底面には焼成前の穿孔が見られる。出土遺物から，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SD81001（第6図）

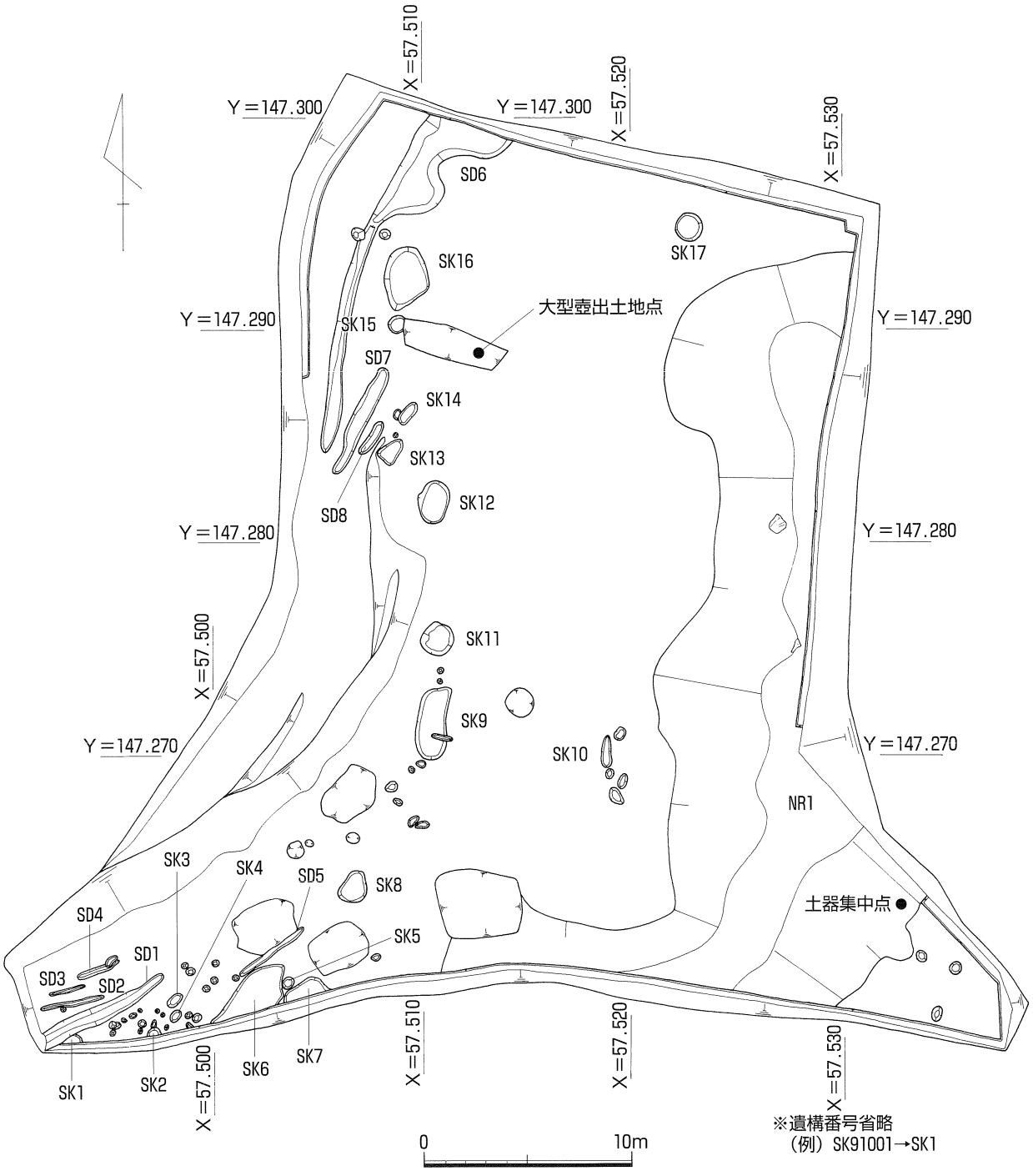
調査区の中央部で検出した溝である。幅85cm，長さ6.72m，深さ12cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は褐色砂混粘質土の単層である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

第2節　Ⅸ区の調査

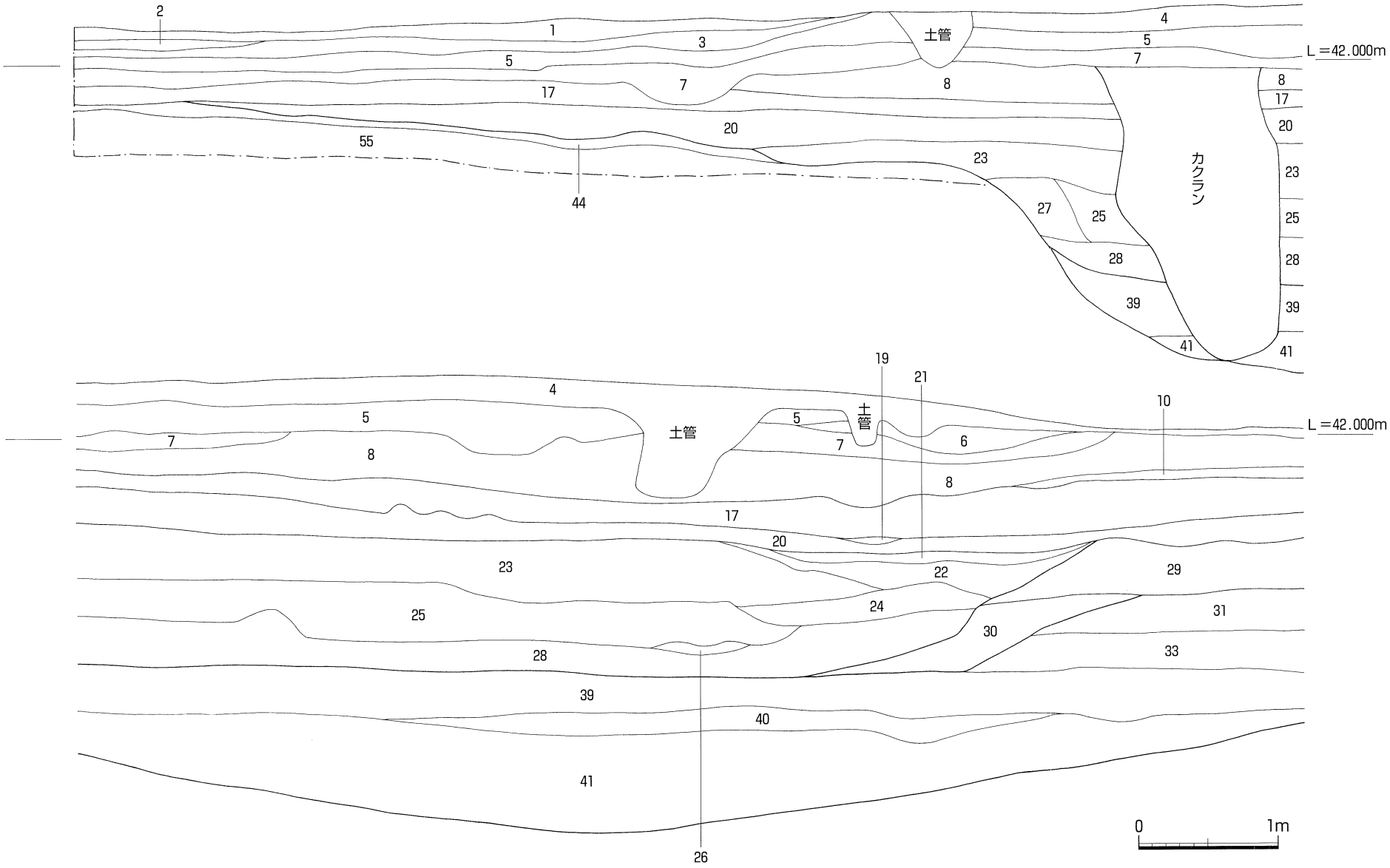
（1）調査地の概要と基本層序（第8～10図）

Ⅸ区は奥の坊遺跡の集落域の中心部であるⅠ～Ⅷ区とは舌状に延びる尾根を挟んで東側に位置する。現地表面は水田の造成により階段状の平坦地となっており，標高は約42～43mであるが，原地形は北東部に所在する婆ヶ谷池を基点とし，南西方向に下る谷状地形であったと推定できる。調査に際しては，調査区の南壁において土層観察を行い，第9・10図に掲載した。層序は大きく4層に分類できる。第1～10層は現代の造成土で，厚い所では80cmの堆積が認められる。その下部には，層厚10～15cmの灰黄褐および褐灰色砂混粘質土の第17・18層が所在しており，旧耕作土と考えられる。その下部は谷の埋没過程の堆積となっており，第19層の灰白色砂混粘質土層はその最終埋没層であり，その下部で明瞭な落ち込みが認められ，遺物を含む20～41層を旧河道として取り扱った。なお，42層以下については，若干の遺物は含むが地山として取り扱った。

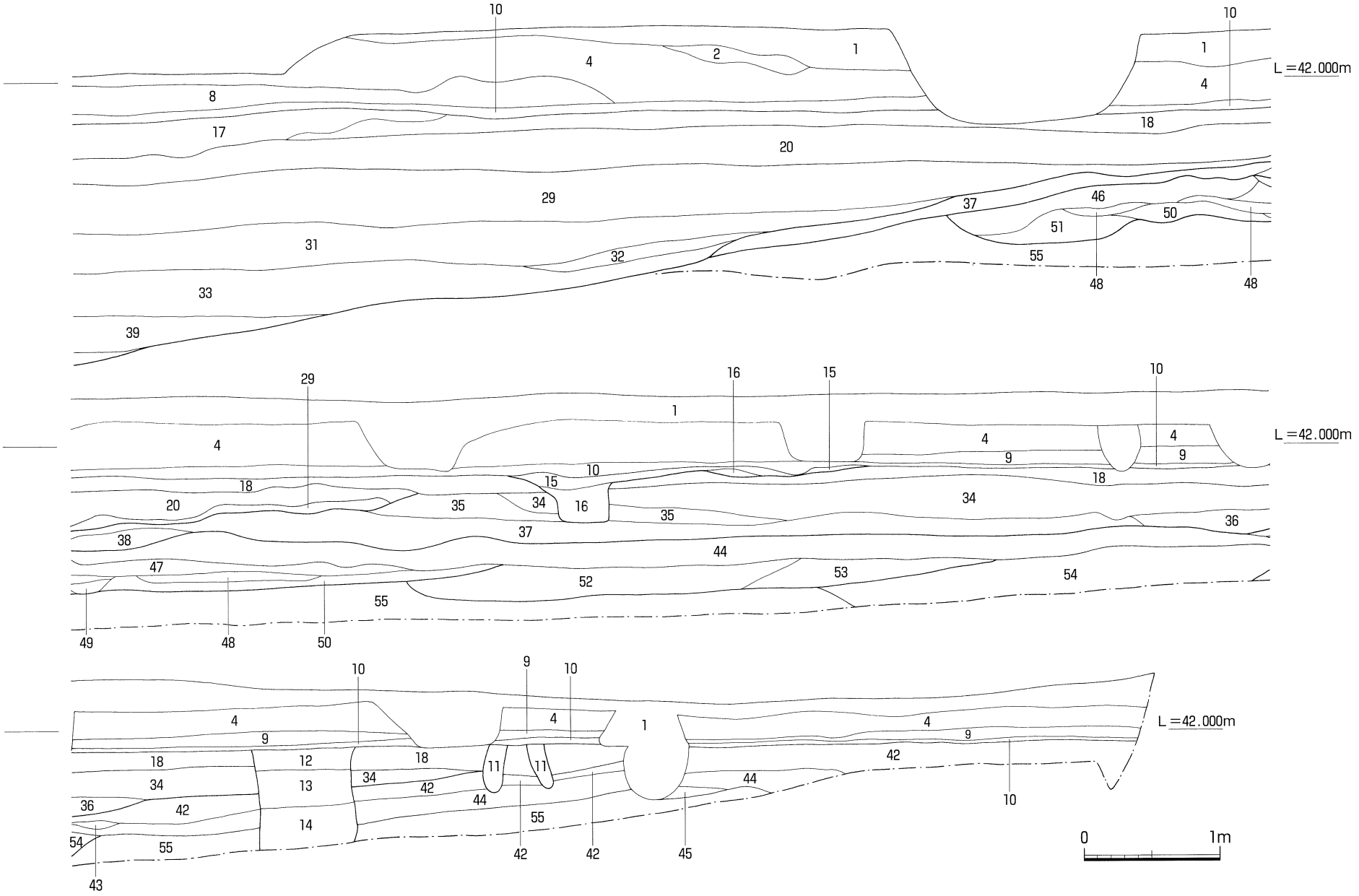
遺構面は旧河道の19層の上面と下面の2面認められたが，上面遺構については近世以降の遺構面と考えられたため，下面においてのみ検出を行った。土坑17基，溝9条，ピット多数を検出した。遺構面の時期は出土遺物から概ね弥生時代中期前半～古代であり，一部上面からの掘り込みを捉えたため，近世以降の遺構も所在する。遺構面が斜面であることや近世以降の耕作により階段状に削平を受けたためか，遺構は希薄であるが，南西端は集落の中心部に近いことから遺構密度は高い。



第８図　Ⅸ区遺構平面図（S＝1/300）



第９図　Ⅸ区南壁土層断面図①



第10図　Ⅸ区南壁土層断面図②

1	7.5YR2/1	黒	砂混粘質土	20	10YR5/1	褐灰	砂混粘質土	39	10BG4/1	暗青灰	砂混粘土
2	2.5Y5/1	黄灰	砂質シルト	21	7.5Y5/1	灰	シルト質粘土	40	2.5G8/1	灰白	粗砂
3	2.5Y6/1	黄灰	粘質シルト	22	7.5Y8/2	灰白	細砂～粗砂	41	5B3/1	青灰	砂混粘土
4	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土	23	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土	42	5Y7/3	淡黄	細砂
5	10YR6/3	にぶい黄橙	細砂～粗砂	24	10Y4/1	灰	砂混粘土	43	10YR4/1	褐灰	細砂～粗砂
6	10YR7/6	明黄褐	花崗土	25	10YR4/2	灰黄褐	砂混粘質土	44	10YR3/1	黒褐	砂混粘質土
7	2.5Y5/1	黄灰	粘質シルト	26	5Y6/1	灰	細砂	45	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土
8	7.5Y5/2	灰褐	細砂～粗砂	27	7.5YR4/1	褐灰	砂混粘土	46	2.5Y6/1	黄灰	細砂
9	7.5Y6/1	褐灰	砂混粘質土	28	10YR3/2	黒褐	シルト～粘土	47	10YR5/2	灰黄褐	細砂
10	10YR7/3	にぶい黄橙	砂混粘質土	29	7.5YR4/2	灰褐	砂混粘質土	48	2.5Y6/2	灰黄	細砂
11	10YR5/2	灰黄褐	砂混粘質土	30	5BG4/1	暗青灰	砂混粘土	49	10YR7/2	にぶい黄橙	細砂
12	7.5Y4/1	灰	砂混粘土	31	10YR4/2	灰黄褐	砂混粘質土	50	5Y6/1	灰	細砂
13	5G3/1	暗緑灰	砂混粘土	32	2.5Y6/1	黄灰	粗砂	51	10YR6/2	灰黄褐	細砂
14	5G2/1	緑黒	砂混粘土	33	10YR3/2	黒褐	砂混粘土	52	10YR4/17	褐灰	砂混粘質土
15	5GY6/1	オリーブ灰	砂混粘質土	34	10YR2/1	黒	砂混粘質土	53	10YR5/1	褐灰	砂混粘質土
16	2.5Y4/3	オリーブ褐	砂混粘質土	35	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土	54	10YR4/1	褐灰	細砂～粗砂
17	10YR5/2	灰黄褐	砂混粘質土	36	5Y6/1	灰	細砂～粗砂	55	10YR8/3	淡黄橙	シルト～粘土
18	10YR5/1	褐灰	砂混粘質土	37	7.5YR4/3	褐	粗砂(硬質)				
19	7.5Y7/1	灰白	砂混粘質土	38	7.5YR5/1	褐灰	細砂				

第9・10図土層土色一覧

（2）包含層出土遺物（第11・12図）

機械掘削及び遺構面精査時出土遺物を包含層出土遺物として，第11図に掲載した。9は弥生土器の広口壺である。外面タテハケ，内面ヨコハケで，口縁端部は3条の凹線上に波状文が施されている。10は弥生土器の甕である。11～14は弥生土器の底部で，11の底面には木葉圧痕が見られる。15～25は弥生土器の製塩土器底部である。26は土師器の皿である。S1・S2は石鏃である。S3は抉り状の加工が見られる剥片である。S4・S5は削器である。S5は石庖丁である。

また，本調査区の試掘調査では，第12図の弥生土器の大型広口壺が出土した。壺に伴う遺構は存在しなかったが，緩斜面部に口縁部を上方に向けた状態で出土している。口縁部は欠損しているが頸部以下はほぼ完形であり，土器棺の可能性が考えられる。

（3）遺構

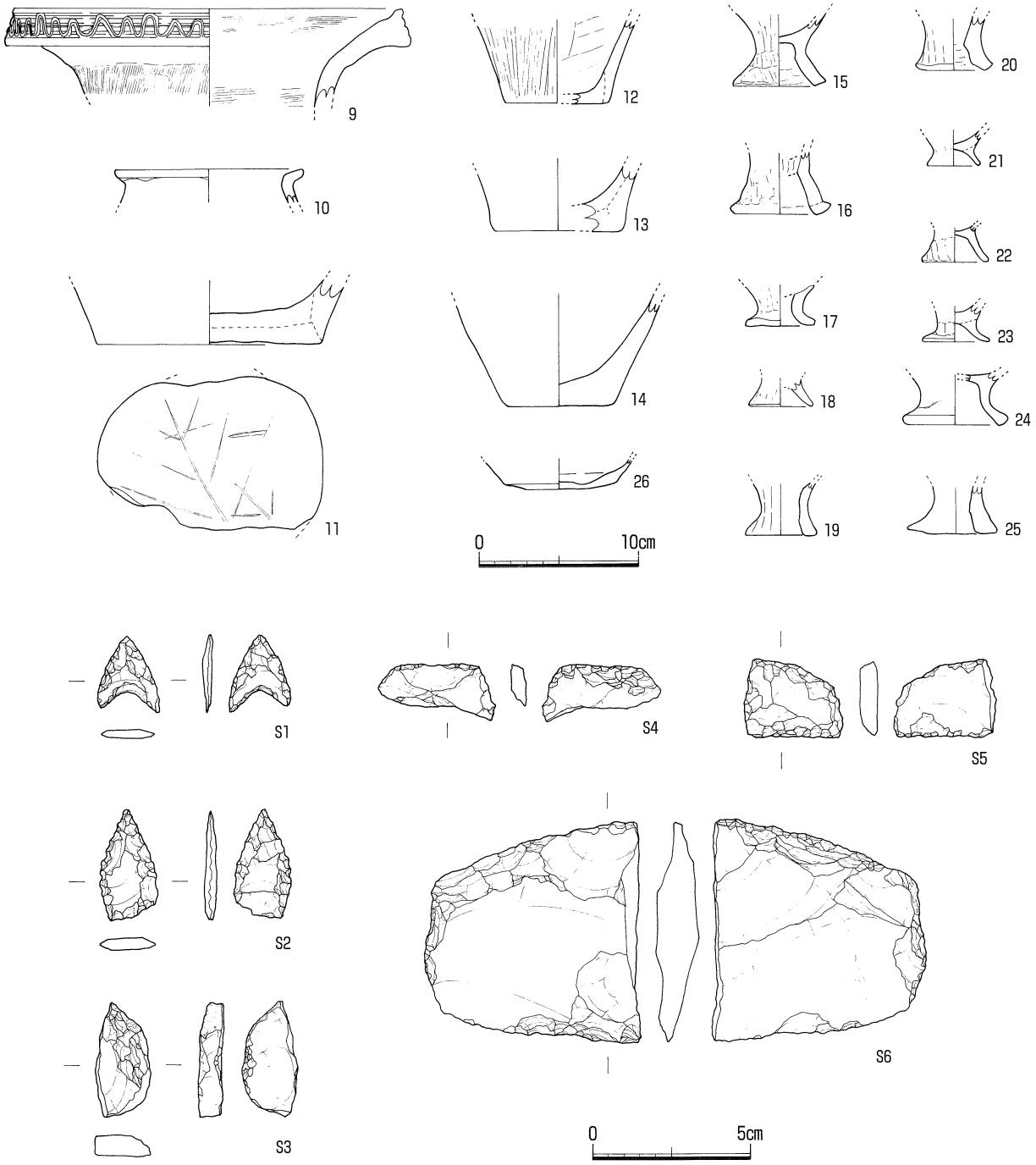
NR91001（第8～10，13～20図）

調査区東半で検出した北から南へ流れる自然河川である。川幅は9～13m，深さは2.2mを測る。調査区北端で西へ，南端で東へ大きく蛇行している。その流路方向から約200m南西方向で検出した奥の坊権現前遺跡の自然河川の上流部に位置すると考えられる。埋土は第9・10図の第20～41層で砂混粘土が主体の第20～28層を上層，砂混粘質土主体の第29～33層を中層，細砂と砂混粘土主体の第34～40層を下層，青灰色砂混粘土の第41層を最下層に分類した。遺物は東肩の下層～最下層において集中して出土した。

出土遺物は第13～20図に掲載した。第13図は上層出土遺物である。27は弥生土器の鉢である。外面に直線文と波状文が施され，口縁部には2個一対の円孔が穿たれている。28～33は弥生土器の甕である。28・29は外面に直線文と波状文が施されている。34～37は弥生土器の底部である。38は弥生土器の製塩土器脚部である。39は弥生土器の高杯脚部である。40は土師器の椀である。27～37は弥生時代中期前半，38・39は弥生時代後期，40は中世のものである。S7～S13は削器である。S14は凹石である。

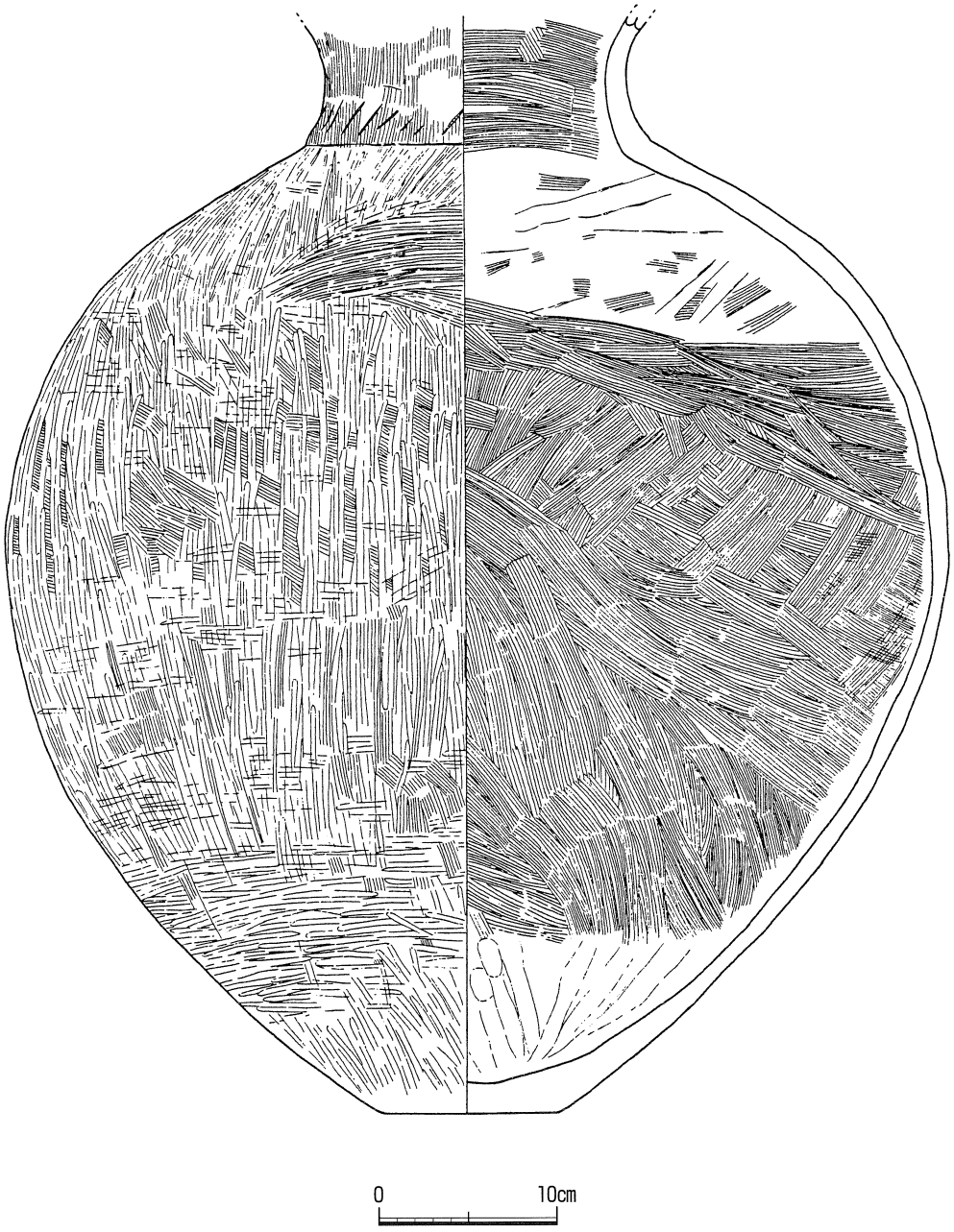
第14図は中層出土遺物である。41は弥生土器の無頸壺である。外面に波状文と直線文が施されている。42・43は弥生土器の広口壺である。口縁部外面に斜格子文が施されている。44～48は弥生土器の甕である。49・50は弥生土器の底部である。S15・S16は石鏃である。S17は石槍である。S18・S19は石庖丁である。S20は石錘である。いずれも弥生中期前半のものである。

第15～18図は下層出土遺物である。出土土器はすべて弥生土器である。51～91は甕である。51～56は如意状口縁のもので，調整はナデ・指頭圧が主体である。52は体部上半に刺突文が施されている。57～60は逆L字口縁のものである。58は外面タテハケ，内面タテヘラミガキのちヨコヘラミガキで，体部上半には直線文



第11図　包含層出土遺物実測図

と波状文が施されている。61～91はくの字口縁のもので，調整は外面タテハケ，内面ヨコヘラミガキが主体である。65は体部上半に直線文2条と簾状文状の刺突文が施されている。92～95は鉢である。口縁部に円孔が見られる。96～99は直口壺である。100～105は広口壺である。106・107は壺の体部片である。106は櫛描きによる直線文と扇形文が施されている。107は櫛描きによる直線文の上下に斜め方向の櫛描きを施している。108～111は鉢である。108は外面タテのちヨコヘラミガキ，内面ヨコヘラミガキである。109は外面ヨコヘラミガキ，内面タテヘラミガキで，底部内面には内面のタテヘラミガキの際のヘラ工具の圧痕が見られる。2個一対の円孔が底部外面から底面に向けて2方向に穿たれている。110・111も入念なミガキが見られ，外面には直線文と波状文が施されている。112～128は底部である。112の底部には焼成後の穿孔が見られる。S21は石鏃である。S22～S25は石庖丁である。S26は石鎌である。S27は石錐である。S28～S32は削器である。S33～S36は剥片である。S37は小型の扁平片刃石斧である。S38は叩き石で，S39は線刻石である。安山

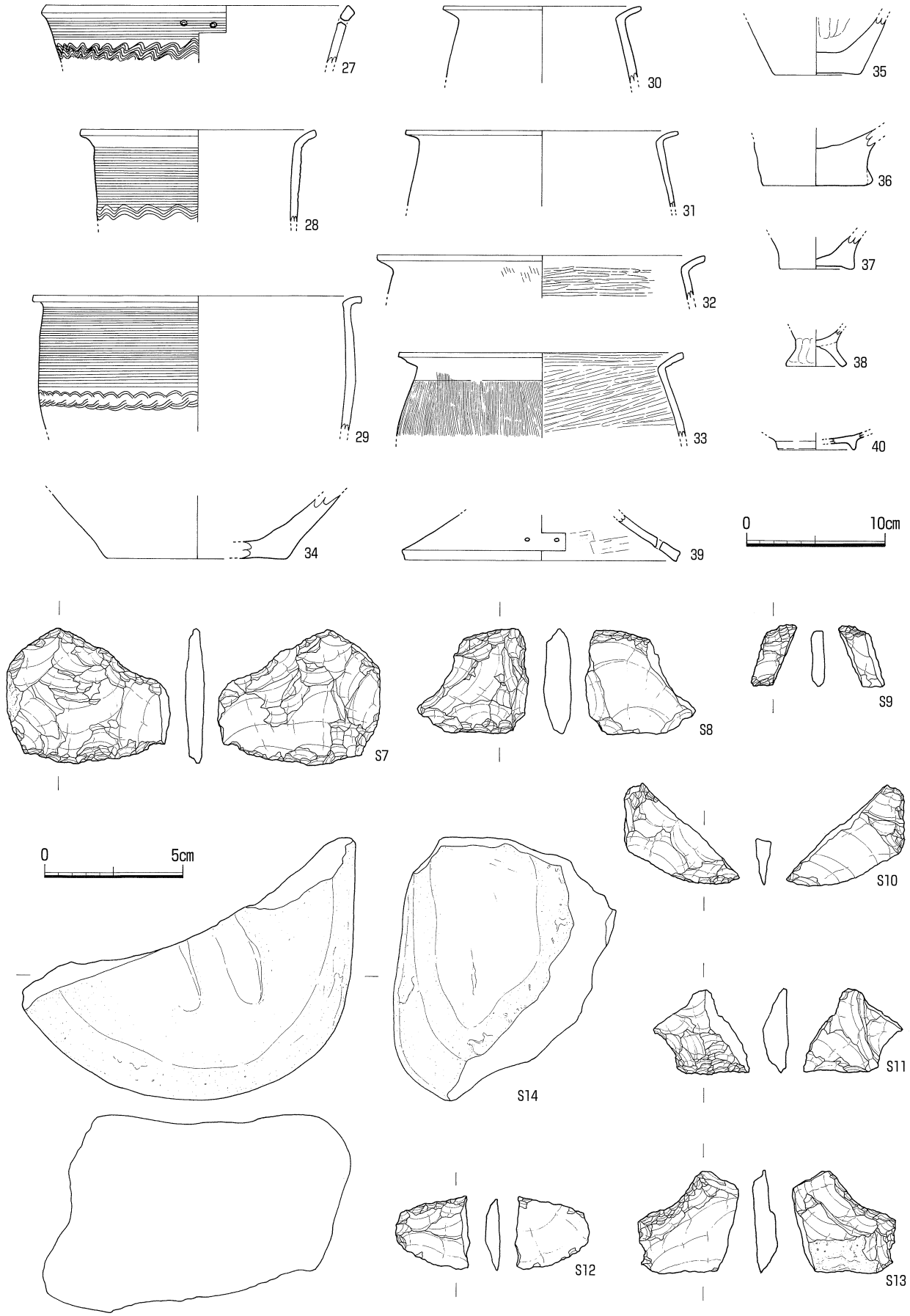


第12図　Ⅸ区試掘調査時出土土器

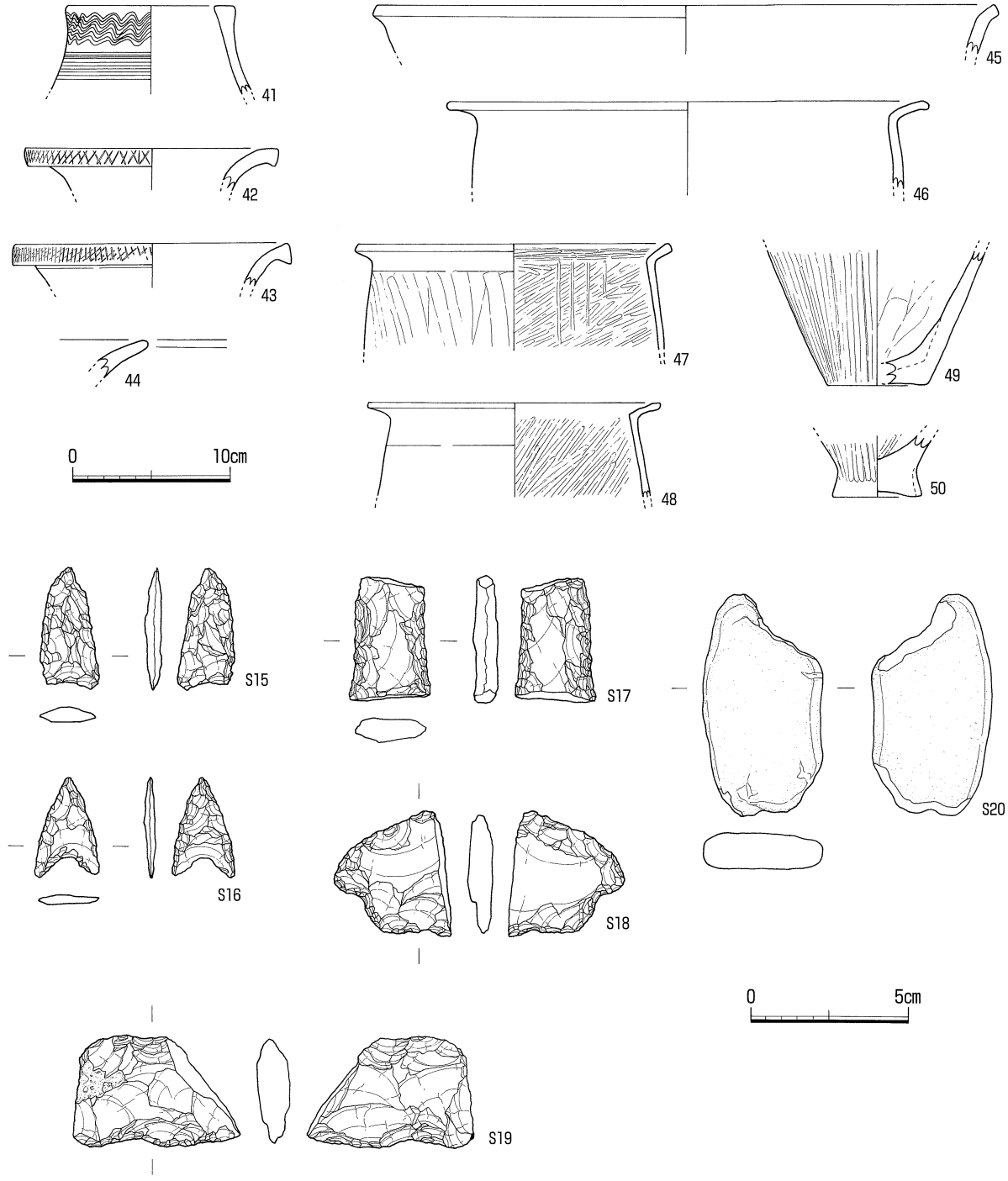
岩の自然石の平坦面に直線を多条に描いたものである。

第19・20図は最下層出土遺物である。出土土器はすべて弥生土器である。129～139は甕である。129～131は逆Ｌ字口縁のもので，その他はくの字口縁である。体部上半に施文するものが見られ，130は直線文，131・132は刺突文が施されている。140～143は広口壺である。143は口縁部に刻目，頸部に押圧突帯が施されている。144は無頸壺である。直線文と波状文が施されている。145は壺体部片である。直線文と波状文が交互に施文されている。146～154は底部である。S40は石鏃である。S41・S42は削器である。S43は剥片である。S44はチャートの石核である。S45は太型蛤刃石斧である。S46は線刻石である。安山岩の自然石の平坦面に放射状の線を描いたものである。

中層以下は弥生時代中期前半の遺物しか出土しておらず，同時期の埋没と考えられるが，上層では弥生時代後期や中世の遺物も出土しており，上層の埋没過程は緩やかで，最終埋没は中世と考えられる。



第13図　NR91001上層出土遺物実測図



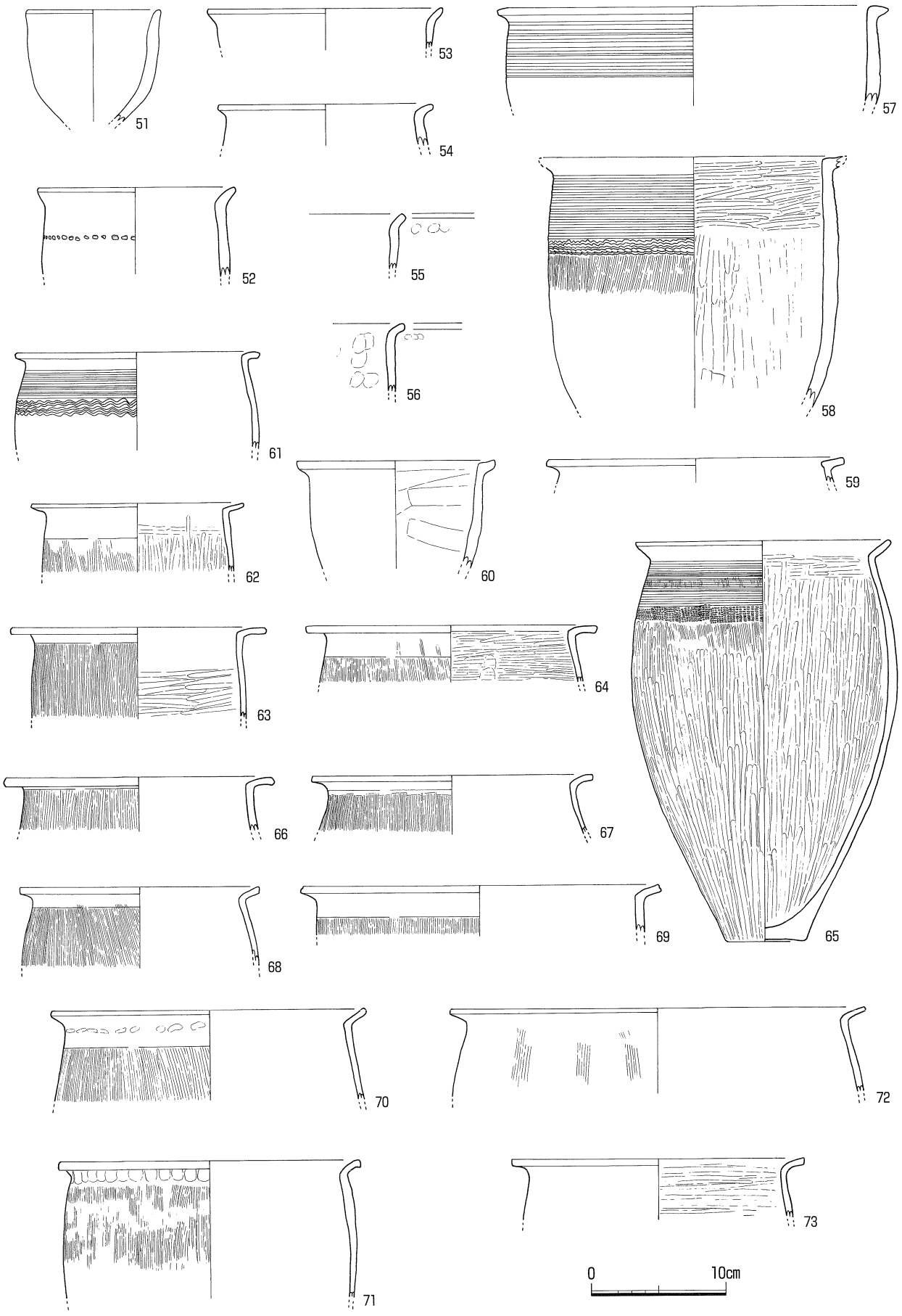
第14図　NR91001中層出土遺物実測図

SK91001（第21図）

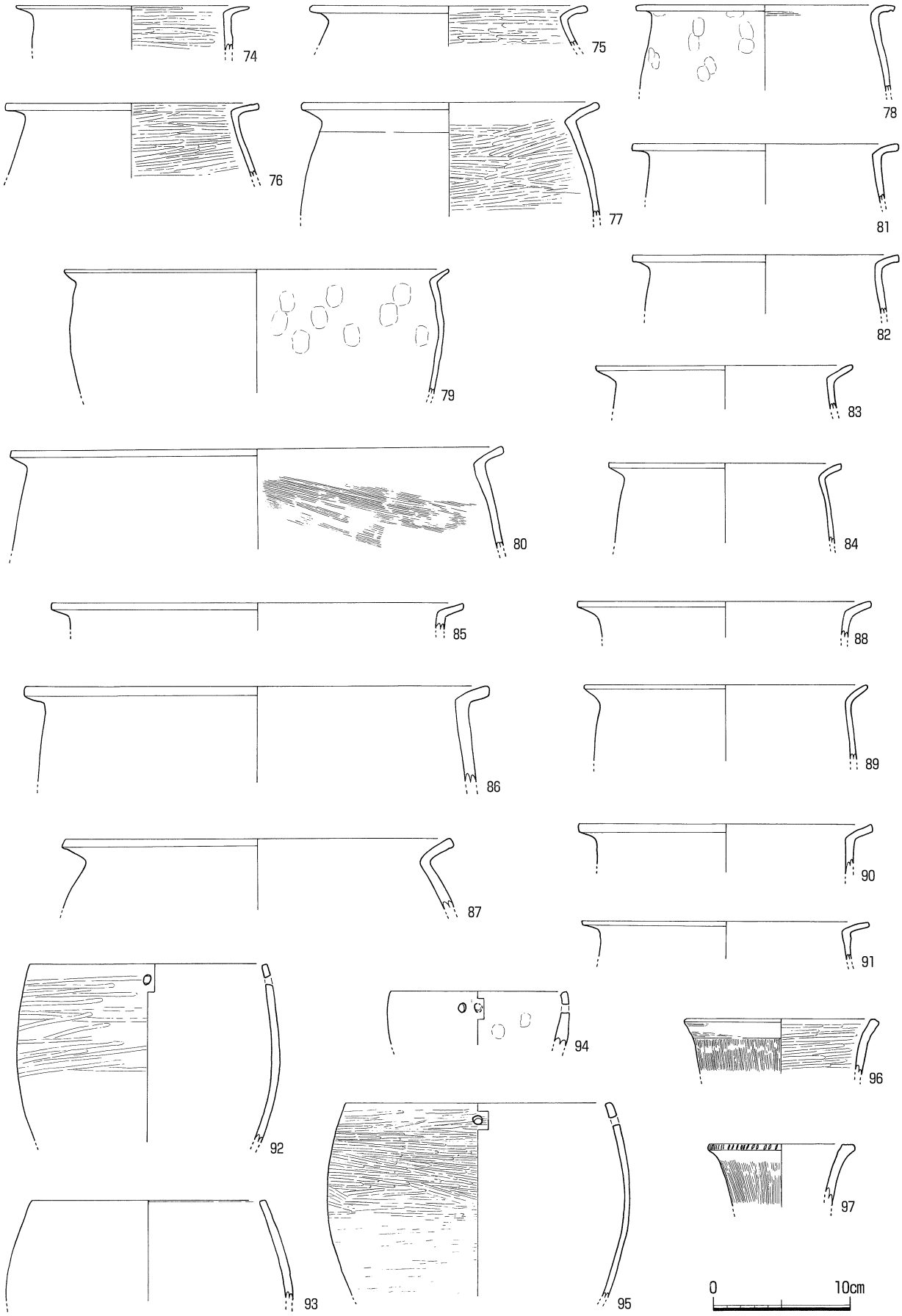
調査区の南西端で検出した土坑である。SD91001に切られており平面形態は不明であるが，長径90cm以上，短径30cm以上，深さ19cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。遺物は出土していないが，古代の溝SD91001に切られていることから，それ以前の遺構と考えられる。

SK91002（第21図）

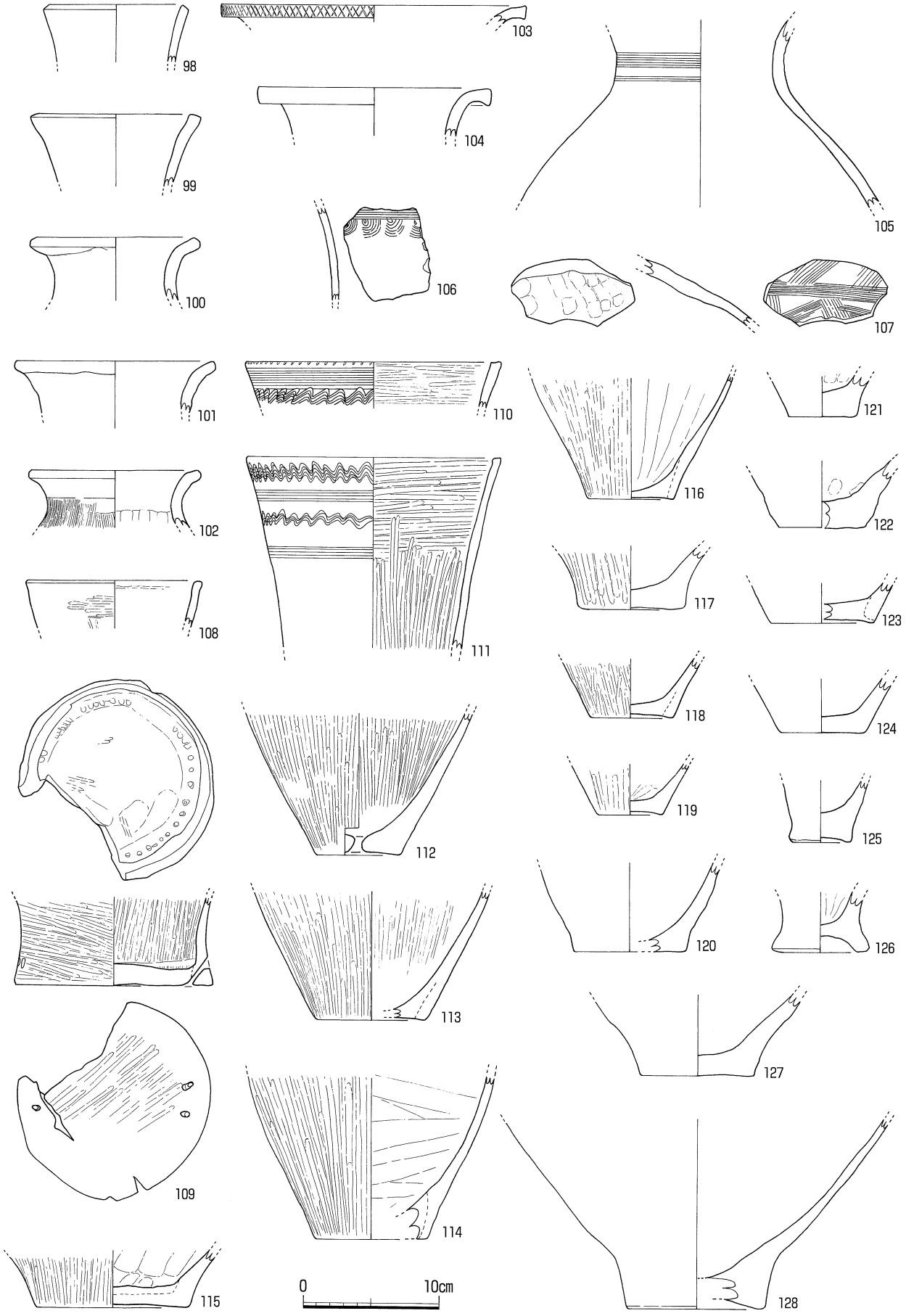
調査区の南西部で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるが，平面形態は楕円形を呈すると考えられ，長径66cm以上，短径38cm以上，深さ20cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，時期は不明である。



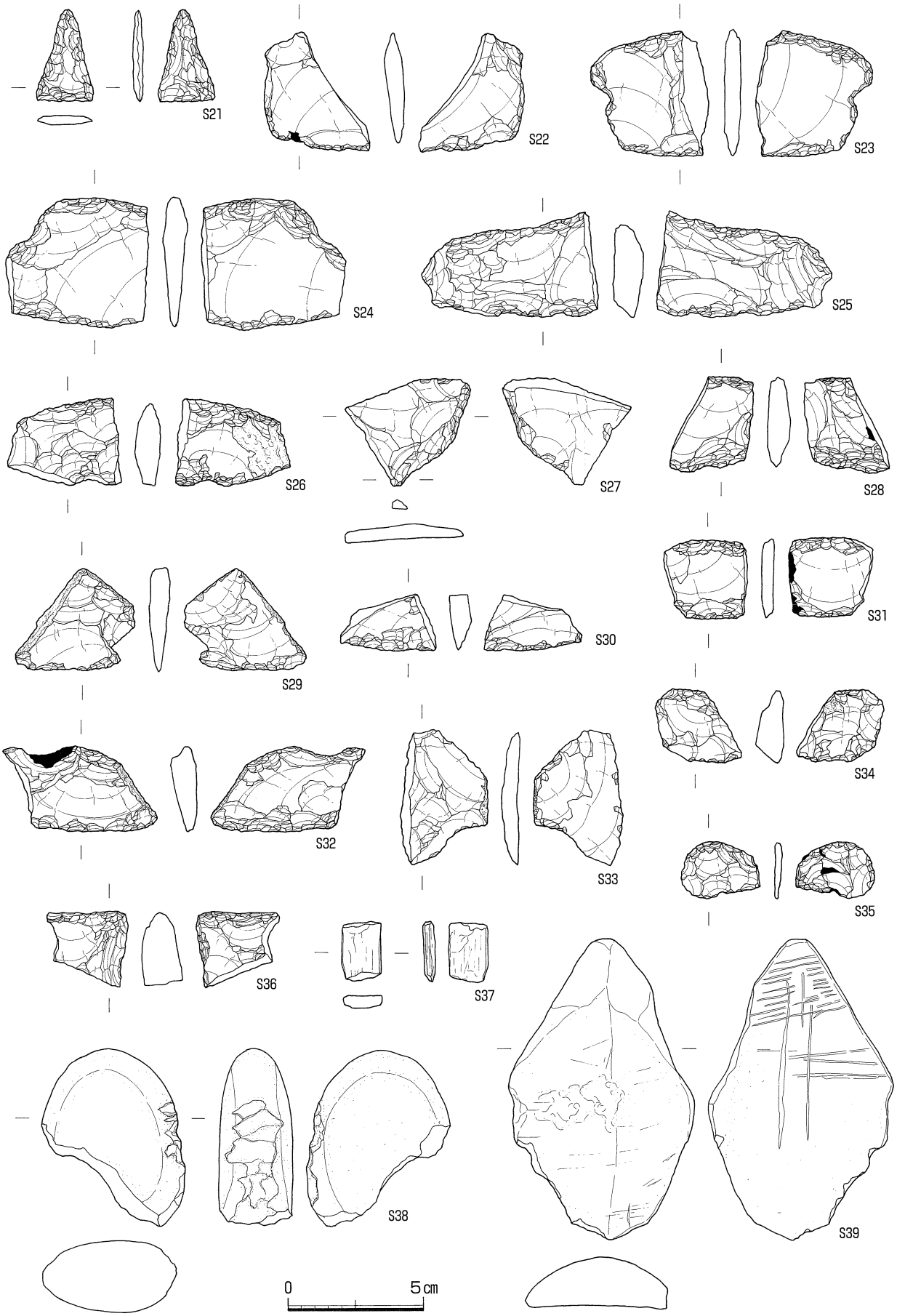
第15図　NR91001下層出土遺物実測図①



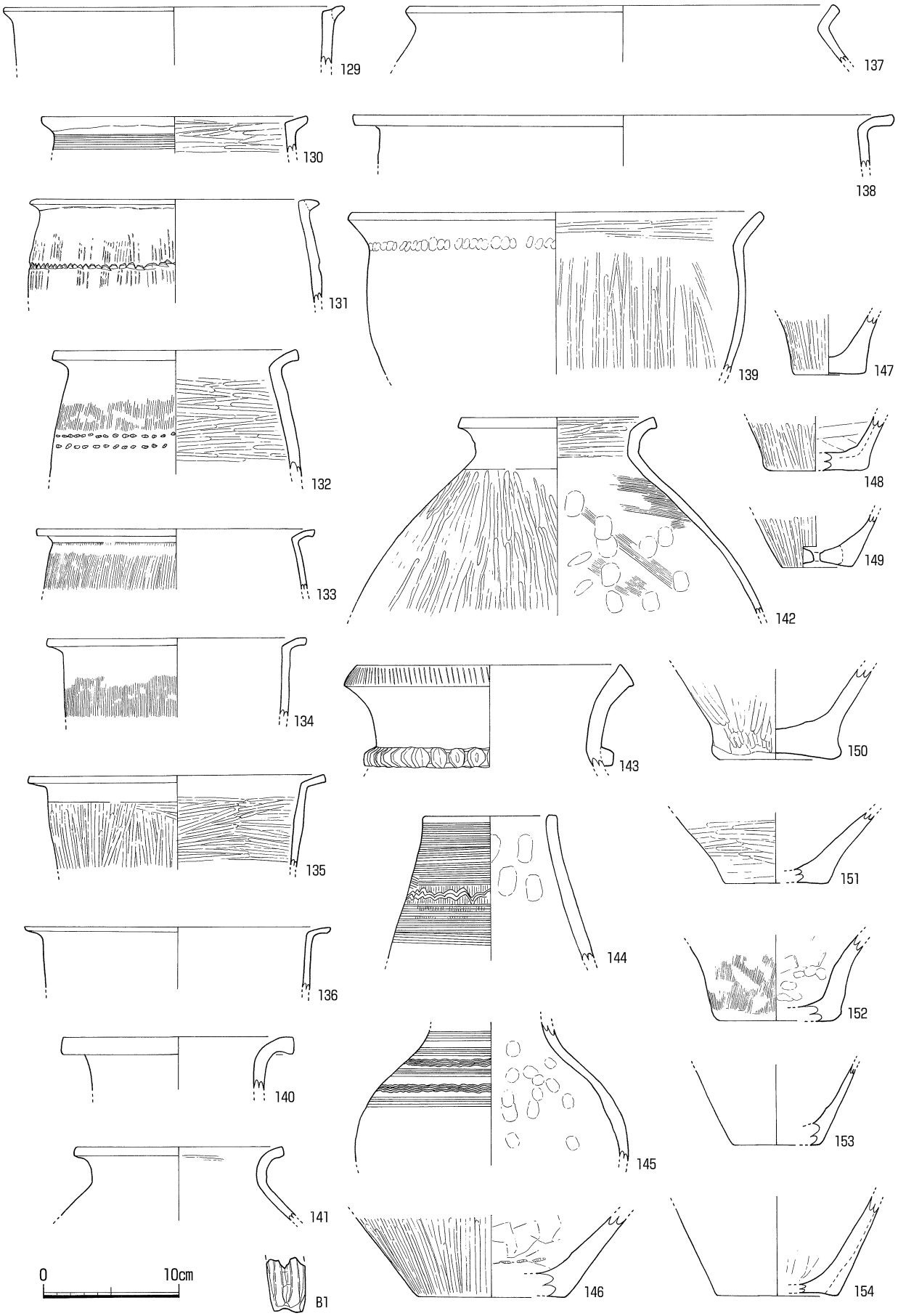
第16図　NR91001下層出土遺物実測図②



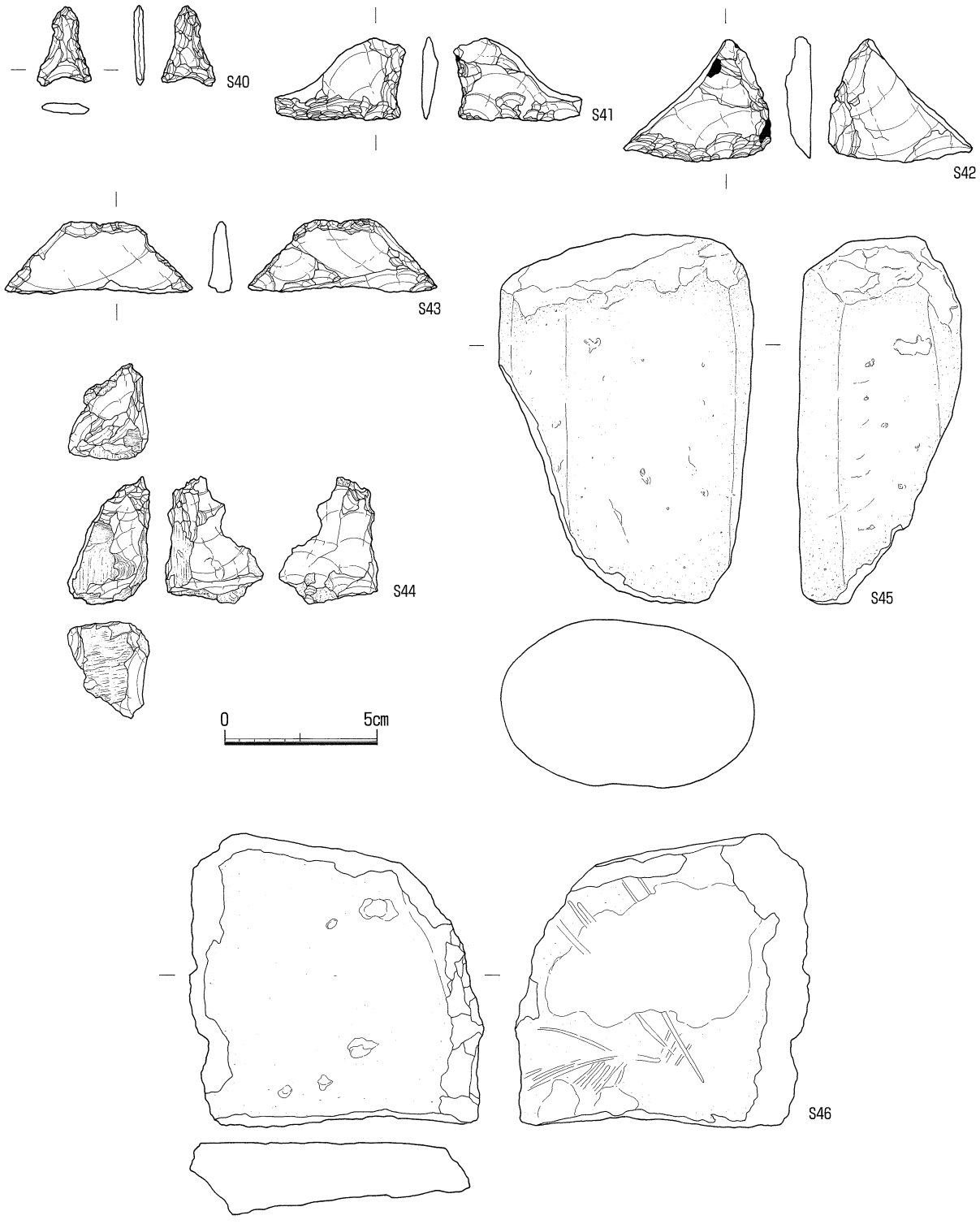
第17図　NR91001下層出土遺物実測図③



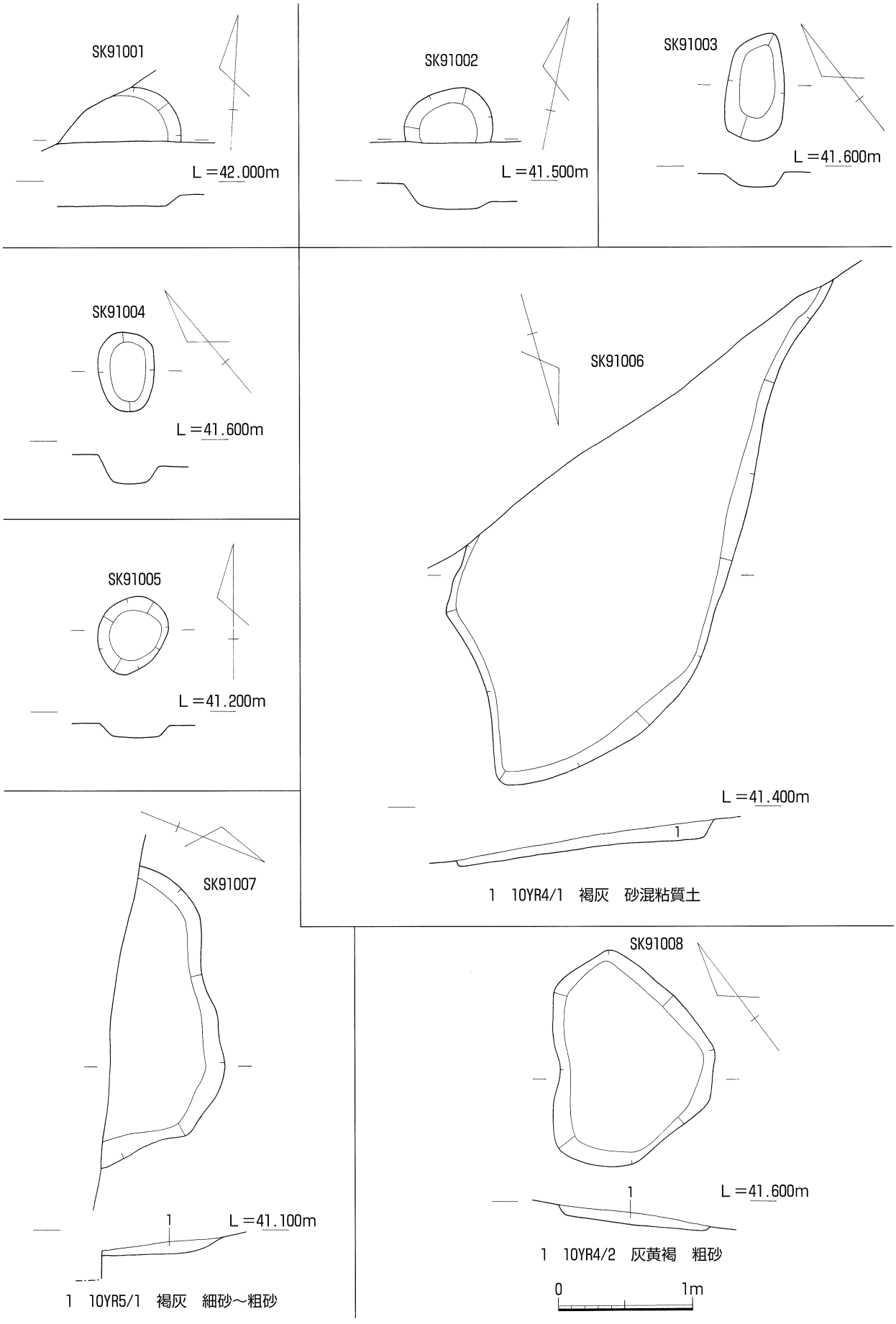
第18図　NR91001下層出土遺物実測図④



第19図　NR91001最下層出土遺物実測図①



第20図　NR91001最下層出土遺物実測図②



第21図　Ⅸ区検出遺構平・断面図①

SK91003（第21図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は隅丸長方形を呈し，長辺80cm，短辺41cm，深さ12cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK91004（第21図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径60cm，短径41cm，深さ22cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK91005（第21図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径60cm，短径48cm，深さ9cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK91006（第21図）
調査区の南西部で検出した土坑である。南半が調査区外に延びており，平面形態は不明であるが，長辺4.46m以上，短辺1.93m以上，深さ14cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK91007（第21図）
調査区の南西部で検出した土坑である。南半が調査区外に延びており，平面形態は不明であるが，長辺2.22m以上，短辺60cm以上，深さ12cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は褐灰色細砂～粗砂の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

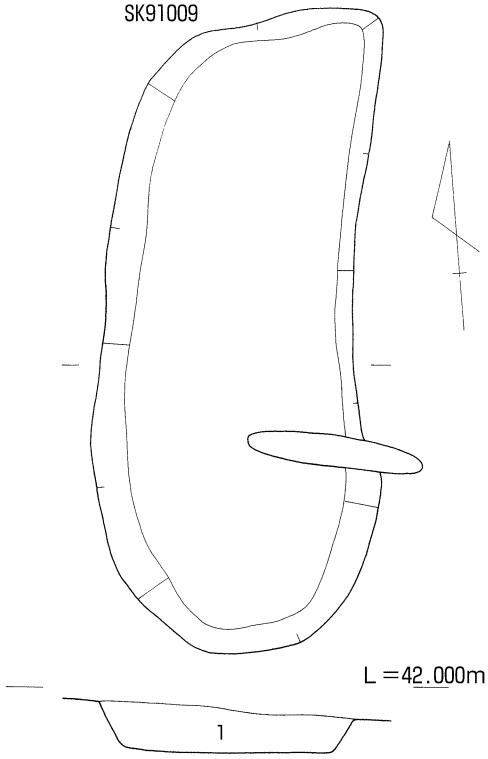
SK91008（第21図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は不整形であり，長辺1.58m以上，短辺1.12cm以上，深さ12cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色粗砂の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK91009（第22図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面形態は隅丸長方形を呈し，長辺3.45m，短辺1.36m，深さ26cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

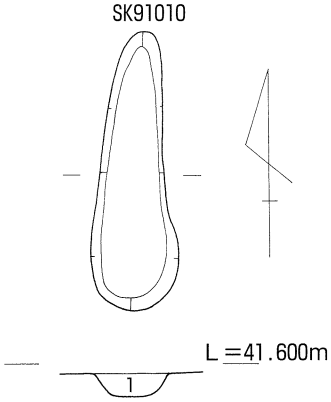
SK91010（第22図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し，長辺1.47m，短辺39cm，深さ33cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は青灰色粘土の単層である。遺物は出土していないが，埋土が近世以降の遺構と考えられるSD91006と同じであることから，同時期の遺構と考えられる。

SK91011（第22・23図）
調査区の中央部で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し，長径1.61m，短径1.48m，深さ21cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘土の単層である。
出土遺物は第23図に掲載した。155は弥生土器の広口壺で，外面は摩滅が著しいが，内面はヨコヘラミガキである。口縁部に斜格子文が施されている。156は弥生土器の底部である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

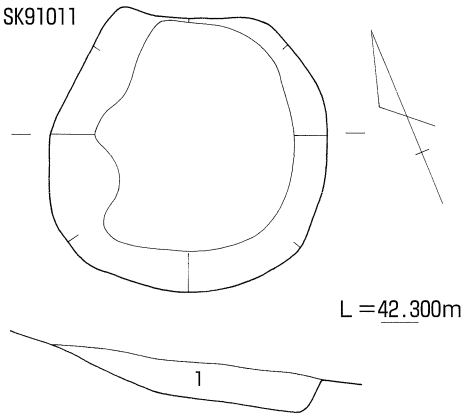
SK91012（第22図）
調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径2.00m，短径1.38m，深さ22cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。



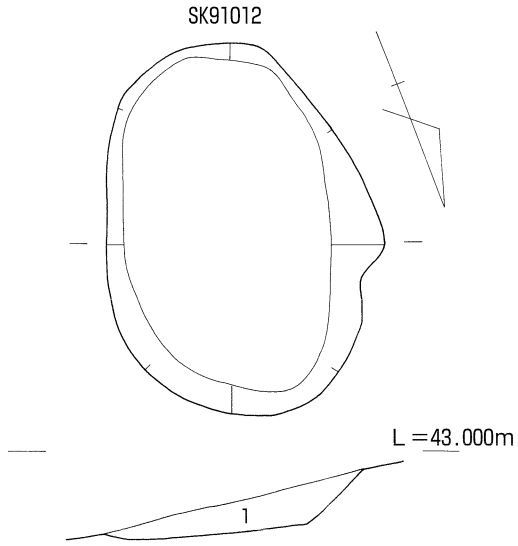
1　10YR4/2　灰黄褐　砂混粘質土



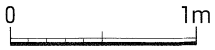
1　5BG6/1　青灰　粘土

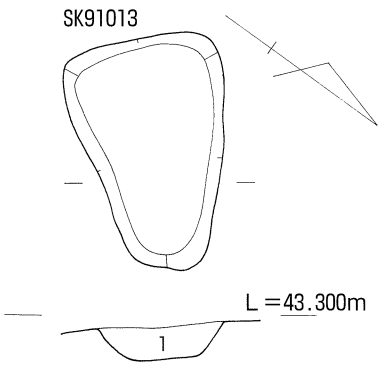


1　10YR5/2　灰黄褐　砂混粘質土

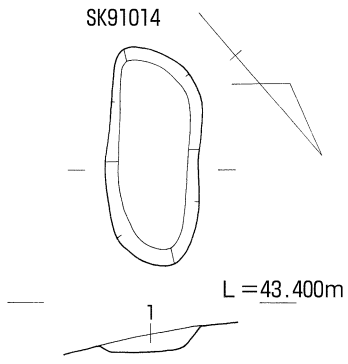


1　10YR5/2　灰黄褐　砂混粘質土

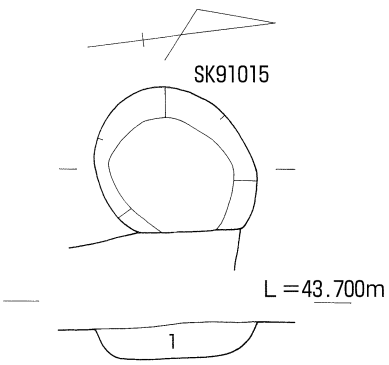




1　5BG6/1　青灰　粘土



1　5BG6/1　青灰　粘土



1　10YR3/1　黒褐　砂混粘質土

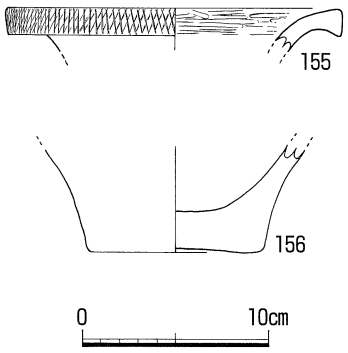
第22図　Ⅸ区検出遺構平・断面図②

SK91013（第22図）

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は台形を呈し，長辺1.26m，短辺68cm，深さ18cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は青灰色粘土の単層である。遺物は出土していないが，埋土が近世以降の遺構と考えられるSD91006と同じであることから，同時期の遺構と考えられる。

SK91014（第22図）

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は長方形を呈し，長辺1.26m，短辺68cm，深さ10cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は青灰色粘土の単層である。遺物は出土していないが，埋土が近世以降の遺構と考えられるSD91006と同じであることから，同時期の遺構と考えられる。



第23図
SK91011出土遺物実測図

SK91015（第22図）

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径93cm，短径74cm，深さ19cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK91016（第11・24図）

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径3.10m，短径2.03m，深さ18cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。

出土遺物は弥生土器の小片と包含層出土として取り扱った第11図11の木葉圧痕が見られた弥生土器底部を遺構上面で検出しており，遺構に伴う可能性も考えられる。弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK91017（第24図）

調査区の北東部で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し，長径1.38m，短径1.30m，深さ52cmを測る。断面形態は北側が一段高い2段落ちとなっており，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SD91001（第24図）

調査区の南西隅で検出した溝である。検出長6.70m，最大幅91cm，深さ27cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土していないが，西に隣接するⅢ区から延びる溝と考えられ，その西方のⅤ区検出のSD52003，さらにはその西に隣接する奥の坊権現前遺跡SD53001から連続する溝と考えられることから古代の遺構と考えられる。

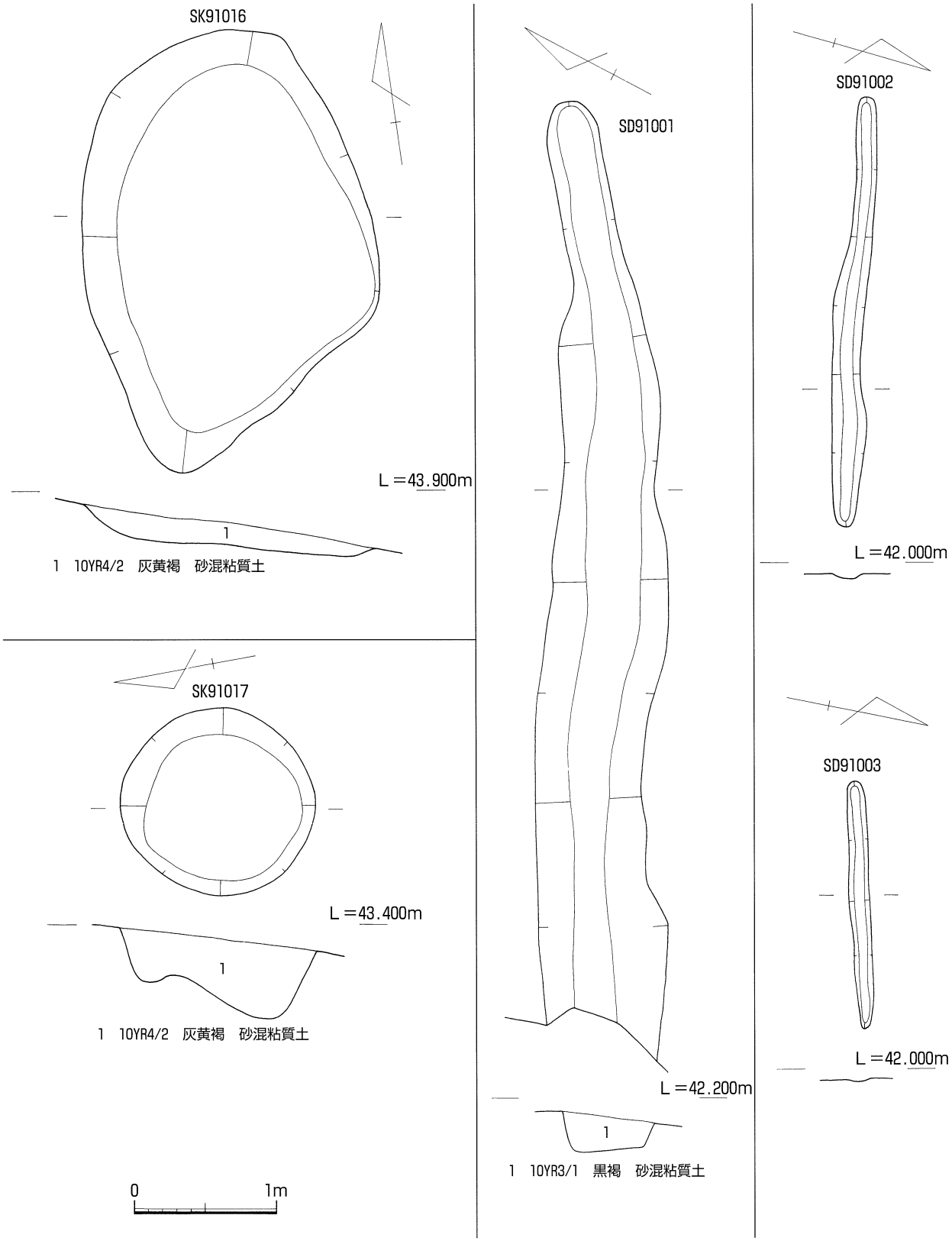
なお，奥の坊権現前遺跡SD53001は山田郡の条里地割（N－11°－E）とは異なる方位（N－5°－E）であり，山田郡北部に見られる異方位条里地割として位置づけられている。

SD91002～SD91005（第23・24図）

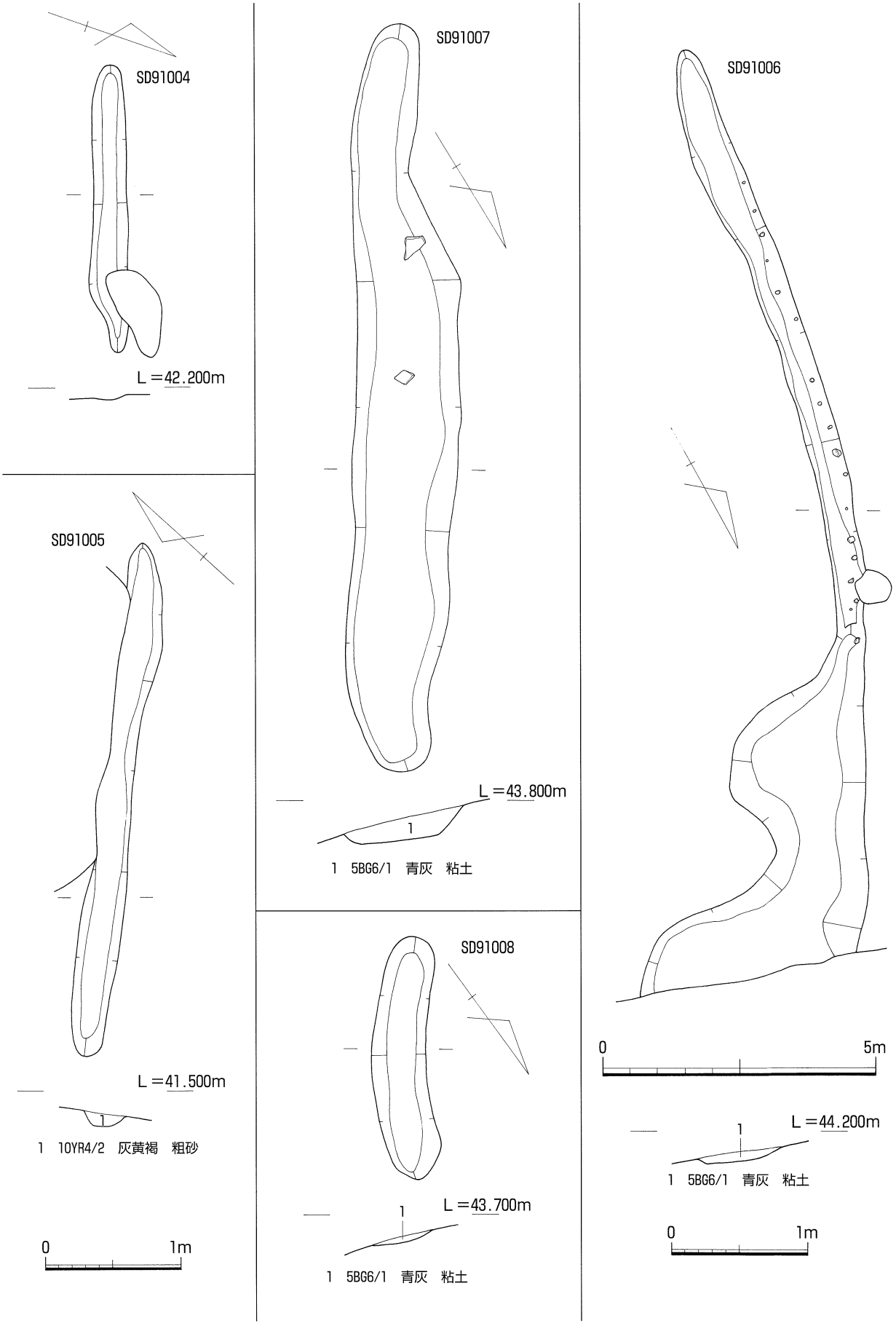
調査区の南西部で検出した溝群である。幅15～30cmを測り，浅い堆積である。SD91001とほぼ方位が同じであることから，古代の遺構と考えられる。

SD91006～SD91008（第24図）

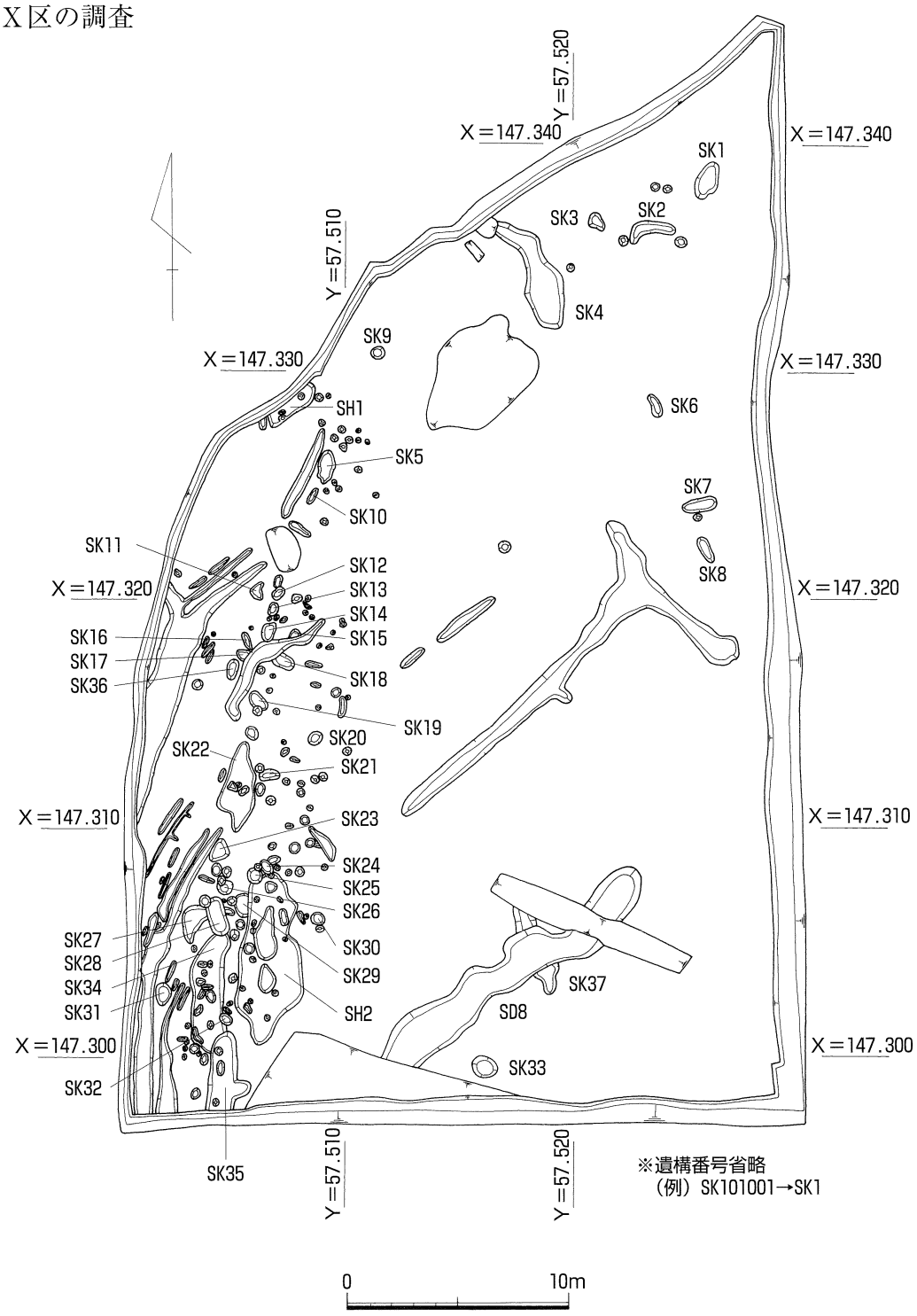
SD91006は調査区北東部で検出した溝である。北側は調査区外に延び，検出長16.70mを測る。南部の11.25mは幅60～90cm，深さ9cmを測る。西岸側に50cm程度の間隔で木杭が打設されていた。北部は1段深くなっており，深さ20cm，最大幅4mを測る。断面形状は逆台形を呈し，埋土は青灰色粘土の単層である。土師質土器の小片が出土しており，近世以降の遺構と考えられる。南東部に隣接するSD91007は検出長5.45m，幅87cm，深さ18cmを測る。SD91008は検出長1.77m，幅41cm，深さ6cmを測る。いずれも埋土はSD91006と同じ青灰色粘土の単層であり，近世以降の遺構と考えられる。



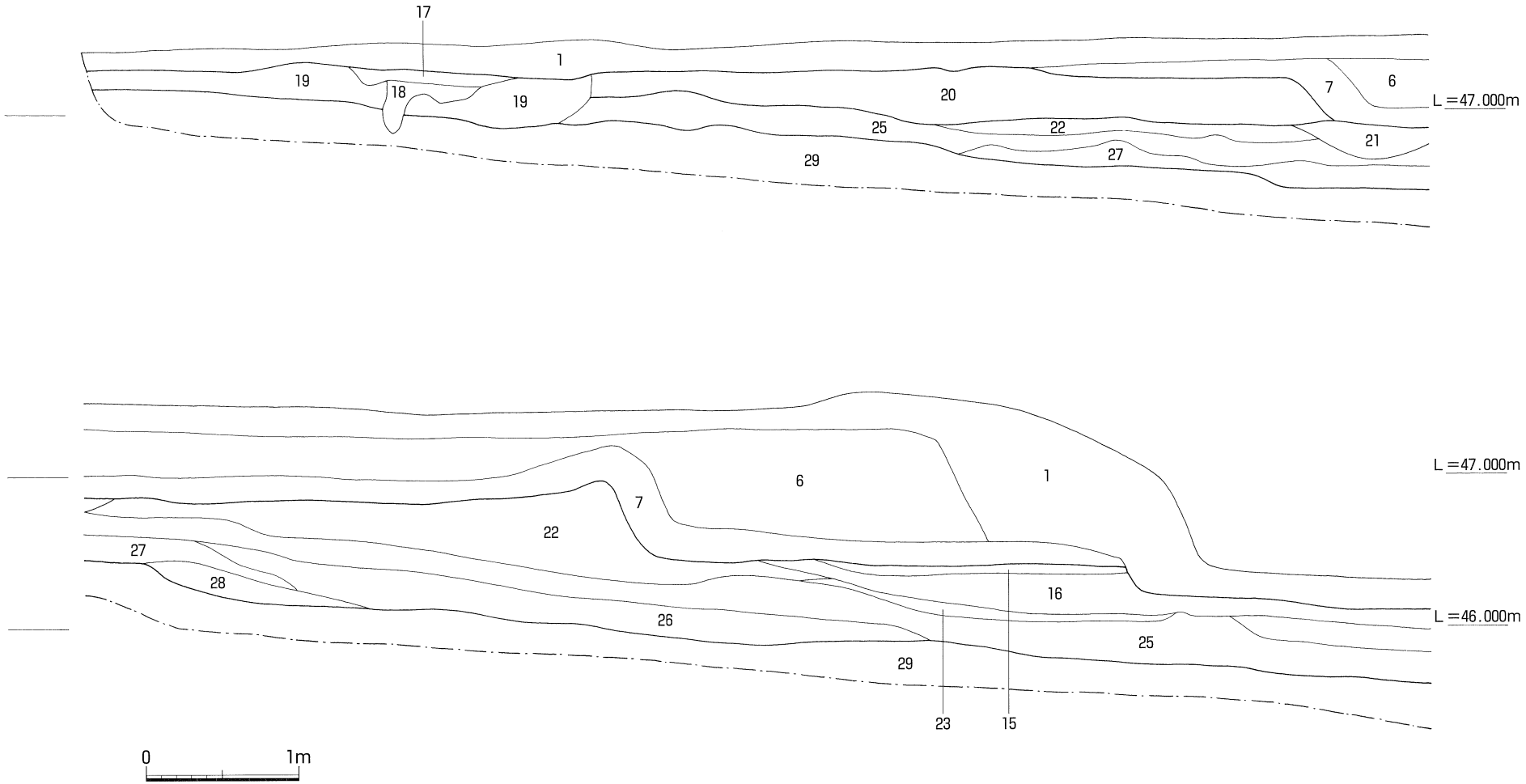
第24図　Ⅸ区検出遺構平・断面図③



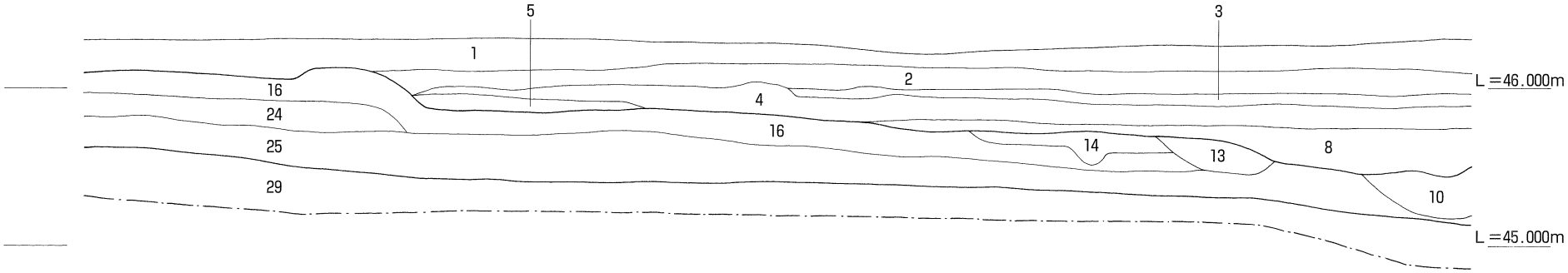
第25図　Ⅸ区検出遺構平・断面図④

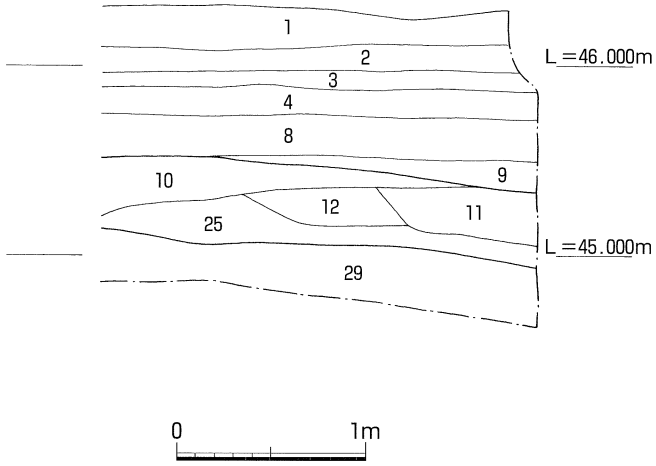


第26図　Ｘ区遺構平面図（Ｓ＝1/300）



第27図　X区東壁土層断面図①





1	10YR5/1	褐灰	砂混粘質土（耕作土）
2	7.5YR5/3	にぶい褐	砂混粘質土（旧耕作土）
3	7.5YR5/6	明褐	砂混粘質土
4	7.5YR6/2	灰褐	砂混粘質土
5	2.5Y6/3	にぶい黄	砂混粘質土
6	7.5YR5/3	にぶい褐	砂混粘質土（耕作土のブロック多く含む）
7	N6/0	灰	砂混粘質土
8	7.5YR4/1	褐灰	砂混粘質土
9	5Y7/1	灰白	砂混粘土
10	10GY5/1	オリーブ灰	砂混粘土
11	10BG5/1	青灰	粘土
12	5GY6/1	オリーブ灰	粗砂
13	2.5GY6/1	オリーブ灰	細砂
14	7.5YR4/2	灰褐	砂混粘質土
15	10YR6/6	明黄褐	砂混粘質土
16	10YR4/2	灰黄褐	砂混粘質土
17	10G4/1	暗緑灰	砂混粘質土
18	10G5/1	緑灰	砂混粘土
19	7.5Y5/1	灰	砂混粘質土
20	10YR5/2	灰黄褐	砂混粘質土
21	10YR5/3	にぶい黄褐	砂混粘質土
22	10YR6/4	にぶい黄橙	砂混粘質土
23	10YR7/3	にぶい黄橙	砂混粘質土
24	10YR4/3	にぶい黄褐	砂混粘質土
25	10YR4/1	褐灰	砂混粘質土（遺物多く含む）
26	10YR2/1	黒	細砂～粗砂
27	10YR6/1	褐灰	細砂
28	2.5Y2/1	黒	粘質シルト
29	2.5Y6/1	黄褐	粗砂（地山）

第28図　X区東壁土層断面図②

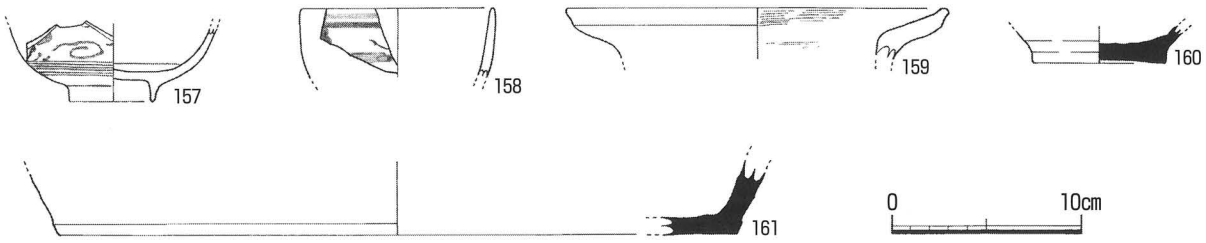
（1）調査地の概要と基本層序（第26～28図）

X区は奥の坊遺跡の集落域の中心部であるⅠ～Ⅷ区とは舌状に延びる尾根を挟んで東側に位置する。Ⅸ区同様の地形で，標高は約46～47mである。調査区の東壁において土層観察を行い，第27・28図に掲載した。層序は大きく5層に分類できる。第1～6層は現代の耕作土及び造成土で，厚い所では1mの堆積が認められる。その下部には南部では第7～9層の灰色系の砂混粘質土，北部では第15・16・20・22～24層の黄褐色から鈍い黄橙色の砂混粘質土が見られ，数次の造成による旧耕作土と考えられる。耕作土の造成に伴い，第10～14・17～19・21層の掘込みが認められる。旧耕作土の下部は褐灰色砂混粘質土で遺物包含層が10～20cm堆積している。北半の一部の下部に自然堆積層である26～28層が堆積している。その他の部分では，第29層の黄褐色粗砂の地山である。

遺構面は地山上面の1面のみである。竪穴住居と考えられる遺構2基，土坑37基，溝・ピット多数を検出した。遺構の時期は出土遺物から概ね弥生時代中期前半と近世以降の2時期を同一面で検出している。遺構面が斜面であることや近世以降の耕作により階段状に削平を受けたためか，西半は遺構が密であるが，東半は希薄である。

（2）包含層出土遺物（第29図）

第25層出土遺物を第29図に掲載した。157・158は肥前系磁器碗である。159は土師質土器の甕である。160は須恵器椀である。161は須恵器の底部である。



第29図　包含層出土遺物実測図

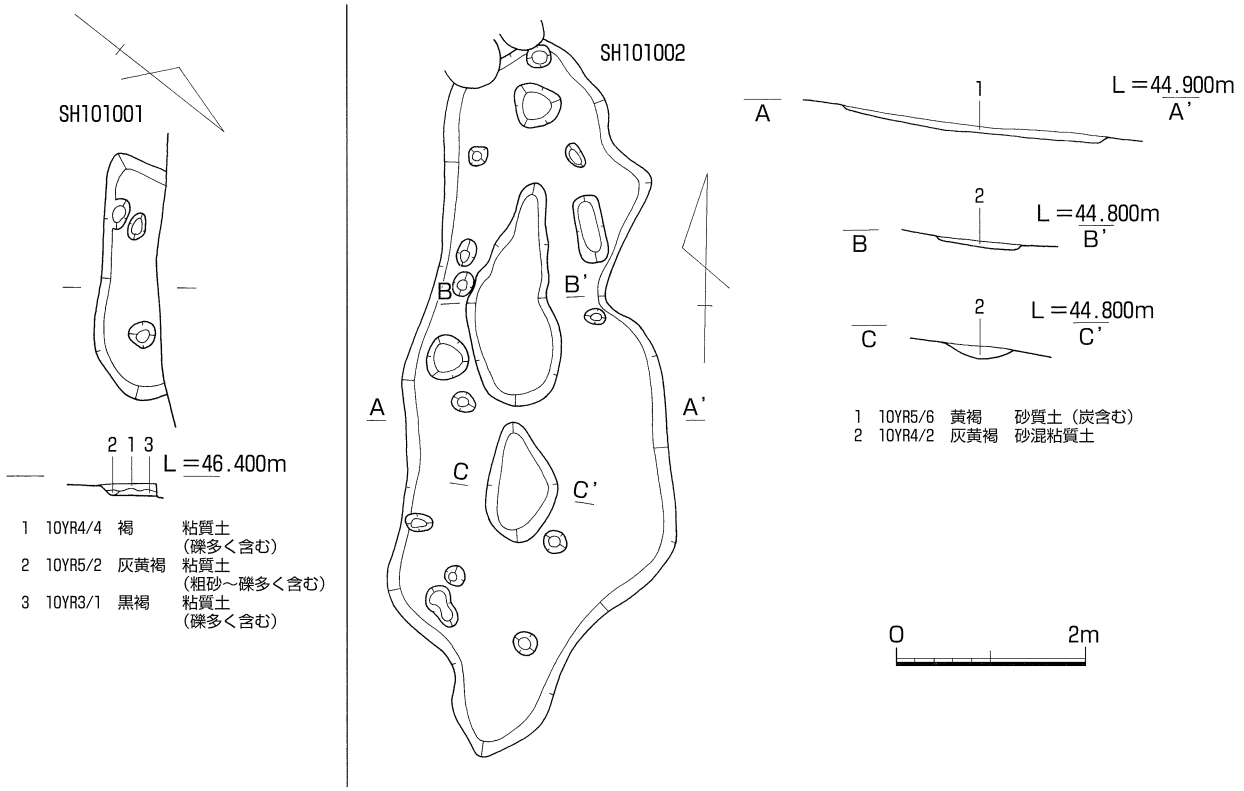
（3）遺構

SH101001（第30図）

調査区の北西隅で検出した遺構である。北半が調査区外に延び，平面形態は不明であるが，長辺2.64m，短辺56cm以上，深さ14cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は3層に分層できる。上層は礫を多く含む褐色粘質土，下層は礫を多く含む黒褐色粘質土で，壁際のみに粗砂～礫を多く含む灰黄褐色粘質土が約20cmの幅で下層を掘り込むように見られた。遺構底面において径約30cmのピット3基を検出した。壁溝状の掘り込みと底面に所在するピットの存在から竪穴住居の可能性が考えられる。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SH101002（第30図）

調査区の南西部で検出した遺構である。平面形態は不整形で，長辺7.60m，短辺1.84m以上，深さ12cmを測る。薄い堆積であり，埋土は炭を含む黄褐色砂質土の単層である。遺構底面中央部で土坑2基を検出した。北側に所在する大型の土坑は不整形であるが，長辺2.36m，短辺78cm，深さ8cmを測る。薄い堆積で灰黄褐色砂混粘質土の単層である。南側に所在する小型の土坑は楕円形を呈し，長径1.28m，短径68cm，深さ16cmを測る。断面形態はU字を呈し，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。同じく遺構底面では中央の2基の土坑を取り巻くように20～50cmのピット14基を検出している。やや不整形ではあるが，中央土坑とそれを取り巻くピットの存在から竪穴住居の可能性が考えられる。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第30図　X区検出遺構平・断面図①

SK101001（第31図）

調査区の北東部で検出した土坑である。平面形態は一部欠けた楕円形を呈し，長径1.68m，短径94cm，深さ13cmを測る。断面形態は浅いレンズ状を呈し，埋土は礫を多く含む黒褐色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101002（第31図）

調査区の北東部で検出した土坑である。平面形態はＬ字の溝状を呈し，長辺2.03m，短辺58cm，深さ18cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101003（第31図）

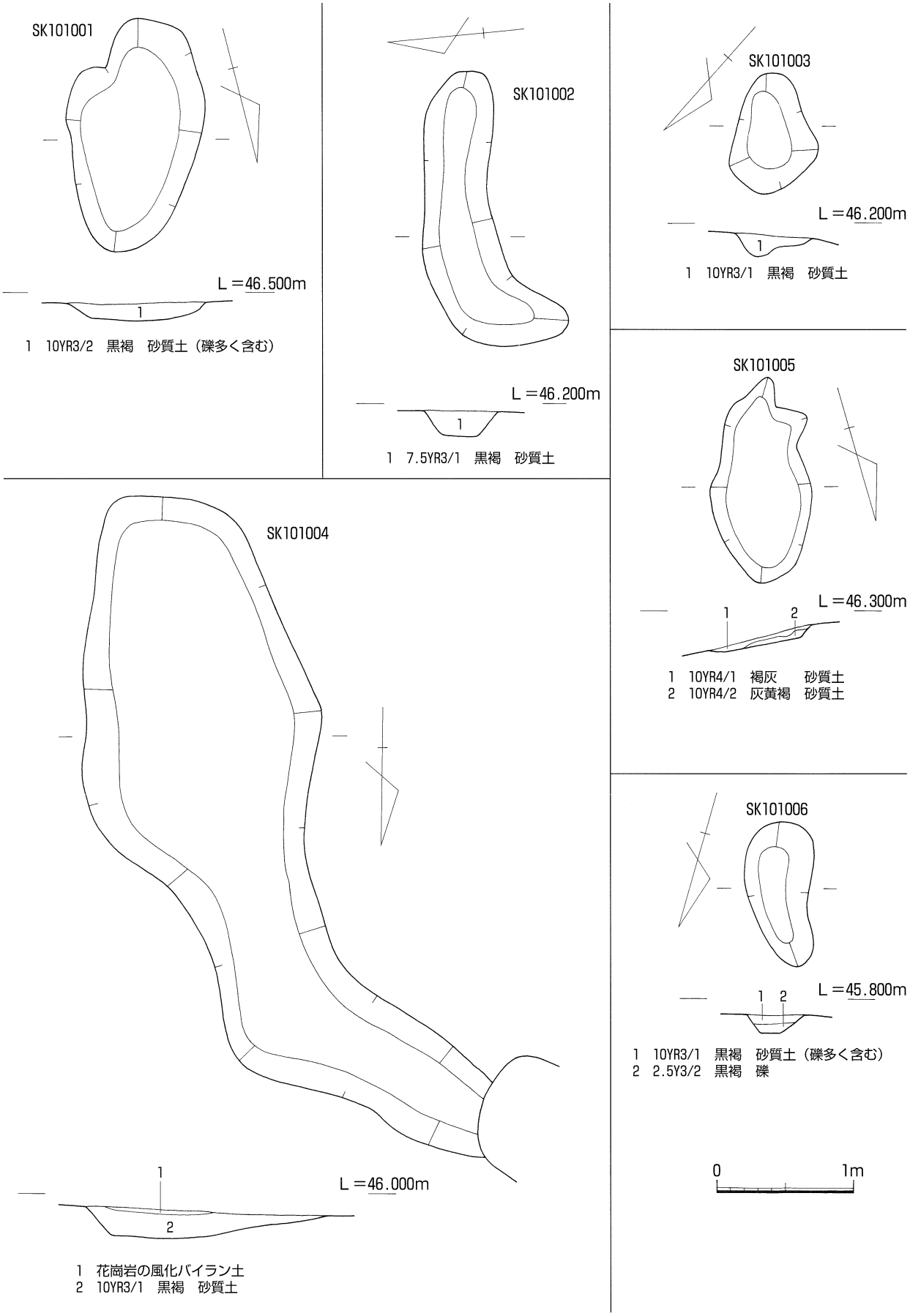
調査区の北東部で検出した土坑である。平面形態はやや不整形な楕円形を呈し，長径88cm，短径62cm，深さ15cmを測る。断面形態はＵ字で，西側が2段落ちとなっており，埋土は黒褐色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101004（第31図）

調査区の北東部で検出した土坑である。北端は攪乱を受けているが，平面形態は溝状を呈し，長辺5.48m以上，短辺1.78m，深さ23cmを測る。断面形態は西側が緩やかに落ち込むのに対し，東側はやや急に落ち込んでおり，埋土は2層に分層できる。上層は花崗岩の風化バイラン土で，下層は黒褐色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101005（第31図）

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態はやや不整形な楕円形を呈し，長径1.50m，短径74cm，深さ9cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂質土，下層は灰黄褐色砂質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。



第31図　X区検出遺構平・断面図②

SK101006（第31図）
調査区の北東部で検出した土坑である。平面形態はやや不整形な楕円形を呈し，長径1.05m，短径52cm，深さ13cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は礫を多く含む黒褐色砂質土，下層は黒褐色礫である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101007（第32図）
調査区の北東部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径1.14m，短径44cm，深さ9cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は黒褐色砂質土，下層は礫を多く含む黒褐色砂質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101008（第32図）
調査区の北東部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径1.08m，短径56cm，深さ12cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は黒褐色砂質土，下層は礫を多く含む灰黄褐色砂質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101009（第32図）
調査区の中央部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径58cm，短径50cm，深さ13cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は黒褐色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101010（第32図）
調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し，長辺76cm，短辺25cm，深さ4cmを測る。浅い堆積で，埋土は黒褐色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

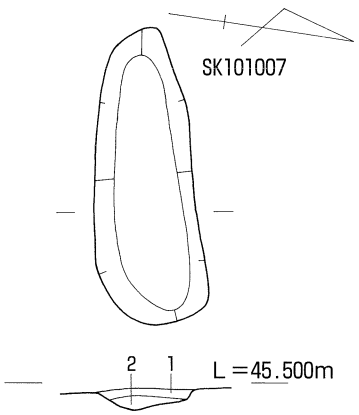
SK101011（第32図）
調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は不整形であり，長辺80cm，短辺65cm，深さ12cmを測る。断面形態は半円形を呈し，埋土は黒褐色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101012（第32図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径60cm，短径42cm，深さ10cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂質土，下層は礫を含むにぶい黄褐色砂質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

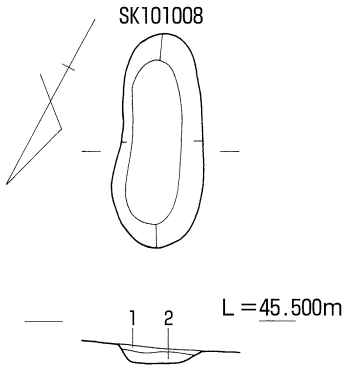
SK101013（第32図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径65cm，短径44cm，深さ20cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は3層に分層できる。上層は灰黄褐色砂質土，中層は礫を含む褐灰色砂質土，下層はにぶい黄褐色粘質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101014（第32図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面形態は隅丸長方形を呈し，長辺90cm，短辺53cm，深さ20cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂質土，下層はにぶい黄褐色粘質土である。遺物は出土していないが，近世以降の遺構と考えられるSD101006を切っていることから，近世以降の遺構と考えられる。

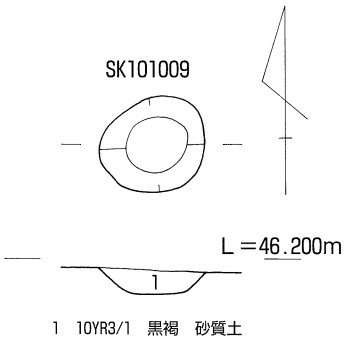
SK101015（第32図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。南半がSD101006に切られており平面形態は不明であるが，長辺60cm以上，短辺36cm以上，深さ11cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂質土，下層は灰黄褐色砂質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，SD101006に切られていることから，近世以前の遺構と考えられる。



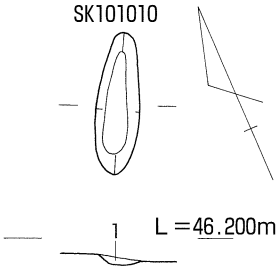
1 10YR2/2 黒褐 砂質土
2 10YR3/1 黒褐 砂質土（礫多く含む）



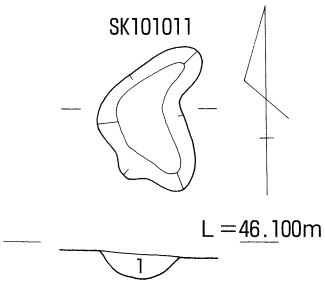
1 10YR3/1 黒褐 砂質土
2 10YR4/2 灰黄褐 砂質土（礫多く含む）



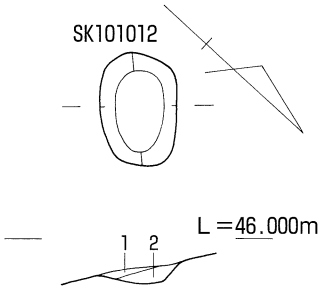
1 10YR3/1 黒褐 砂質土



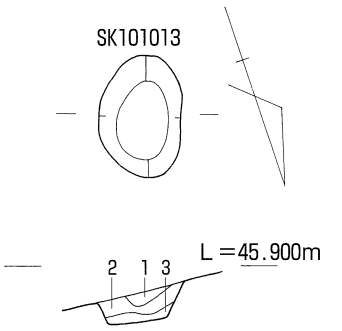
1 10YR3/1 黒褐 砂質土



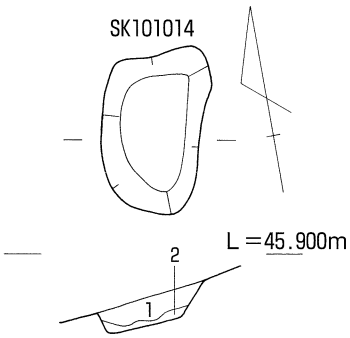
1 10YR3/1 黒褐 砂質土



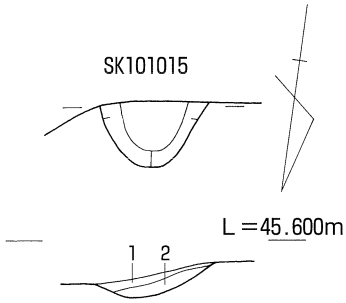
1 10YR4/1 褐灰 砂質土
2 10YR5/3 にぶい黄褐 砂質土（礫含む）



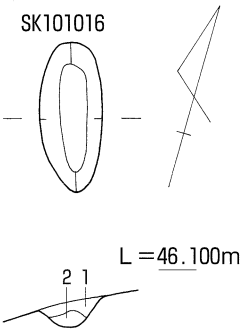
1 10YR5/2 灰黄褐 砂質土
2 10YR4/1 褐灰 砂質土（礫含む）
3 10YR5/4 にぶい黄褐 粘質土



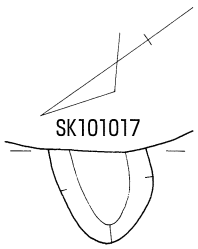
1 7.5YR4/1 褐灰 砂質土
2 10YR5/3 にぶい黄褐 粘質土



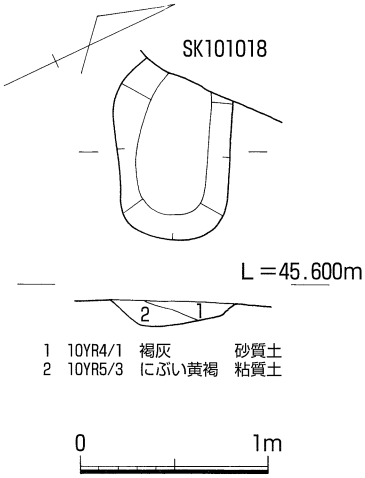
1 10YR4/1 褐灰 砂質土（礫含む）
2 10YR5/2 灰黄褐 砂質土



1 10YR4/1 褐灰 砂質土
2 10YR4/3 にぶい黄褐 粘質土



1 7.5YR4/1 褐灰 砂質土
2 10YR5/4 にぶい黄褐 粘質土



1 10YR4/1 褐灰 砂質土
2 10YR5/3 にぶい黄褐 粘質土

第32図　X区検出遺構平・断面図③

SK101016（第32図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径80cm，短径34cm，深さ14cmを測る。断面形態はU字を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂質土，下層はにぶい黄褐色粘質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101017（第32図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。東半がSD101006に切られているが，平面形態は楕円形を呈すると考えられ，長径50cm以上，短径50cm，深さ12cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂質土，下層はにぶい黄褐色粘質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，近世以降の遺構と考えられるSD101006に切られていることから，それ以前の遺構と考えられる。

SK101018（第32図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。東半がSD101006に切られているが，平面形態は隅丸長方形を呈すると考えられ，長辺98cm以上，短辺59cm，深さ14cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は褐灰色砂質土，下層はにぶい黄褐色粘質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，近世以降の遺構と考えられるSD101006に切られていることから，それ以前の遺構と考えられる。

SK101019（第33図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径1.01m，短径57cm，深さ10cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は灰黄褐色砂質土，下層はにぶい黄褐色砂質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，遺構中央に近世以降の杭跡が見られることから，近世以前の遺構と考えられる。

SK101020（第33図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径66cm，短径48cm，深さ18cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は灰黄褐色砂質土，下層は礫を含む褐灰色砂質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101021（第33図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径90cm，短径48cm，深さ24cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は礫を含む灰黄褐色砂質土，下層は褐灰色砂質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101022（第33図）
調査区の西部中央で検出した土坑である。平面形態は不整形を呈し，長辺4.06m，短辺1.28cm，深さ12cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は3層に分層できる。上層は褐灰色砂質土，下層は礫を含む灰黄褐色砂質土である。遺構中央部分のみ埋土が異なり，礫を含むにぶい黄褐色砂質土が見られる。土坑底面の中央部には3基のピットが認められた。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK101023（第33図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は隅丸三角形を呈し，長辺1.15m，短辺78cm，深さ16cmを測る。断面形態は西側が2段落ちになっており，埋土は2層に分層できる。上層はにぶい黄褐色砂質土，下層は灰黄褐色砂質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101024（第33図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径67cm，短径45cm，深さ6cmを測る。浅い堆積であり，埋土は褐灰色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である

が，弥生時代中期前半の遺構であるSH101002を切っており，それ以降の遺構と考えられる。

SK101025（第33図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し，長径68cm，短径62cm，深さ15cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し，埋土は褐灰色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，弥生時代中期前半の遺構であるSH101002を切っており，それ以降の遺構と考えられる。

SK101026（第33図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径70cm，短径58cm，深さ28cmを測る。断面形態はU字を呈し，埋土は褐灰色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101027（第33図）
調査区の南西部で検出した土坑である。SK101028に切られているが，平面形態は三日月形を呈すると考えられ，長辺1.58m以上，短辺90cm，深さ22cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層はにぶい褐色砂質土，下層は灰褐色砂質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK101028（第33図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は隅丸長方形を呈し，長辺1.72m，短辺84cm，深さ10cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層はにぶい褐色砂質土，下層はにぶい橙色砂質土である。弥生土器の小片が出土しており，弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK101029（第33図）
調査区の南西部で検出した土坑である。SH101002に切られているが，平面形態は楕円形を呈すると考えられ，長径67cm，短径45cm以上，深さ6cmを測る。浅い堆積であり，埋土はにぶい褐色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，弥生時代中期前半の遺構であるSH101002に切られていることから，それ以前の遺構と考えられる。

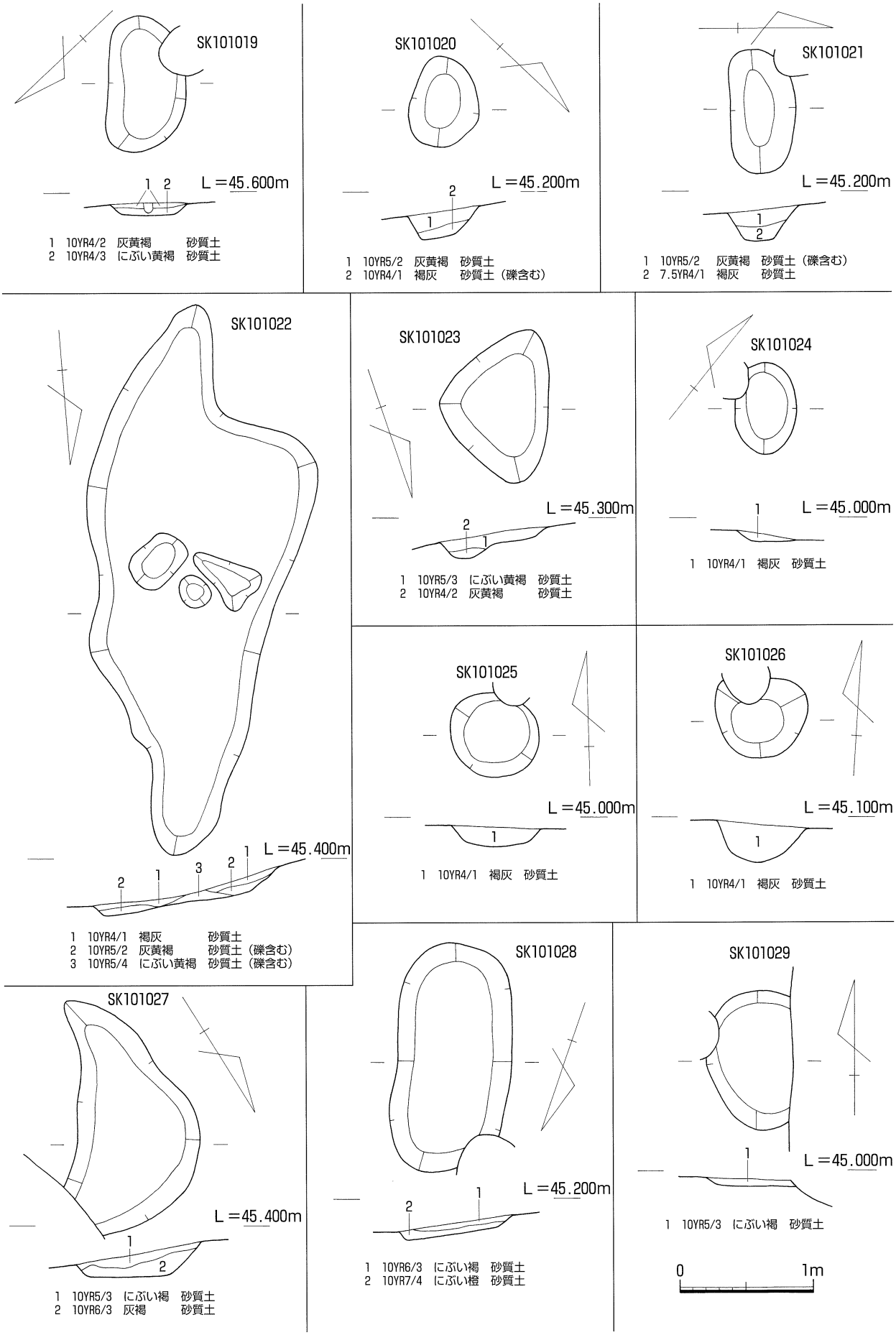
SK101030（第34図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し，長径56cm，短径53cm，深さ3cmを測る。浅い堆積であり，埋土はにぶい褐色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101031（第34図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径1.01m，短径66cm，深さ13cmを測る。断面形態は西側が逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は灰黄褐色砂質土，下層はにぶい黄褐色砂質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

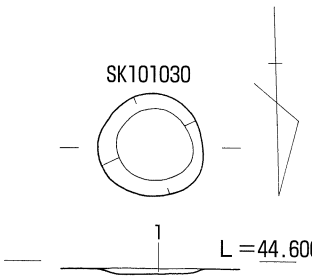
SK101032（第34図）
調査区の南西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径56cm，短径43cm，深さ4cmを測る。浅い堆積であり，埋土はにぶい褐色砂質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。弥生時代中期前半の遺構と考えられるSK101034を切っており，それ以降の遺構と考えられる。

SK101033（第34図）
調査区の南部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径1.09m，短径92cm，深さ26cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し，埋土はにぶい黄橙色の花崗岩の風化バイラン土の単層である。須恵器片が出土しており，古代の遺構と考えられる。

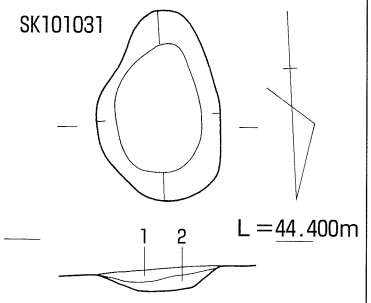
SK101034（第34図）
調査区の南西部で検出した土坑である。SK101032及びSK101035に切られているが，平面形態は溝状を



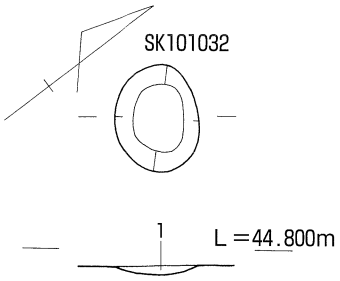
第33図　X区検出遺構平・断面図④



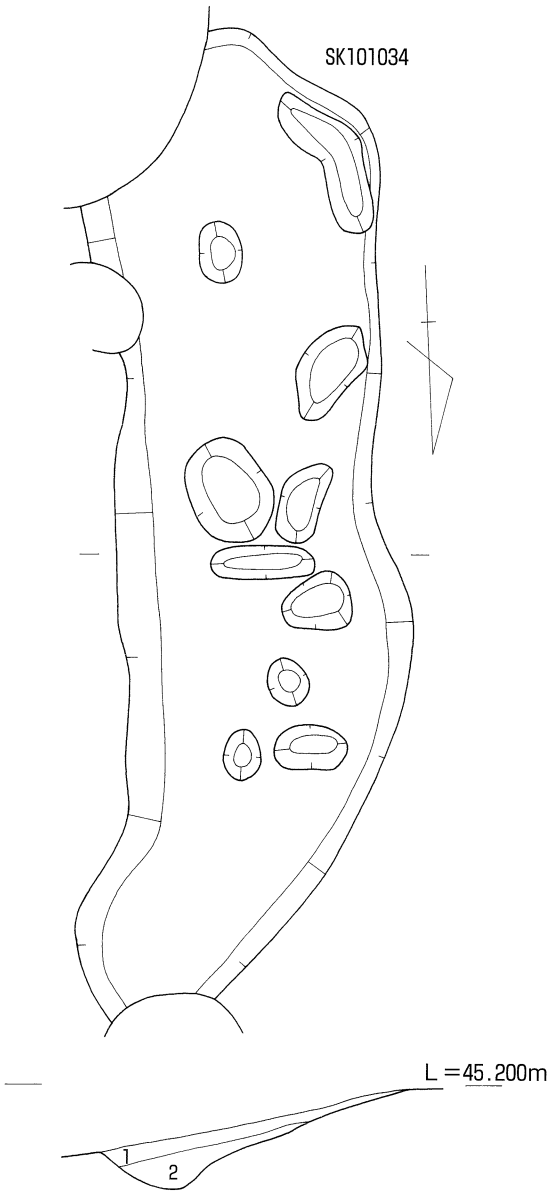
1　10YR5/3　にぶい褐　砂質土



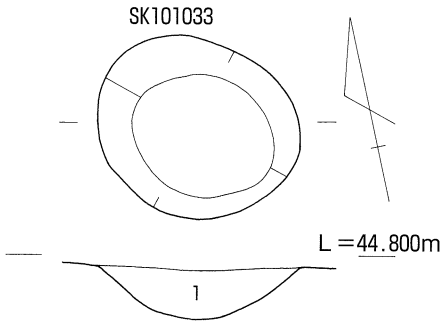
1　10YR5/2　灰黄褐　砂質土
2　10YR5/3　にぶい黄褐　砂質土



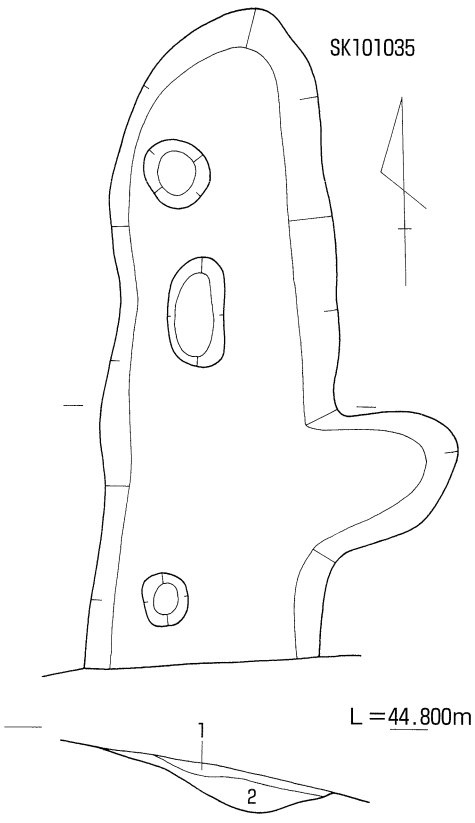
1　10YR5/3　にぶい褐　砂質土



1　10YR7/4　にぶい黄褐　砂質土（炭・焼土含む）
2　10YR5/2　灰黄褐　砂質土

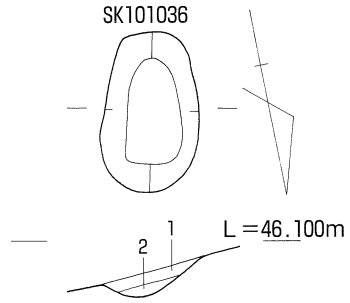


1　10YR7/4　にぶい黄橙　花崗岩の風化バイラン土

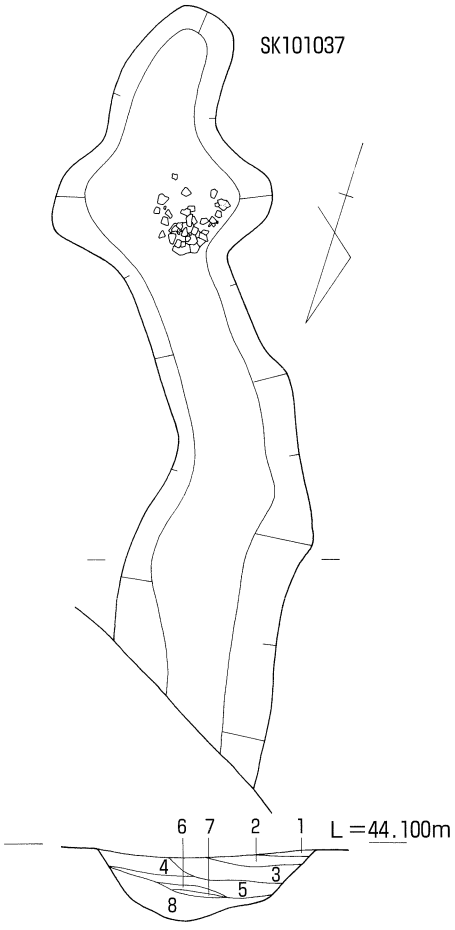


1　10YR5/4　にぶい黄褐　砂質土
2　10YR4/4　褐　砂質土

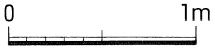
第34図　X区検出遺構平・断面図⑤

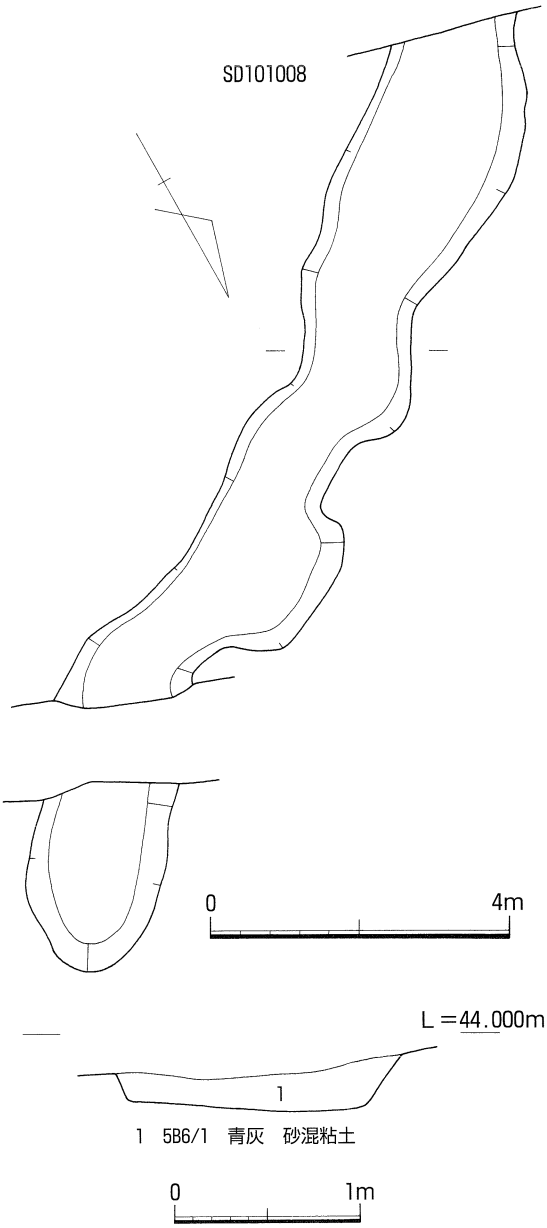


1　10YR4/2　灰黄褐　　砂質土
2　10YR5/3　にぶい黄褐　砂混粘質土



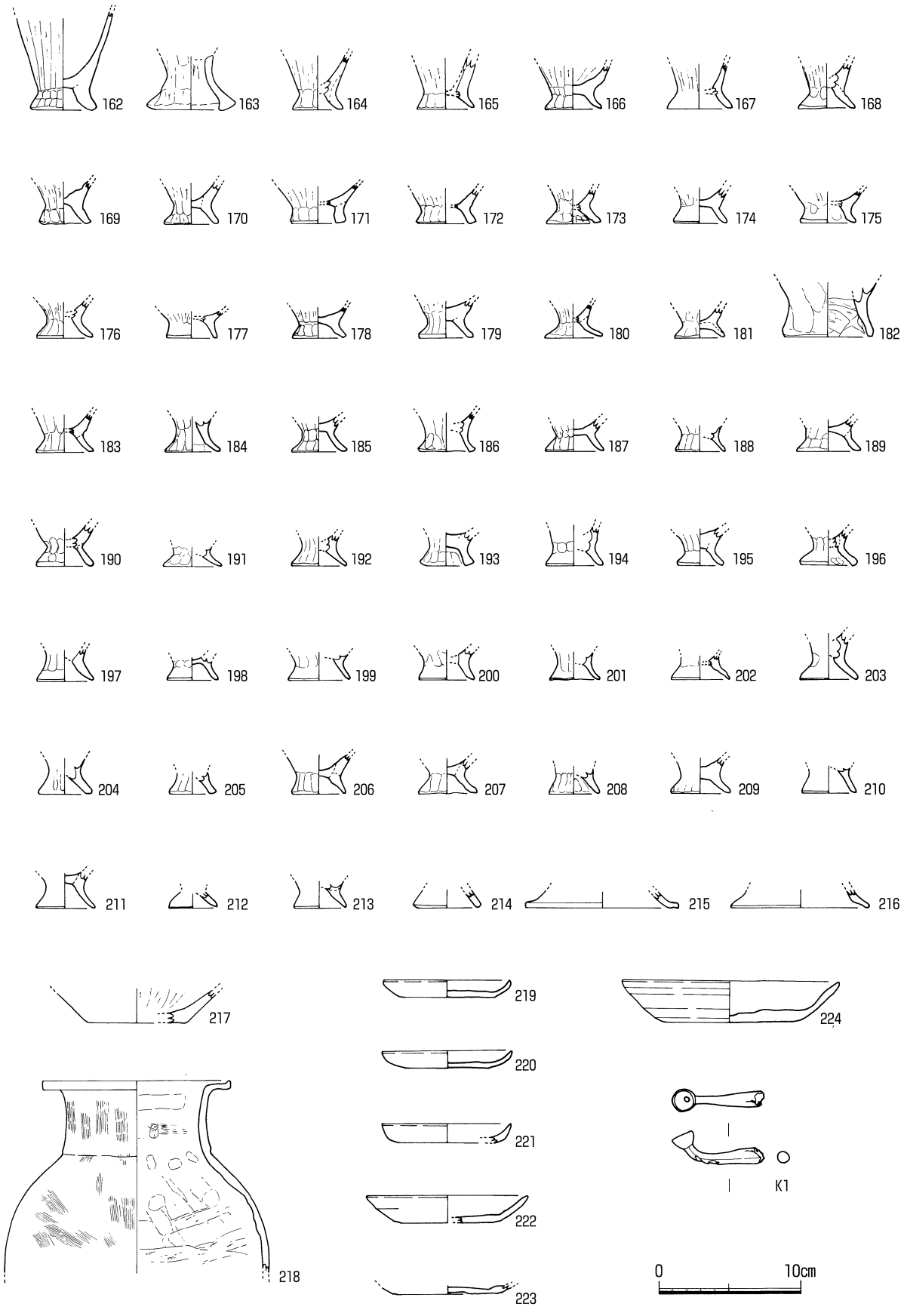
1　7.5Y7/1　灰白　　粗砂
2　2.5GY3/1　暗オリーブ灰　砂混粘土
3　2.5GY7/1　明オリーブ灰　細砂～粗砂
4　5B4/1　暗青灰　　細砂～粗砂
5　7.5GY3/1　暗緑灰　　細砂～粗砂
6　2.5GY5/1　オリーブ灰　シルト
7　5GY4/1　暗オリーブ灰　粘土
8　2.5GY4/1　暗オリーブ灰　砂混粘質土（弥生土器群）





1　5B6/1　青灰　砂混粘土

第35図　X区検出遺構平・断面図⑥



第36図　SK101037出土遺物実測図

呈し，長辺5.17m，短辺1.38m，深さ28cmを測る。緩斜面の地形に添って存在し，遺構は斜面上部では緩やかに落ち込んでいき，東端部分で急に落ち込み最深部となる。埋土2層に分層できる。上層は炭と焼土を含むにぶい黄褐色砂質土，下層は灰黄褐色砂質土である。遺構底面ではピット10基を検出したが，遺構に伴うものかどうかは不明である。近世以降の溝群と同じように緩斜面地形に添った遺構であり，最深部分が溝状になることから，近世の耕作に伴う遺構とも考えられるが，他の近世の遺構と埋土が異なることからその可能性は低い。弥生土器の小片が出土していることから，弥生時代中期前半の遺構の可能性が高いと考えられる。

SK101035（第34図）

調査区の南西端で検出した土坑である。南半は調査区外に延びるが，平面形態は溝状を呈し，長辺3.50m以上，短辺1.24m，深さ22cmを測る。SK101034同様，緩斜面の地形に添って存在し，遺構は斜面上部では緩やかに落ち込んでいき，東端部分で急に落ち込み最深部となる。埋土2層に分層できる。上層はにぶい黄褐色砂質土，下層は褐色砂質土である。SK101034同様，近世の遺構の可能性も考えられるが，弥生土器の小片が出土していることから，弥生時代中期前半の遺構の可能性が高いと考えられる。

SK101036（第35図）

調査区の西部中央で検出した土坑である。平面形態は隅丸長方形を呈し，長辺86cm，短辺49cm，深さ12cmを測る。断面形態は逆台形を呈し，埋土は2層に分層できる。上層は灰黄褐色砂質土，下層はにぶい黄褐色砂混粘質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK101037（第35・36図）

調査区の南部中央で検出した土坑である。SD101008に切られているが，平面形態は溝状を呈し，長辺4.16m以上，短辺55cm，深さ34cmを測る。断面形態はU字を呈し，埋土は8層に分層できる。第1層は灰白色粗砂，第2層は暗オリーブ灰色砂混粘土，第3層は明オリーブ灰色細砂～粗砂，第4層は暗青灰色細砂～粗砂，第5層は暗緑灰色細砂～粗砂，第6層はオリーブ灰色シルト，第7層は暗オリーブ灰色粘土，第8層は暗オリーブ灰色砂混粘質土である。

出土遺物は第36図に掲載した。162～214は弥生土器の製塩土器である。215・216は弥生土器の脚部である。217は弥生土器の底部である。218は弥生土器の広口壺である。いずれも弥生時代後期前半から中葉の遺物である。219～224は土師器の皿である。K1は煙管である。このほか図示できなかったが，陶磁器や土師質土器など多数見られ，近世の遺物も多く見られることから近世の遺構と考えられる。

一方，弥生時代後期前半から中葉の遺物は主に下層で出土しており，遺構南端部分のやや膨れた部分ではまとまって出土している。当初，SK101037南端部分に同時期の遺構があり，SK101037により攪乱された可能性が考えられる。

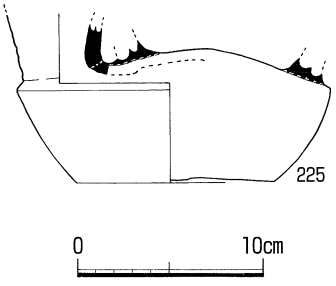
近世以降の溝群（第26・35図）

調査区内に見られる溝で最も規模の大きいSD101008は幅2.14m深さ30cm，検出長14.05mを測る。埋土は青灰色砂混粘土の単層である。Ⅸ区SD91006の延長部分であり，近世以降の遺構と考えられる。その他の溝もSD101008に平行するように所在し，埋土も同じである。陶磁器片等も出土していることから近世以降の溝群と考えられる。

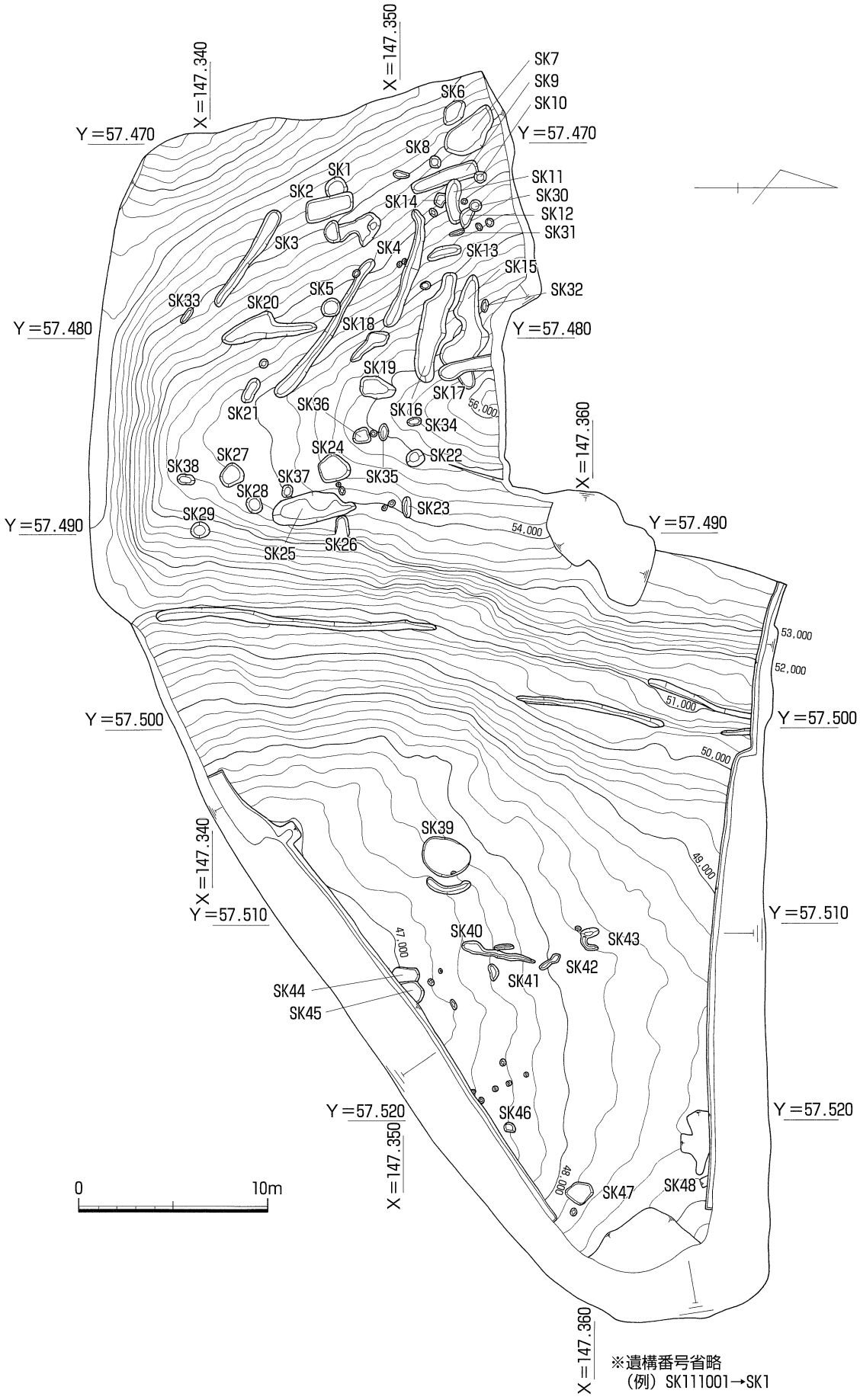
第４節　XI区の調査

（１）調査地の概要と基本層序（第37・38図）

XI区は奥の坊遺跡の北東端に位置する。西半は舌状に延びる標高53～56mの尾根となっており，この尾根によって西側に所在する集落の中心部と隔絶される。東半は，現状では標高50.5mの平坦面となっており，「元屋敷」という地名から，屋敷地であったことがうかがえるが，旧地形は調査区の東側に所在するもう1つの舌状の尾根との間の南向きの緩斜面となっており，谷状の地形である。遺構面の標高は47～49mであり，尾根との比高差は7mである。



第37図
XI区包含層出土遺物実測図



第38図　XI区遺構平面図（S＝1/300）

尾根部分は約20cmの表土層の直下が地山となっている。一方，谷部分は壁面の崩落により詳細な観察はできなかったが，約1mの造成土の下部に，約1mにわたって数次の旧耕作土が見られる。さらにその下部に約1.5mにわたって谷地形の埋没層である黒褐色砂混粘質土が堆積しており，その下部が黄褐色粗砂の地山となっていた。第37図225は谷埋没層の黒褐色砂混粘質土から出土した須恵器平瓶である。遺構面は地山直上の1面のみ検出しており，土坑47基，溝11条，ピット多数を検出した。

（2）遺構

SK111001～SK111038（第38・40図）

いずれも尾根上で検出した土坑群である。第40図226～228はSK111025出土の瓦質の焙烙である。その他の土坑からも瓦や土師質土器片が出土しており，いずれも近世以降の遺構と考えられる。

SK111039（第39図）

谷部分の西端で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径2.50m，短径1.97m，深さ10cmを測る。斜面に添って南東側が深くなっており，埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK111040（第39図）

谷部分の中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径1.16m，短径65cm，深さ14cmを測る。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK111041（第39図）

谷部分の中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径83cm，短径40cm，深さ12cmを測る。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK111042（第39図）

谷部分の中央で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し，長辺1.23m，短辺41cm，深さ2cmを測る。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK111043（第39・40図）

谷部分の中央で検出した土坑である。平面形態はコの字を呈し，長径90cm，短径43cm，深さ3cmの楕円形の土坑に幅25cm，深さ1cmのＬ字の溝が接続した形状である。

出土遺物は第40図229の弥生土器底部である。弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK111044（第39図）

谷部分の中央で検出した土坑である。SK111045に切られているが，平面形態は隅丸方形を呈すると考えられ，長辺1.42m，短辺80cm以上，深さ2cmを測る。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK111045（第39図）

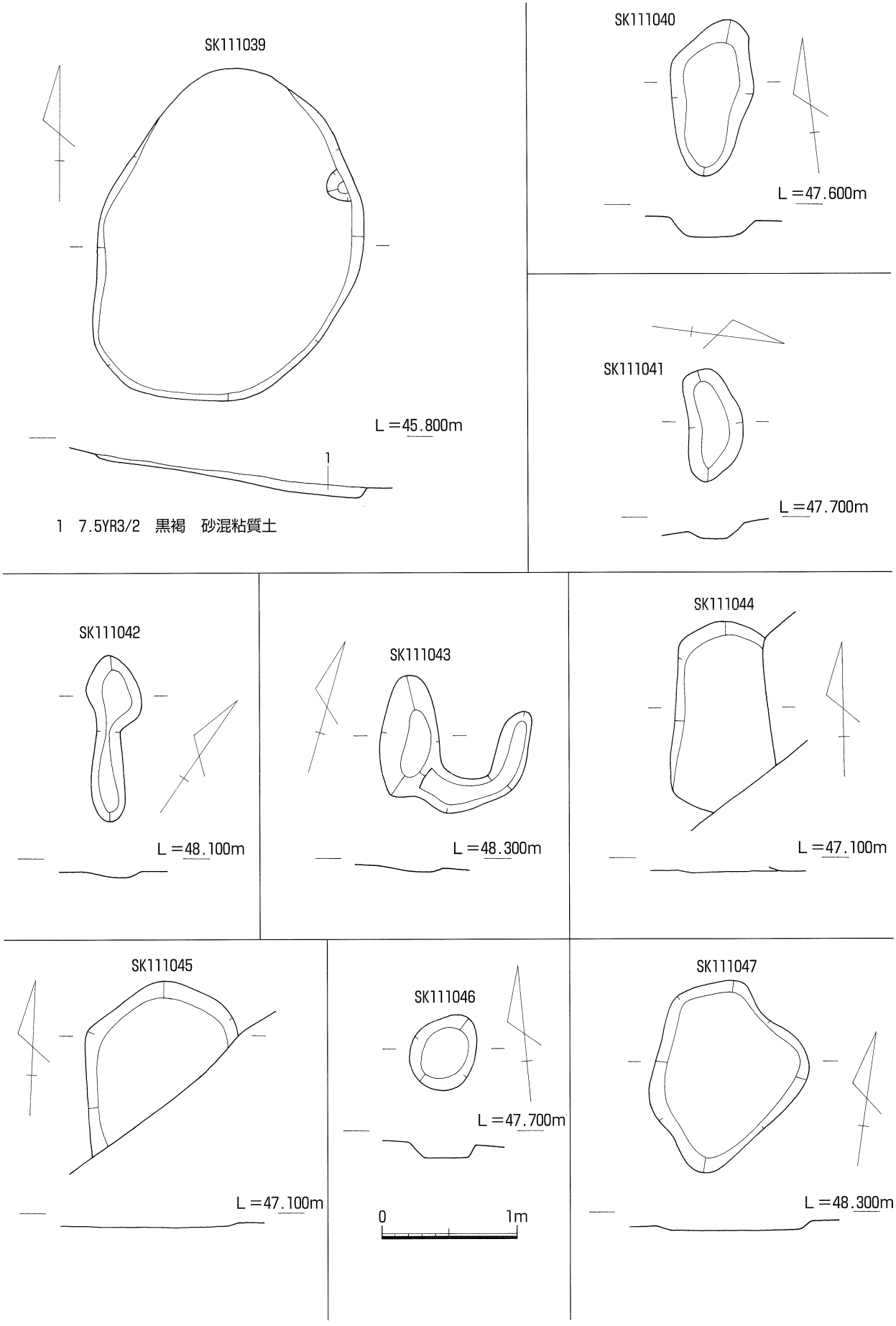
谷部分の中央で検出した土坑である。南半が調査区外に伸びており平面形態は不明であるが，長辺1.38m以上，短辺1.13m，深さ2cmを測る。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK111046（第39図）

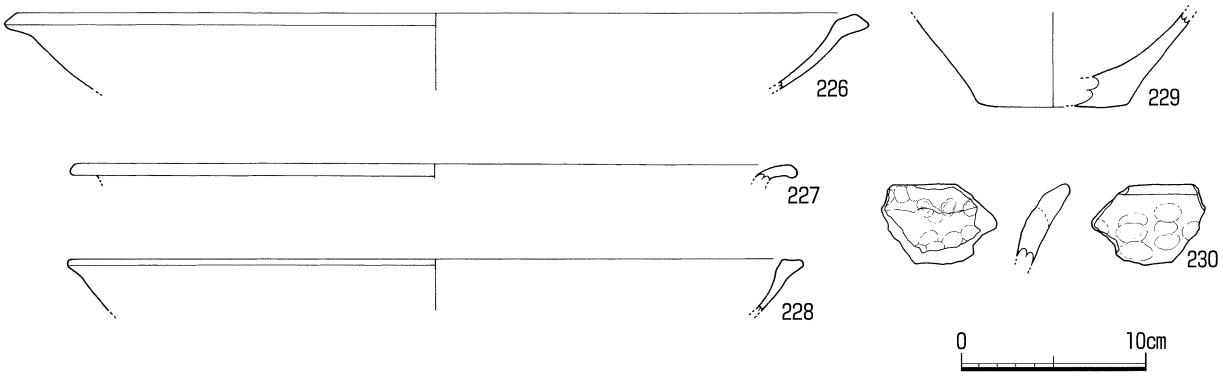
谷部分の中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し，長径58cm，短径49cm，深さ12cmを測る。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明である。

SK111047（第39・40図）

谷部分の東端で検出した土坑である。平面形態は不整形を呈し，長辺1.43m，短辺1.13m，深さ6cmを測る。出土遺物は第40図230の土師質土器の甕である。古代の遺構と考えられる。



第39図　XI区検出遺構平・断面図



第40図　XI区土抗出土遺物実測図

第4章　まとめ

奥の坊遺跡は，主に弥生時代中期前半の集落遺跡で，近世までの遺構・遺物を検出している。南向きの緩斜面に営まれた集落のほぼ全域を発掘調査しており，今回の報告書では，集落の中心部から離れた東端部分しか紹介できていないが，本報告書で取り上げたⅧ～XI区の遺構の変遷を考えたい。Ⅷ～XI区においては，弥生時代中期前半，弥生時代後期前半～中葉，古代，近世以降の4時期の遺構・遺物を検出した。

弥生時代中期前半

奥の坊遺跡の最盛期にあたる。集落の中心部であるⅢ・Ⅵ・Ⅶ区と同じ南向き緩斜面の高所に所在するⅧ区では多くの遺構が見られる。一方，集落の中心部から尾根をはさんで東側に所在するⅨ・X・XI区においても一部遺構が認められ，特にX区の西部に集中して認められる。削平を受けており，明確に居住遺構とは断定できないが，尾根を超えて集落域が広がっていたことも想定される。また，Ⅸ区で検出したNR91001からは同時期の遺物が出土している。

弥生時代後期前半～中葉

当該期の遺構・遺物はほとんどないが，Ⅸ区において土器棺とも考えられる壺を検出している。また，X区では近世の遺構によって攪乱を受けているが，製塩土器を主体とする土器群が出土している。約150～200m南西に所在する奥の坊権現前遺跡が当該期の集落である。

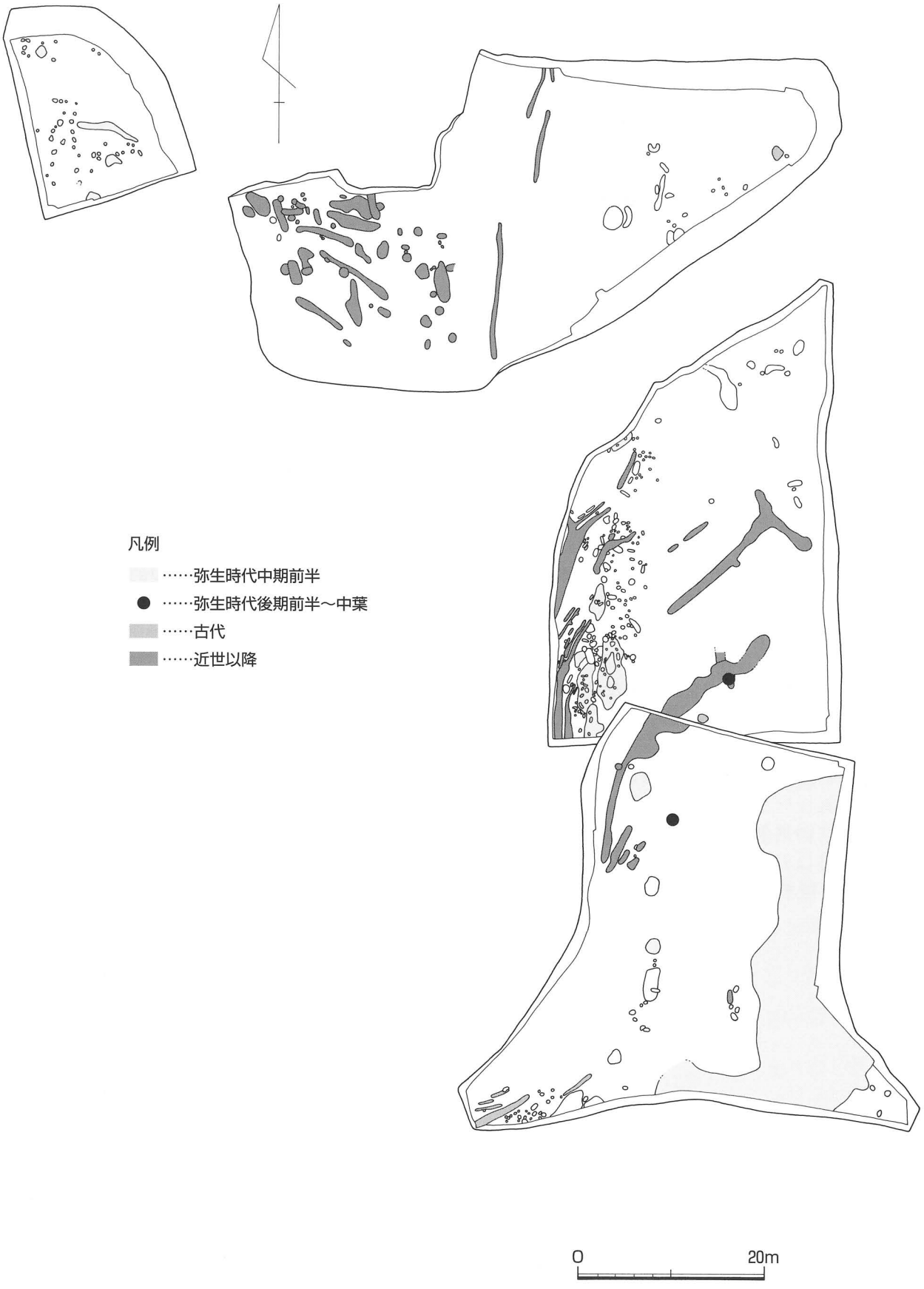
古代

遺構・遺物とも希薄であるが，Ⅸ区では溝群が，X・XI区では土坑1基ずつを検出している。特に今回の調査で検出した溝SD91001は，奥の坊権現前遺跡SD53001から連続するものであり，巨視的に見れば，約1.5～2km西に所在する小山南谷遺跡や新田本村遺跡において検出されたN－5°－Eの方位の条里地割を基準としていると考えられる。同方位は山田郡の条里地割N－11°－Eと異なる異方位条里地割であることから，山田郡北部条里地割と呼称されている（藤好1997）。Ⅸ区の東側は急斜面の丘陵となっていることから，今回検出したSD91001は山田郡北部条里地割の最東端に位置すると考えられる。

近世以降

Ⅸ・X・XI区とも，現地割とほぼ同じ方位の溝を検出しており，近世末期までにはほぼ現在と同じような地形環境にあったことがうかがえる。

なお，XI区の東半は「元屋敷」の地名から家屋があったと考えられるが，近世の遺構面は調査しておらず，その実態は不明である。ただし，XI区の西半の尾根上には多数の土坑が見られ，焙烙等が出土しており，これらが屋敷に伴うものとすると，19世紀以降に屋敷が所在したと考えられる。



第41図　遺構変遷図

参考文献

大嶋和則 1999『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 奥の坊遺跡群Ⅰ』高松市教育委員会

大嶋和則 2000『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 川南・東遺跡』高松市教育委員会

大嶋和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 奥の坊遺跡群Ⅱ』高松市教育委員会

大嶋和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 奥の坊遺跡群Ⅲ』高松市教育委員会

大嶋和則 2004『高松市指定史跡 久本古墳』高松市教育委員会

大嶋和則 2006『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 奥の坊遺跡群Ⅳ』高松市教育委員会

大嶋和則 2006『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊 奥の坊遺跡群Ⅴ』高松市教育委員会

大嶋和則 2007『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 奥の坊遺跡群Ⅵ』高松市教育委員会

片桐孝浩 1997『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡Ⅰ』香川県教育委員会

片桐孝浩 2006『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡Ⅱ』香川県教育委員会

木下晴一 2000『県道高松志度線緊急整備工事および県立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 原中村遺跡』香川県教育委員会

蔵本晋司・森下友子 1992『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 東山崎・水田遺跡』香川県教育委員会

竺林徳（小竹一郎）1955『高松市高松町すべり山出土弥生式遺物報告書』

末光甲正 2004『漆谷古墳群』高松市教育委員会

中西克也 2006『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 新田本村遺跡』高松市教育委員会

藤井雄三・山本英之 1989『久米池南遺跡跡発掘調査報告書』高松市教育委員会

藤好史郎 1997「屋嶋城と城山城 －古代山城研究の一視点－」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅴ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

古高松郷土誌編集委員会 1977『古高松郷土誌』

牟礼町史編集委員会 1993『牟礼町史』

山元敏裕・末光甲正 1999『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 川南・西遺跡』高松市教育委員会

山元敏裕 2003『史跡天然記念物屋島 －史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書Ⅰ－』高松市教育委員会

山元敏裕 2008『屋嶋城跡Ⅱ －史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書Ⅱ－』高松市教育委員会

観　察　表

表3　土器観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			外面	内面	色調 (上＝外面, 下＝内面)	胎土	焼成
				口径	底径	器高					
1	弥生土器 底部	7	SK81003		5.2	(6.7)	タテヘラミガキ 焼成前穿孔	ナデ	5YR5/6明赤褐 10YR5/4にぶい黄褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
2	弥生土器 底部	7	SK81003		6.4	(3.8)	タテヘラミガキ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙 10YR7/6明黄褐	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良
3	弥生土器 底部	7	SK81003		9.6	(6.7)	ナデ	指頭圧	7.5YR6/6橙 7.5YR6/4にぶい橙	やや粗 4mm以下の石英・長石含む	良
4	弥生土器 底部	7	SK81003		8.0	(4.8)	指頭圧のちナデ	指頭圧のち板ナデ	2. .5YR5/8明赤褐 5YR6/6橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
5	弥生土器 底部	7	SK81003		7.0	(6.4)	マメツ	指頭圧	2.5YR4/4にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
6	弥生土器 底部	7	SK81003		8.2	(4.9)	マメツ	指頭ナデ	10YR6/4にぶい黄橙 7.5YR7/4にぶい橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
7	弥生土器 底部	7	SK81003		6.0	(3.6)	ナデ	板ナデ	2.5YR5/4にぶい赤褐 2.5YR5/4にぶい赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
8	弥生土器 底部	7	SK81003		6.8	(4.2)	ナデ	ナデ	10YR6/4にぶい黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良
9	弥生土器 広口壺	11	Ⅸ区包含層	24.4		(6.2)	タテハケ 凹線3条・波状文	ヨコハケ	7.5YR7/4にぶい橙 2.5YR6/6橙	粗 6mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
10	弥生土器 甕	11	Ⅸ区包含層	11.8		(2.1)	ナデ	マメツ	2.5Y6/3にぶい黄 2.5Y6/2灰黄	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
11	弥生土器 底部	11	Ⅸ区包含層		14.4	(4.0)	マメツ 木葉圧痕	マメツ	7.5YR6/6橙 7.5YR7/4にぶい橙	粗 6mm以下の石英・長石含む	不良
12	弥生土器 底部	11	Ⅸ区包含層		6.4	(5.3)	タテヘラミガキ	ナデ	2.5YR4/3にぶい赤褐 5YR4/2灰褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
13	弥生土器 底部	11	Ⅸ区包含層		7.8	(4.1)	マメツ	ナデ	2.5YR4/8赤褐 10YR3/1黒褐	やや粗 3mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
14	弥生土器 底部	11	Ⅸ区包含層		6.2	(7.1)	マメツ	マメツ	2.5YR6/6橙 7.5YR7/3にぶい橙	粗 8mm以下の石英・長石含む	良
15	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		6.0	4.6	タテヘラケズリ	ナデ	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR6/4にぶい橙	粗 3mm以下の石英・長石含む	良
16	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		6.4	(4.0)	タテヘラケズリのち指頭圧	しぼり・ナデ	10YR6/3にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
17	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		4.4	(2.6)	タテヘラケズリ	ナデ	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR5/4にぶい褐	やや粗 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
18	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		4.0	(1.7)	タテヘラケズリ	マメツ	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
19	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		4.5	(3.3)	板ナデ	マメツ	10YR5/3にぶい黄褐 2.5YR5/6明赤褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
20	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		4.8	(3.3)	板ナデ	ヨコヘラケズリ	2.5YR5/6明赤褐 5YR5/6明赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
21	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		3.2	(2.2)	ナデ	マメツ	5YR6/6橙 7.5YR8/3浅黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
22	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		4.2	(2.3)	ナデ・指頭圧	ナデ	10R5/6赤 10R5/6赤	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
23	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		4.2	(2.3)	指頭圧	ナデ	5YR5/6明赤褐 5YR5/6明赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
24	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		5.6	(3.2)	マメツ 接合痕	マメツ	10YR8/3浅黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
25	弥生土器 製塩土器	11	Ⅸ区包含層		5.6	(3.0)	板ナデ	マメツ	5YR5/6明赤褐 2.5YR5/6明赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
26	土師質土器 底部	11	Ⅸ区包含層		7.0	(1.9)	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	10YR7/2にぶい黄橙 10YR8/2灰白	やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
27	弥生土器 鉢	13	NR91001	22.0		(4.2)	ナデ 直線文・波状文・円孔2個1対	マメツ	10YR6/2灰黄褐 10YR8/2灰白	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
28	弥生土器 甕	13	NR91001	16.9		(6.7)	ナデ 直線文4条・波状文	ナデ	7.5YR4/4褐 7.5YR4/4褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
29	弥生土器 甕	13	NR91001	23.8		(9.7)	ナデ 直線文5条・波状文	ナデ	10YR7/2にぶい黄橙 10YR7/2にぶい黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
30	弥生土器 甕	13	NR91001	14.4		(5.6)	マメツ	マメツ	10R5/6赤 2.5YR6/4にぶい橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
31	弥生土器 甕	13	NR91001	19.6		(5.5)	マメツ	マメツ	10YR8/1灰白 10YR8/1灰白	密 1mm以下の長石含む	良
32	弥生土器 甕	13	NR91001	24.0		(3.2)	タテハケのちナデ スス付着	ヨコヘラミガキ	2.5YR6/6橙 2.5YR5/6明赤褐	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
33	弥生土器 甕	13	NR91001	20.6		(6.2)	タテハケ	ヨコヘラミガキ	10YR4/1褐灰 7.5YR6/4にぶい橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
34	弥生土器 甕	13	NR91001		13.0	(4.7)	マメツ	マメツ	2.5Y8/2灰白 2.5Y8/1灰白	粗 3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
35	弥生土器 底部	13	NR91001		6.2	(4.2)	マメツ	指頭ナデ	5YR6/4にぶい橙 7.5YR5/2灰褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
36	弥生土器 底部	13	NR91001		7.9	(4.2)	ナデ	マメツ	2.5YR7/6橙 10YR7/4にぶい黄橙	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
37	弥生土器 底部	13	NR91001		5.2	(2.4)	マメツ	マメツ	5YR6/6橙 5YR5/1褐灰	粗 3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
38	弥生土器 製塩土器	13	NR91001		4.0	(2.7)	ナデ・指頭圧	ナデ	10R6/6赤橙 2.5YR7/3淡赤橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
39	弥生土器 高杯	13	NR91001		19.8	(3.3)	マメツ 円孔2個1対	ヨコヘラケズリ	7.5YR6/3にぶい褐 7.5YR6/3にぶい褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
40	土師器 皿	13	NR91001		5.4	(1.3)	マメツ	マメツ	10YR8/4浅黄橙 10YR8/4浅黄橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
41	弥生土器 無頸壺	14	NR91001	10.4		(5.6)	ナデ 波状文・直線文	マメツ	10YR6/3にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
42	弥生土器 広口壺	14	NR91001	16.0		(2.7)	マメツ 斜格子文	ナデ	10YR6/2灰黄褐 10YR5/2灰黄褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
43	弥生土器 広口壺	14	NR91001	8.7		(2.7)	ナデ 斜格子文	マメツ	10YR5/1褐灰 10YR7/2にぶい黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			外面	内面	色調 (上＝外面, 下＝内面)	胎土	焼成
				口径	底径	器高					
44	弥生土器 甕	14	NR91001			(2.4)	マメツ	マメツ	10YR3/1黒褐 10YR3/1黒褐	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
45	弥生土器 甕	14	NR91001	39.4		(3.0)	マメツ	マメツ	10YR3/1黒褐 10YR6/2灰黄褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石含む	良好
46	弥生土器 甕	14	NR91001	30.8		(5.5)	マメツ	マメツ	10YR6/3にぶい黄橙 2.5Y7/2灰黄	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
47	弥生土器 甕	14	NR91001	19.6		(6.7)	板ナデ	ヨコのちタテヘラミガキ	10YR6/2灰黄褐 10YR5/2灰黄褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
48	弥生土器 甕	14	NR91001	18.4		(6.0)	マメツ	タテヘラミガキ	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
49	弥生土器 底部	14	NR91001		6.2	(8.5)	タテヘラミガキ	ナデ・指頭ナデ	7.5YR5/3にぶい褐 10YR7/2にぶい黄橙	やや密 2㎜以下の石英・長石含む	良
50	弥生土器 底部	14	NR91001		5.6	(4.0)	タテヘラミガキ	タテヘラミガキ	5YR7/4にぶい橙 2.5Y4/1黄灰	粗 5㎜以下の石英・長石含む	良
51	弥生土器 甕	15	NR91001	9.8		(8.2)	ナデ	ナデ	2.5Y5/1黄灰 2.5Y5/1黄灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
52	弥生土器 甕	15	NR91001	14.6		(6.5)	ナデ 刺突文	指頭圧・ナデ	7.5YR7/3にぶい橙 10YR8/4浅黄橙	粗 6㎜以下の石英・長石含む	良
53	弥生土器 甕	15	NR91001	17.2		(3.0)	マメツ	マメツ	2.5YR6/6橙 2.5YR6/6橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
54	弥生土器 甕	15	NR91001	16.0		(3.0)	マメツ	ナデ	7.5YR4/2灰褐 7.5YR5/4にぶい褐	粗 5㎜以下の石英・長石含む	良
55	弥生土器 甕	15	NR91001			(4.1)	指頭圧のちナデ	ナデ	7.5YR7/4にぶい橙 10YR4/1褐灰	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
56	弥生土器 甕	15	NR91001			(5.1)	指頭圧	指頭圧	10YR5/3にぶい黄褐 10YR6/3にぶい黄橙	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
57	弥生土器 甕	15	NR91001	26.0		(7.3)	マメツ 直線文3条	マメツ	2.5YR4/6赤褐 10R4/8赤	粗 5㎜以下の石英・長石含む	良
58	弥生土器 甕	15	NR91001	19.2		(18.4)	タテハケ 直線文4条・波状文1条	ヨコのちタテヘラミガキ	7.5YR5/4にぶい褐 10YR7/3にぶい黄橙	粗 5㎜以下の石英・長石・雲母含む	良
59	弥生土器 甕	15	NR91001	22.0		(1.7)	マメツ	ナデ	7.5YR7/4にぶい橙 5YR7/4にぶい橙	やや粗 2㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
60	弥生土器 甕	15	NR91001	14.6		(7.9)	マメツ	板ナデ	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
61	弥生土器 甕	15	NR91001	16.6		(7.2)	マメツ 直線文・波状文	マメツ	2.5Y8/2灰白 2.5YR6/6橙	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
62	弥生土器 甕	15	NR91001	15.6		(5.0)	タテハケ	ヨコのちタテヘラミガキ	7.5YR7/3にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
63	弥生土器 甕	15	NR91001	18.4		(6.7)	タテハケ	ヨコヘラミガキ	10YR6/3にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
64	弥生土器 甕	15	NR91001	21.5		(4.2)	タテハケ	指頭圧のちヨコヘラミガキ	7.5YR6/3にぶい褐 7.5YR7/3にぶい橙	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
65	弥生土器 甕	15	NR91001	18.6	5.6	29.4	タラハケのちタテヘラミガキ 直線文3条・刺突文	タテのちヨコヘラミガキ	10YR7/2にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
66	弥生土器 甕	15	NR91001	18.5		(4.0)	タテハケ	マメツ	7.5YR5/4にぶい褐 10YR7/4にぶい黄橙	粗 5㎜以下の石英・長石含む	良
67	弥生土器 甕	15	NR91001	20.6		(4.3)	タテハケ	マメツ	10YR8/2灰白 10YR8/1灰白	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良好
68	弥生土器 甕	15	NR91001	17.6		(5.7)	タテハケ	マメツ	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR6/3にぶい褐	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
69	弥生土器 甕	15	NR91001	26.0		(3.7)	タテハケ	ナデ	5YR6/4にぶい橙 10YR7/3にぶい黄橙	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
70	弥生土器 甕	15	NR91001	23.0		(6.6)	指頭圧・タテハケ	マメツ	10YR7/3にぶい黄橙 7.5YR7/4にぶい橙	密 1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
71	弥生土器 甕	15	NR91001	22.4		(10.0)	指頭圧・タテハケ ス付着	ナデ ス付着	7.5YR5/2灰褐 7.5YR7/4にぶい橙	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
72	弥生土器 甕	15	NR91001	30.6		(6.3)	タテハケ	マメツ	5YR6/6橙 7.5YR6/6橙	粗 5㎜以下の石英・長石含む	良
73	弥生土器 甕	15	NR91001	21.6		(4.5)	ナデ	ヨコヘラミガキ	10YR7/2にぶい黄橙 2.5Y7/2灰黄	やや粗 4㎜以下の石英・長石含む	良
74	弥生土器 甕	16	NR91001	16.8		(3.2)	マメツ	ヨコヘラミガキ	2.5YR4/2灰赤 5YR4/1褐灰	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
75	弥生土器 甕	16	NR91001	19.8		(2.9)	マメツ	ヨコヘラミガキ	10YR4/2灰黄褐 10YR7/3にぶい黄橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
76	弥生土器	16	NR91001	18.4		(5.4)	マメツ	ヨコヘラミガキ	10YR7/3にぶい黄橙 10YR7/3にぶい黄橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
77	弥生土器 甕	16	NR91001	21.2		(8.1)	マメツ	ヨコヘラミガキ	7.5YR6/3にぶい褐 10YR6/3にぶい黄橙	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良好
78	弥生土器	16	NR91001	17.4		(6.2)	指頭圧・ナデ	ヨコヘラミガキ	10YR5/2灰黄褐 10YR5/2灰黄褐	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
79	弥生土器 甕	16	NR91001	28.0		(9.0)	マメツ	指頭圧	10R5/6赤 10R5/6赤	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
80	弥生土器 甕	16	NR91001	36.0		(7.3)	マメツ	ヨコハケ	2.5YR7/4淡赤橙 10YR7/2にぶい黄橙	やや粗 2㎜以下の石英・長石含む	良
81	弥生土器 甕	16	NR91001	19.4		(4.0)	ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙 10YR8/2灰白	やや密 2㎜以下の石英・長石含む	良好
82	弥生土器 甕	16	NR91001	19.4		(4.3)	ナデ	ナデ	10YR7/2にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	やや密 1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
83	弥生土器 甕	16	NR91001	18.8		(3.2)	マメツ	マメツ	7.5YR6/2灰褐 7.5YR5/2灰褐	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良
84	弥生土器 甕	16	NR91001	17.0		(5.8)	マメツ	マメツ	5YR7/4にぶい橙 5YR6/4にぶい橙	やや粗 1㎜以下の石英・長石含む	良
85	弥生土器 甕	16	NR91001	30.0		(2.0)	マメツ	マメツ	5YR8/3淡橙 10YR7/2にぶい黄橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
86	土師器 甕	16	NR91001	33.8		(7.0)	マメツ	ナデ	5YR8/3淡橙 2.5Y8/3淡黄	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
87	弥生土器 甕	16	NR91001	28.2		(5.2)	マメツ	マメツ	10YR5/2灰黄褐 10YR4/1褐灰	やや粗 3㎜以下の石英・長石含む	良

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			外面	内面	色調 (上＝外面, 下＝内面)	胎土	焼成
				口径	底径	器高					
88	弥生土器 甕	16	NR91001	21.4		(2.7)	マメツ	マメツ	10YR6/3にぶい黄橙 2.5Y7/2灰黄	粗 3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
89	弥生土器 甕	16	NR91001	20.8		(5.5)	マメツ	マメツ	10YR6/3にぶい黄橙 10YR4/1褐灰	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
90	弥生土器 甕	16	NR91001	21.4		(3.5)	マメツ	ナデ	5YR7/4にぶい橙 7.5YR8/4浅黄橙	やや粗 2mm以下の石英・長石・角内石・雲母含む	良好
91	弥生土器 甕	16	NR91001	21.0		(2.7)	マメツ	マメツ	7.5YR5/1褐灰 7.5YR4/1褐灰	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
92	弥生土器 鉢	16	NR91001	17.2		(12.9)	ヨコヘラミガキ 円孔	マメツ	10YR6/2灰黄褐 7.5YR6/3にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
93	弥生土器 鉢	16	NR91001	17.0		(7.3)	ナデ	マメツ	7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR5/2灰褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
94	弥生土器 鉢	16	NR91001	13.0		(3.9)	ナデ 円孔2個1対	指頭圧	5YR6/3にぶい橙 10YR6/1褐灰	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
95	弥生土器 鉢	16	NR91001	19.4		14.1	ヨコヘラミガキ 円孔	マメツ	10YR7/3にぶい黄橙 5YR7/4にぶい橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
96	弥生土器 直口壺	16	NR91001	13.8		(4.0)	タテハケのちヨコハケ	ヨコヘラミガキ	10YR6/3にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
97	弥生土器 直口壺	16	NR91001	10.6		(4.5)	タテハケ 刻目	ナデ	10YR7/3にぶい黄橙 7.5YR6/4にぶい橙	やや密 3mm以下の石英・長石含む	良
98	弥生土器 直口壺	17	NR91001	9.8		(4.3)	マメツ	マメツ	5YR5/3にぶい赤褐 5YR5/2灰褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
99	弥生土器 直口壺	17	NR91001	11.0		(5.3)	ナデ	ナデ	10YR6/2灰黄褐 10YR6/3にぶい黄橙	やや粗 5mm以下の石英・長石含む	良
100	弥生土器 広口壺	17	NR91001	11.6		(4.6)	マメツ	マメツ	5YR7/6橙 5YR7/6橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
101	弥生土器 広口壺	17	NR91001	14.4		(3.9)	ナデ	マメツ	7.5YR8/2灰白 7.5YR8/1灰白	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
102	弥生土器 広口壺	17	NR91001	12.2		(4.2)	タテハケ	指頭ナデ	7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
103	弥生土器 広口壺	17	NR91001	22.4		(1.3)	ナデ 斜格子文	ナデ	5YR4/1褐灰 10YR5/1褐灰	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
104	弥生土器 広口壺	17	NR91001	19.0		(3.5)	マメツ	マメツ	10YR7/2にぶい黄橙 10YR6/1褐灰	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
105	弥生土器 広口壺	17	NR91001			(13.8)	ナデ 直線文	マメツ	10Y5/6赤 10R5/6赤	粗 4mm以下の石英・長石含む	良
106	弥生土器 壺	17	NR91001			(6.8)	ナデ 直線文・扇形文	ナデ	10YR6/3にぶい黄橙 7.5YR6/3にぶい褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
107	弥生土器 壺	17	NR91001			(5.0)	ナデ 櫛描文	指頭圧	10YR6/1褐灰 10YR7/1灰白	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
108	弥生土器 鉢	17	NR91001	12.0		(3.5)	タテのちヨコヘラミガキ	ヨコヘラミガキ	10YR6/3にぶい黄橙 10YR5/2灰黄褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
109	弥生土器 鉢	17	NR91001		14.4	(6.5)	ヨコヘラミガキ 円孔2個1対2方	タテヘラミガキ	10YR6/2灰黄褐 10YR7/2にぶい黄橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
110	弥生土器 鉢	17	NR91001	18.6		(3.4)	ナデ 刻目・直線文・波状文	ヨコヘラミガキ	7.5YR5/1褐灰 7.5YR5/1褐灰	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
111	弥生土器 鉢	17	NR91001	18.6		(14.0)	マメツ 波状文・直線文	ヨコのちタテヘラミガキ	7.5YR4/1褐灰 2.5YR5/6明赤褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
112	弥生土器 底部	17	NR91001		6.0	(10.4)	タテヘラミガキ スス付着・焼成後穿孔	タテヘラミガキ	5YR6/6橙 7.5YR6/2灰褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
113	弥生土器 底部	17	NR91001		8.0	(9.4)	タテヘラミガキ	タテヘラミガキ	5YR7/6橙 2.5YR8/3淡黄	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
114	弥生土器 底部	17	NR91001		8.2	(11.8)	タテヘラミガキ	板ナデ	5YR4/2灰褐 5YR5/2灰褐	やや粗 5mm以下の石英・長石含む	良
115	弥生土器 底部	17	NR91001		11.2	(4.2)	タテヘラミガキ	指頭圧のち板ナデ	10R6/6赤橙 10YR7/2にぶい黄橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
116	弥生土器 底部	17	NR91001		6.3	(8.9)	タテヘラミガキ	板ナデ	2.5YR5/8明赤褐 2.5YR6/8橙	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
117	弥生土器 底部	17	NR91001		7.7	(4.7)	タテヘラミガキ	マメツ	2.5Y4/1黄灰 10YR5/1褐灰	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
118	弥生土器 底部	17	NR91001		5.8	(4.4)	タテヘラミガキ	ナデ スス付着	5YR5/6明赤褐 5YR3/2暗赤褐	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
119	弥生土器 底部	17	NR91001		4.6	(3.7)	タテヘラミガキ	ナデ・指頭圧	7.5YR6/3にぶい褐 7.5YR7/3にぶい橙	粗 3mm以下の石英・長石含む	良
120	弥生土器 底部	17	NR91001		8.2	(6.5)	マメツ	ナデ	10R5/6赤 10YR7/2にぶい黄橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
121	弥生土器 底部	17	NR91001		5.0	(3.0)	ナデ	指頭圧	2.5YR5/6明赤褐 10YR3/1黒褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
122	弥生土器 底部	17	NR91001		6.4	(5.0)	マメツ	指頭圧	10YR6/6赤橙 10YR8/2灰白	粗 4mm以下の石英・長石含む	良
123	弥生土器 底部	17	NR91001		7.6	(3.0)	マメツ	マメツ	10YR7/2にぶい黄橙 10YR6/1褐灰	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
124	弥生土器 底部	17	NR91001		6.1	(4.0)	マメツ	マメツ	2.5YR6/8橙 2.5YR6/6橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
125	弥生土器 底部	17	NR91001		4.2	(4.5)	マメツ	ナデ	2.5YR6/4にぶい橙 2.5Y8/2灰白	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
126	弥生土器 底部	17	NR91001		4.3	(4.4)	ナデ スス付着	ナデ	10YR7/2にぶい黄橙 10YR6/2灰黄褐	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
127	弥生土器 底部	17	NR91001		8.4	(6.0)	マメツ	マメツ	10R5/8赤 10R6/8赤橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
128	弥生土器 底部	17	NR91001		10.0	(13.9)	マメツ	マメツ	10R5/6赤 10YR6/2灰黄褐	粗 2mm以下の石英・長石含む	良
129	弥生土器 甕	19	NR91001	25.0		(4.2)	ナデ	ナデ	10R5/6赤 10R5/6赤	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
130	弥生土器 甕	19	NR91001	19.6		(2.7)	ナデ 直線文	ヨコヘラミガキ	10YR7/2にぶい黄橙 10YR7/2にぶい黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
131	弥生土器 甕	19	NR91001	20.0		(7.6)	粗いタテハケ 刺突文	マメツ	5YR6/6橙 2.5YR8/1灰白	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			外面	内面	色調 (上＝外面, 下＝内面)	胎土	焼成
				口径	底径	器高					
132	弥生土器 甕	19	NR91001	17.8		(9.2)	タテハケ 刺突文	ヨコヘラミガキ	10YR5/1褐灰 5YR6/4にぶい橙	やや粗 5mm以下の石英・長石含む	良
133	弥生土器 甕	19	NR91001	20.6		(4.4)	タテハケ	マメツ	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR6/3にぶい褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
134	弥生土器 甕	19	NR91001	19.0		(5.8)	タテハケ スス付着	ナデ	10YR6/2灰黄褐 10YR8/2灰白	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
135	弥生土器 甕	19	NR91001	21.8		(6.8)	タテヘラミガキ	ヨコヘラミガキ	10YR5/1褐灰 7.5YR5/3にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
136	弥生土器 甕	19	NR91001	22.6		(4.6)	マメツ	マメツ	7.5YR6/4にぶい橙 2.5YR6/4にぶい橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
137	弥生土器 甕	19	NR91001	31.6		(4.2)	ナデ	ナデ	5YR8/3淡橙 7.5YR8/3浅黄橙	やや粗 2mm以下の石英・長石・雲母含む	良
138	弥生土器 甕	19	NR91001	20.0		(3.8)	マメツ	マメツ	5YR6/3にぶい橙 10R6/3にぶい赤橙	粗 3mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
139	弥生土器 甕	19	NR91001	30.0		(10.2)	指頭圧	ヨコヘラミガキ・タテヘラミガキ	2.5Y7/2灰黄 10YR7/2にぶい黄橙	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
140	弥生土器 広口壺	19	NR91001	17.0		(3.9)	マメツ	マメツ	7.5YR4/2灰褐 7.5YR6/2灰褐	粗 6mm以下の石英・長石含む	不良
141	弥生土器 広口壺	19	NR91001	15.2		(5.4)	ナデ	ヨコヘラミガキ	7.5YR6/4にぶい橙 10YR6/3にぶい黄橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良好
142	弥生土器 広口壺	19	NR91001	14.2		(14.5)	タテヘラミガキ	ヨコヘラミガキ・ヨコハケのち指頭圧	7.5YR5/2灰褐 7.5YR5/3にぶい褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
143	弥生土器 広口壺	19	NR91001	19.6		(7.4)	マメツ 刻目・押圧突帯	ナデ	10YR7/2にぶい黄橙 7.5YR5/2灰褐	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
144	弥生土器 無頸壺	19	NR91001	9.6		(10.6)	タテハケ 直線文・波状文	指頭圧	2.5YR5/6明赤褐 5YR5/1褐灰	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
145	弥生土器 壺	19	NR91001			(10.2)	マメツ 直線文・波状文	ナデ・指頭圧	10YR8/2灰白 10YR8/1灰白	粗 2mm以下の石英・長石含む	良
146	弥生土器 底部	19	NR91001		10.8	(6.0)	タテヘラミガキ	板ナデ	10YR5/3にぶい黄褐 10YR6/2灰黄褐	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
147	弥生土器 底部	19	NR91001		5.2	(4.3)	タテヘラミガキ	マメツ	2.5YR5/6明赤褐 7.5YR6/3にぶい褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
148	弥生土器 底部	19	NR91001		8.0	(4.0)	タテヘラミガキ スス付着	ナデ スス付着	2.5YR5/6明赤褐 7.5YR2/1黒	粗 3mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
149	弥生土器 底部	19	NR91001		5.2	(3.8)	タテヘラミガキ スス付着・焼成後穿孔	マメツ スス付着	5YR6/4にぶい橙 5YR5/4にぶい赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
150	弥生土器 底部	19	NR91001		9.6	(6.6)	板ナデのちタテヘラミガキ	マメツ	10YR7/2にぶい黄橙 2.5Y8/3淡黄	粗 5mm以下の石英・長石含む	良
151	弥生土器 底部	19	NR91001		7.6	(5.2)	ヨコヘラミガキ	マメツ	2.5Y8/2灰白 2.5Y8/2灰白	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良好
152	弥生土器 底部	19	NR91001		8.4	(6.3)	タテハケ	指頭圧のち板ナデ	2.5Y2/1黒 5YR5/4にぶい赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
153	弥生土器 底部	19	NR91001		6.6	(5.9)	マメツ	マメツ スス付着	7.5YR7/3にぶい橙 10YR6/1褐灰	密 1mm以下の石英・長石含む	良
154	弥生土器 底部	19	NR91001		9.0	(7.3)	マメツ	板ナデ	2.5Y6/2灰黄 10YR7/2にぶい黄橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
155	弥生土器 広口壺	23	SK91001	18.0		(2.3)	マメツ 斜格子文	ヨコヘラミガキ	10YR7/3にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
156	弥生土器 底部	23	SK91011	9.0		(5.7)	ナデ	ナデ	10YR7/4にぶい黄橙 10YR4/1褐灰	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
157	肥前系磁器 碗	29	X区包含層		4.5	(4.2)	圏線7条	圏線1条	7.5Y8/1灰白 7.5Y8/1灰白	精良	良好
158	肥前系磁器 碗	29	X区包含層	10.2		(3.8)	青磁釉 染付		7.5Y8/1灰白 7.5Y8/1灰白	精良	良好
159	土師質土器 甕	29	X区包含層	19.6		(2.7)	ナデ	ヨコハケ	10YR6/4にぶい黄橙 7.5YR5/3にぶい褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
160	須恵器 椀	29	X区包含層		7.0	(2.0)	ナデ 糸切り	ナデ	7.5Y8/1灰白 7.5Y8/1灰白	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
161	須恵器 底部	29	X区包含層		36.0	(4.0)	ナデ	ナデ	2.5Y5/2暗灰黄 2.5Y6/1黄灰	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
162	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.6	(6.5)	タテヘラケズリ・指頭圧	ナデ	10YR6/3にぶい黄橙 10YR6/3にぶい黄橙	やや粗 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
163	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		6.4	(3.8)	タテヘラケズリ	しぼり・ナデ	7.5Y3/1オリーブ黒 7.5Y3/1オリーブ黒	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
164	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.5	(3.8)	タテヘラケズリ・指頭ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙 5YR6/3にぶい橙	やや粗 3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
165	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(3.6)	タテヘラケズリ・指頭圧	ナデ	2.5YR5/6明赤褐 2.5YR5/6明赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
166	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(3.1)	タテヘラケズリ・指頭圧	板ナデ	2.5YR5/6明赤褐 2.5YR5/2灰赤	粗 3mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
167	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.6	(3.2)	タテヘラケズリ	マメツ	7.5YR6/3にぶい褐 7.5YR6/3にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
168	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(3.2)	タテヘラケズリ・指頭圧	ナデ	5YR6/4にぶい橙 10R6/6赤橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
169	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.2	(3.0)	タテヘラケズリ・指頭圧	ナデ	7.5YR5/4にぶい褐 2.5YR4/8赤褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
170	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.9	(2.7)	タテヘラケズリ・指頭圧	マメツ	5YR6/4にぶい橙 2.5YR6/6橙	粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
171	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(2.6)	タテヘラケズリ・指頭圧	マメツ	2.5YR6/4にぶい橙 10YR7/2にぶい黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
172	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.2	(2.5)	タテヘラケズリ・指頭圧	マメツ	10R5/4赤褐 2.5YR5/2灰赤	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
173	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.8	(2.3)	タテヘラケズリのち指頭圧	指頭圧	5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
174	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.9	(2.6)	タテヘラケズリのちナデ	ナデ	2.5YR5/6明赤褐 10YR6/2灰黄褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
175	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.8	(2.2)	タテヘラケズリのち指頭圧	指頭ナデ	2.5YR5/6明赤褐 2.5YR5/6明赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			外面	内面	色調 (上＝外面, 下＝内面)	胎土	焼成
				口径	底径	器高					
176	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(2.6)	タテヘラケズリのち指頭圧	ナデ	2.5YR6/4にぶい橙 10R5/4赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
177	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.6	(1.9)	タテヘラケズリ	マメツ	2.5YR5/6明赤褐 2.5YR5/6明赤褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
178	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.9	(2.2)	タテヘラケズリ・指頭圧	ナデ・指頭圧	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR5/4にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
179	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.8	(2.6)	タテヘラケズリ・指頭圧	マメツ	2.5YR6/4にぶい橙 2.5YR6/6橙	やや粗 4mm以下の石英・角閃石・長石含む	良
180	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.2	(2.3)	タテヘラケズリ	マメツ	7.5YR7/4にぶい橙 10YR7/3にぶい黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
181	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.6	(2.0)	タテヘラケズリのち指頭圧	マメツ	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR5/3にぶい褐	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
182	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		6.0	(3.9)	指頭ナデ	ヨコヘラケズリ	10YR5/6黄褐 10YR5/3にぶい黄褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
183	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(3.2)	指頭ナデ	ナデ	10R5/4赤褐 10R5/3赤褐	密 1mm以下の石英・長石含む	良
184	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(2.5)	指頭圧	指頭圧	2.5YR6/4にぶい橙 10R5/4赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
185	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.6	(2.5)	指頭圧	ナデ	2.5YR5/6明赤褐 2.5YR5/4にぶい赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
186	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(2.3)	指頭圧ナデ	ナデ	2.5YR5/6明赤褐 10YR3/1黒褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
187	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.2	(2.3)	指頭圧	ナデ	2.5YR6/6橙 7.5YR7/3にぶい黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
188	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.6	(1.9)	指頭圧	マメツ	2.5YR5/6明赤褐 2.5YR5/6明赤褐	粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
189	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.6	(2.2)	指頭ナデ	マメツ	7.5YR6/3にぶい褐 5YR6/4にぶい橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
190	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(2.9)	ナデ・指頭圧	ナデ	5YR6/6橙 5YR5/8明赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
191	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.2	(1.4)	指頭圧	ナデ	2.5YR6/4にぶい橙 10YR4/1褐灰	やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
192	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(2.1)	指頭ナデ	ナデ	2.5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	やや粗 1mm以下の石英・長石角閃石含む	良
193	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		2.8	(2.3)	指頭圧	指頭圧	2.5YR5/6明赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	密 1mm以下の長石・雲母含む	良好
194	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.2	(2.8)	指頭圧	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
195	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.2	(2.6)	指頭圧・ナデ	ナデ	2.5YR5/6明赤褐 2.5YR5/8明赤褐	粗 2mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
196	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.2	(2.5)	指頭圧	指頭圧	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/6橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
197	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(2.1)	指頭圧	指頭圧	2.5YR5/6明赤褐 2.5YR5/6明赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
198	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		5.6	(1.6)	指頭圧	マメツ	2.5YR5/4にぶい赤褐 2.5YR5/4にぶい赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良
199	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.2	(2.1)	指頭圧	マメツ	10R5/6赤 10R5/8赤	粗 4mm以下の石英・長石含む	良
200	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.8	(2.2)	指頭圧	ナデ	7.5YR7/4にぶい橙 10YR8/3浅黄橙	密 1mm以下の石英・長石含む	良
201	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.6	(2.0)	板ナデ	ナデ	2.5YR5/4にぶい赤褐 2.5YR5/4にぶい赤褐	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良
202	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.2	(1.7)	指頭圧	ナデ	5YR6/4にぶい橙 5YR5/4にぶい赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
203	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(3.3)	指頭圧	マメツ	2.5YR5/8明赤褐 2.5YR5/8明赤褐	粗 2mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
204	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.6	(2.5)	指頭圧	ナデ	2.5YR6/6橙 5YR7/3にぶい橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
205	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.0	(1.5)	指頭圧	マメツ	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	やや密 1mm以下の長石含む	良
206	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(2.8)	タテヘラケズリ	ナデ	10YR6/4にぶい黄橙 7.5YR6/4にぶい橙	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
207	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.0	(2.5)	指頭圧・ナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR5/4にぶい褐	やや粗 2mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
208	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.6	(2.2)	指頭圧	指頭圧	5YR6/6橙 5YR5/6明赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
209	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.2	(2.6)	指頭圧	ナデ	5YR5/6明赤褐 5YR6/6橙	粗 5mm以下の石英・長石含む	良好
210	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.8	(1.9)	ナデ	ナデ	5YR5/6明赤褐 2.5YR5/6明赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
211	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.2	(2.5)	ナデ	ナデ	2.5YR5/4にぶい赤褐 2.5YR5/4にぶい赤褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
212	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.4	(1.1)	マメツ	マメツ	2.5YR4/8赤褐 2.5YR5/8明赤褐	やや粗 5mm以下の石英・長石含む	良
213	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		3.6	(1.9)	マメツ	マメツ	5YR7/2明褐灰 2.5YR5/4にぶい赤褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
214	弥生土器 製塩土器	36	SK101037		4.8	(1.3)	マメツ	マメツ	2.5YR5/6明赤褐 5YR6/6橙	やや粗 2mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
215	弥生土器 脚部	36	SK101037		11.0	(1.2)	ナデ	ナデ	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR5/4にぶい褐	やや粗 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
216	弥生土器 脚部	36	SK101037		9.8	(1.3)	ナデ	ナデ	5YR6/6橙 5YR6/6橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
217	弥生土器 底部	36	SK101037		7.0	(2.4)	マメツ	タテヘラケズリ	5YR6/6橙 7.5YR7/4にぶい橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
218	弥生土器 広口壺	36	SK101037	13.2		(13.5)	タテハケ	指頭ナデのちヨコハケ ヨコヘラケズリ	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
219	土師器 皿	36	SK101037	8.8	6.6	1.2	回転ナデ・糸切り	回転ナデ	7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR7/4にぶい橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)			外面	内面	色調 (上＝外面, 下＝内面)	胎土	焼成
				口径	底径	器高					
220	土師器 皿	36	SK101037	9.2	5.6	1.2	ナデ・糸切り	ナデ	5YR7/6橙 5YR7/6橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
221	土師器 皿	36	SK101037	9.2	6.4	1.3	ナデ	ナデ	5YR6/6橙 5YR7/6橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
222	土師器 皿	36	SK101037	11.4	7.0	1.9	回転ナデ・糸切り スス付着	回転ナデ スス付着	7.5YR8/4浅黄橙 7.5YR7/4にぶい橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
223	土師器 皿	36	SK101037		7.0	(0.5)	マメツ	マメツ	5YR7/6橙 5YR7/6橙	密 1㎜以下の石英・長石含む	良
224	土師器 皿	36	SK101037	15.4	4.8	2.9	ナデ・糸切り	ナデ	7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR7/4にぶい橙	やや密 1㎜以下の石英・長石含む	良
225	須恵器 平瓶	37	XI区包含層		10.6	(9.0)	ナデ	ナデ	5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ 5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ	密 1㎜以下の石英・長石含む	良好
226	瓦質土器 焙烙	40	SK111025	45.9		(4.1)	ナデ	ナデ	5Y5/1灰 N3/0暗灰	密 1㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石含む	良好
227	瓦質土器 焙烙	40	SK111025	39.0		(2.7)	ナデ	ナデ	5Y6/1灰 5Y7/1灰白	密 1㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石含む	良好
228	瓦質土器 焙烙	40	SK111025	38.6		(1.2)	ナデ	ナデ	N2/0黒 N3/0暗灰	密 1㎜以下の石英・長石・雲母・角閃石含む	良好
229	弥生土器 底部	40	SK111043		8.0	(5.0)	マメツ	マメツ	5YR6/8橙 7.5YR6/6橙	密 2㎜以下の石英・長石含む	良
230	土師質土器 甕	40	SK111043			(4.2)	指頭圧	指頭圧 接合痕	5YR6/6橙 5YR6/6橙	密 5㎜以下の石英・長石含む	良

表4　石器観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)				石材	特徴
				長	幅	厚	重量(g)		
1	石鏃	11	Ⅸ区包含層	2.4	2.0	0.3	1.0	サヌカイト	凹基式。完形品。両面より細かく調整。
2	石鏃	11	Ⅸ区包含層	3.4	1.9	0.4	2.7	サヌカイト	基部を欠く。両面より細かく調整。
3	剥片	11	Ⅸ区包含層	3.6	1.8	0.8	7.3	サヌカイト	抉り状の加工途中。
4	削器	11	Ⅸ区包含層	3.7	1.8	0.5	3.2	サヌカイト	全体に粗い調整。
5	削器	11	Ⅸ区包含層	3.2	2.5	0.6	5.8	サヌカイト	片面より調整。
6	石庖丁	11	Ⅸ区包含層	6.8	7.0	1.4	73.9	サヌカイト	刃部は片面より調整。
7	削器	13	NR91001	6.0	4.9	0.7	22.3	サヌカイト	全体に粗い調整。
8	削器	13	NR91001	4.1	3.8	1.0	17.5	サヌカイト	全体に粗い調整。
9	削器	13	NR91001	1.7	2.2	0.5	1.7	サヌカイト	両面より細かく調整。
10	削器	13	NR91001	5.3	3.7	0.6	7.4	サヌカイト	刃部は片面より調整。
11	削器	13	NR91001	3.6	3.1	1.0	8.0	サヌカイト	全体に粗い調整。
12	削器	13	NR91001	2.7	2.7	0.6	3.8	サヌカイト	刃部は調整しない。
13	削器	13	NR91001	3.7	3.7	0.9	12.1	サヌカイト	刃部はほとんど調整しない。
14	凹石	13	NR91001	7.1	9.5	7.2	798.1	砂岩	上面に2筋の凹みあり。
15	石鏃	14	NR91001	3.9	1.9	0.5	3.5	サヌカイト	凹基式。両面より細かく調整。
16	石鏃	14	NR91001	3.2	2.0	0.3	1.4	サヌカイト	完形品。凹基式。両面より細かく調整。
17	石槍	14	NR91001	3.9	2.6	0.8	11.3	サヌカイト	両面より細かく調整。
18	石庖丁	14	NR91001	3.7	4.0	0.8	12.4	サヌカイト	抉りをもつ。両面より細かく調整。
19	石庖丁	14	NR91001	5.3	3.5	1.1	21.5	サヌカイト	全体に粗い調整。
20	石錘	14	NR91001	7.0	3.9	1.2	48.0	安山岩	抉りあり。被熱痕あり。
21	石鏃	18	NR91001	3.4	2.2	0.4	2.3	サヌカイト	平基式。完形品。両面より細かく調整。
22	石庖丁	18	NR91001	3.9	4.4	0.8	9.6	サヌカイト	側縁部のみ残る。刃部は両面より調整。
23	石庖丁	18	NR91001	4.4	4.6	0.6	13.2	サヌカイト	側縁部のみ残る。両面より細かく調整。
24	石庖丁	18	NR91001	5.3	4.8	0.9	27.7	サヌカイト	両面より調整。
25	石庖丁	18	NR91001	6.5	3.9	1.1	31.3	サヌカイト	両面より細かく調整。
26	石鎌	18	NR91001	4.2	3.2	1.0	15.4	サヌカイト	両面より調整。自然面を残す。
27	石錐	18	NR91001	3.9	4.7	0.5	11.7	サヌカイト	錐部を欠く。全体に粗い調整。
28	削器	18	NR91001	3.1	3.5	0.9	10.6	サヌカイト	全体に粗い調整。
29	削器	18	NR91001	4.5	3.8	0.8	10.3	サヌカイト	背部に自然面を残す。刃部は両面より調整。
30	削器	18	NR91001	3.6	2.1	0.8	5.6	サヌカイト	わずかに刃部をつくる。
31	削器	18	NR91001	3.1	3.0	0.5	7.3	サヌカイト	わずかに刃部をつくる。白色風化。
32	削器	18	NR91001	5.7	3.2	1.0	16.4	サヌカイト	刃部は両面より細かく調整。自然面を残す。
33	剥片	18	NR91001	3.4	5.0	0.7	8.8	サヌカイト	自然面を残す。
34	剥片	18	NR91001	3.2	2.6	1.1	9.8	サヌカイト	わずかに調整痕あり。
35	剥片	18	NR91001	1.9	2.1	0.3	2.1	サヌカイト	調整痕あり。
36	剥片	18	NR91001	3.0	2.8	1.4	13.2	サヌカイト	敲打痕あり。
37	扁平片刃石斧	18	NR91001	1.2	1.5	0.5	2.6	緑泥片岩	小型品。使用による磨滅あり。
38	叩石	18	NR91001	6.5	5.3	2.8	1023.0	砂岩	側縁部に敲打痕あり。
39	線刻石	18	NR91001	10.1	6.9	1.9	120.5	安山岩	直線状の線刻あり。
40	石鏃	20	NR91001	2.6	1.8	0.4	1.4	サヌカイト	凹基式。完形品。両面より細かく調整。
41	削器	20	NR91001	4.3	2.7	0.9	7.6	サヌカイト	全体に粗い調整。白色風化。
42	削器	20	NR91001	4.9	4.0	0.7	14.5	サヌカイト	片面より調整。
43	剥片	20	NR91001	6.2	2.5	0.8	12.0	サヌカイト	調整痕あり。
44	石核	20	NR91001	4.2	3.3	3.2	24.9	チャート	剥離面多数あり。
45	太型蛤刃石斧	20	NR91001	12.0	8.4	5.5	654.5	緑泥片岩	刃部を欠く。
46	線刻石	20	NR91001	9.6	9.7	2.5	325.1	安山岩	直線と曲線状の線刻あり。

表5　金属製品観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)		
				長	幅	厚
K1	煙管	36	SK101037	6.5	1.6	2.3

表6　骨観察表

番号	器種	図版	遺構名	法量(cm)		
				長	幅	厚
B1	歯	19	NR91001	4	2.8	1.5

写真図版

写真１　Ⅷ区全景

写真２　Ⅸ区全景

写真３　X区全景

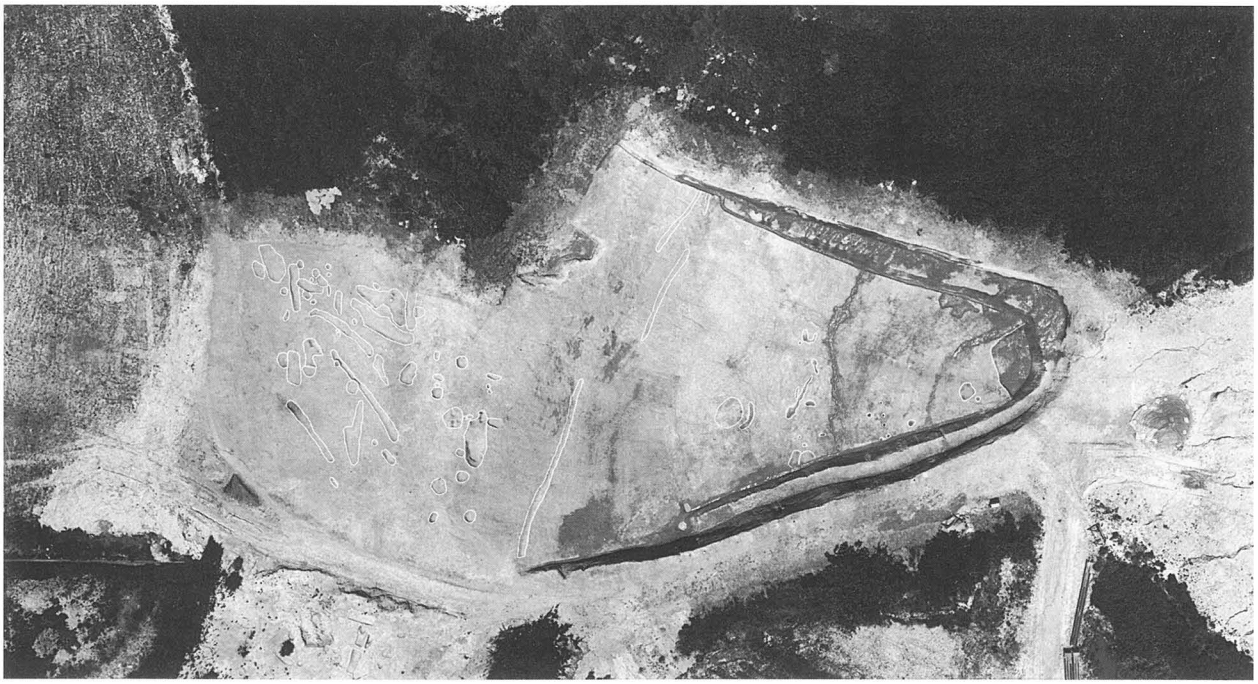


写真４　XI区全景

写真５　完掘状況全景（北から）

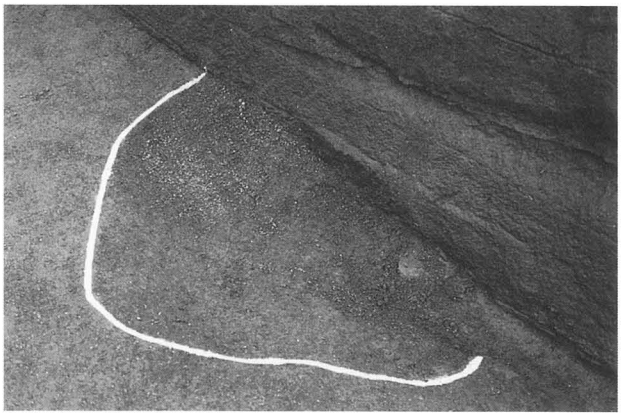


写真６　Ⅷ区SK81003完掘状況（西から）

写真７　Ⅸ区完掘状況（南東から）

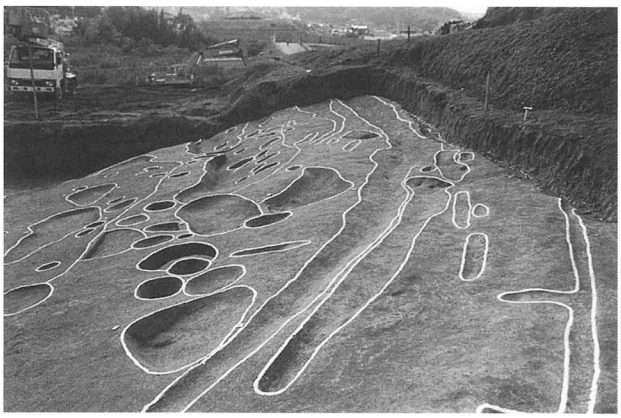


写真８　Ⅹ区西半完掘状況（北から）

写真９　Ⅸ区NR91001完掘状況（南から）

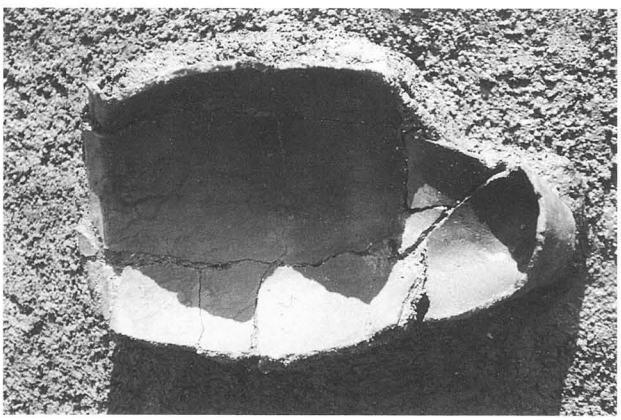


写真10　Ⅸ区NR91001土器出土状況

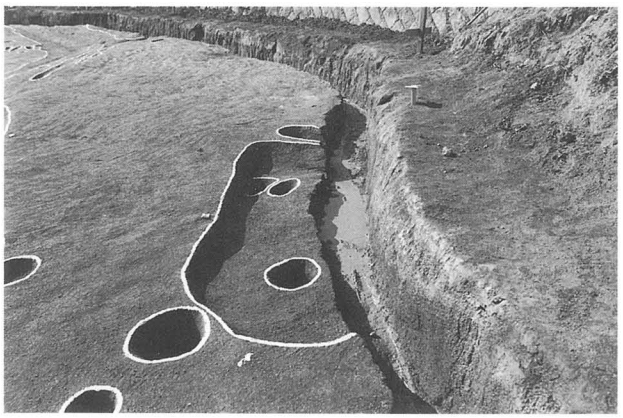


写真11　Ⅹ区SH101001完掘状況（北東から）

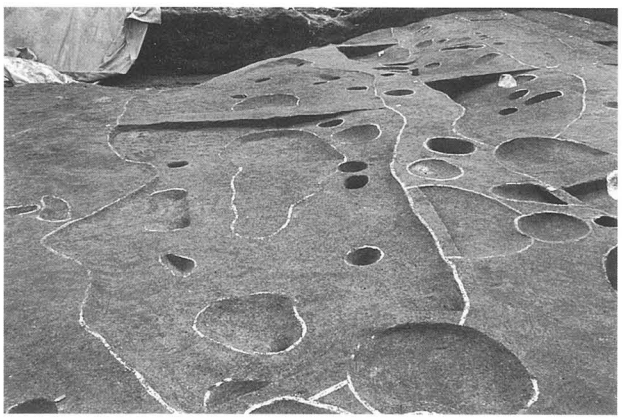


写真12　Ⅹ区SH101002完掘状況（北から）

写真13　X区SK101022完掘状況（南から）

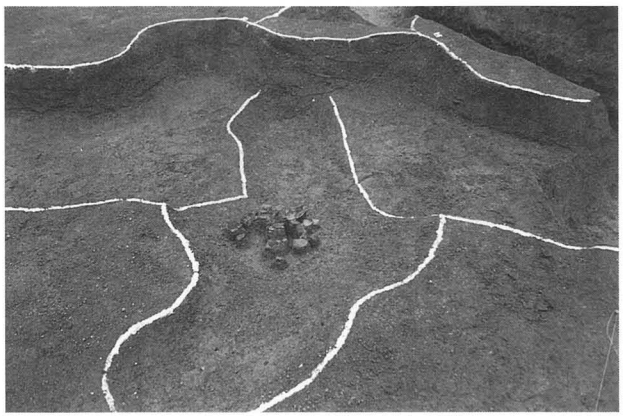


写真14　X区SK101037土器出土状況（南から）

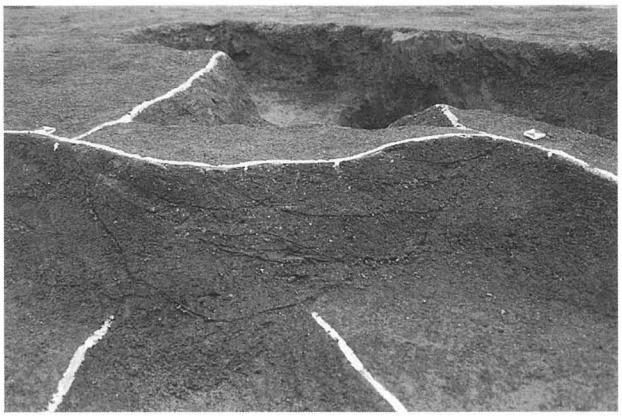


写真15　X区SK101037土層断面（南から）

写真16　X区SD101007完掘状況（南西から）

写真17　X区SD101008完掘状況（北西から）

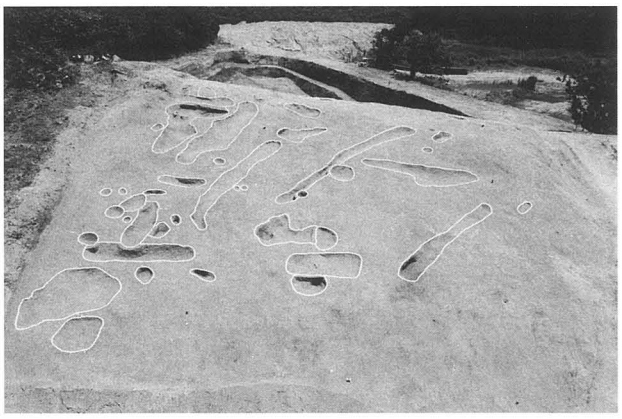


写真18　XI区西半完掘状況（西から）

写真19　XI区西半完掘状況（北から）

写真20　XI区東半完掘状況（東から）

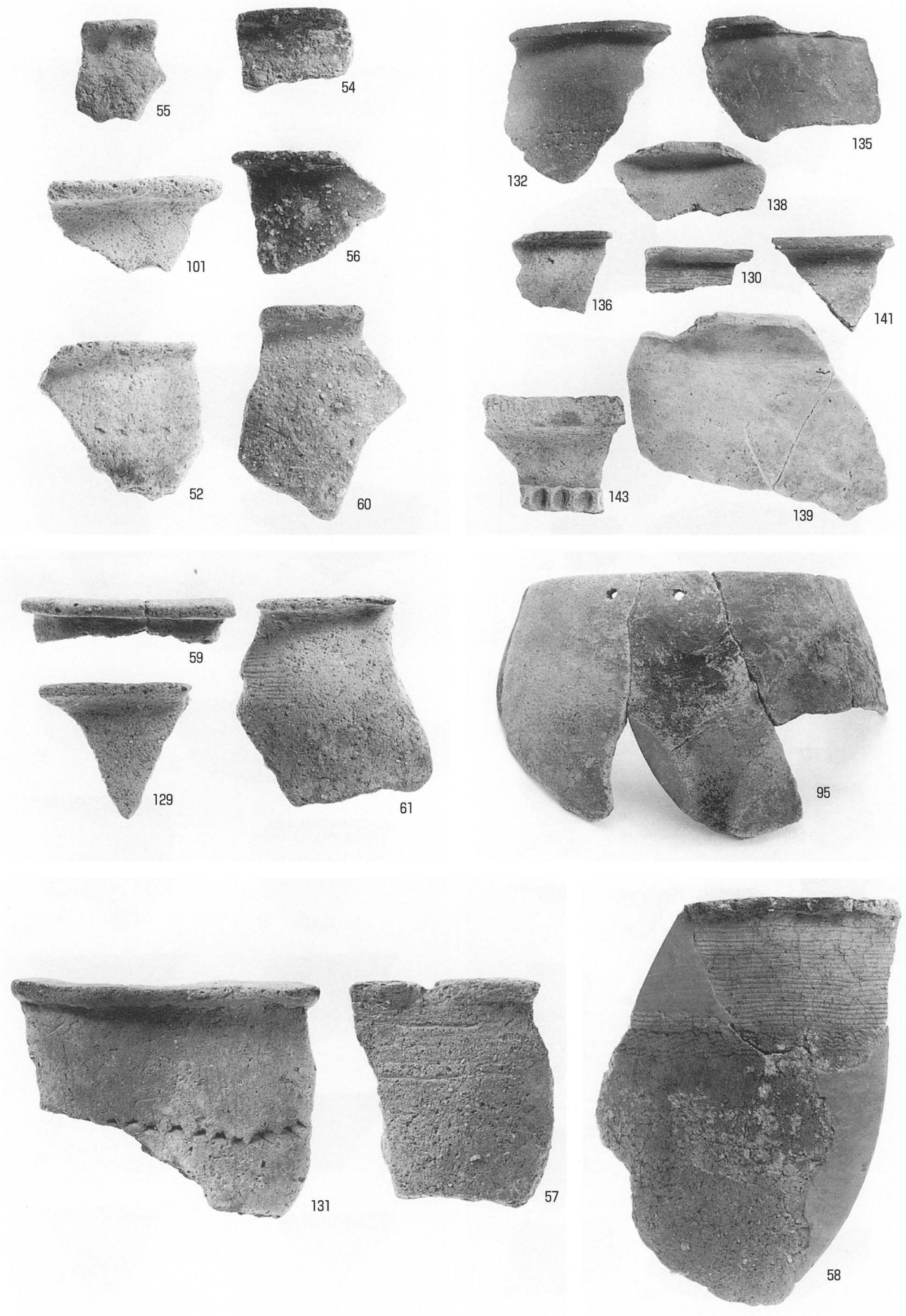


写真21　区区出土遺物①

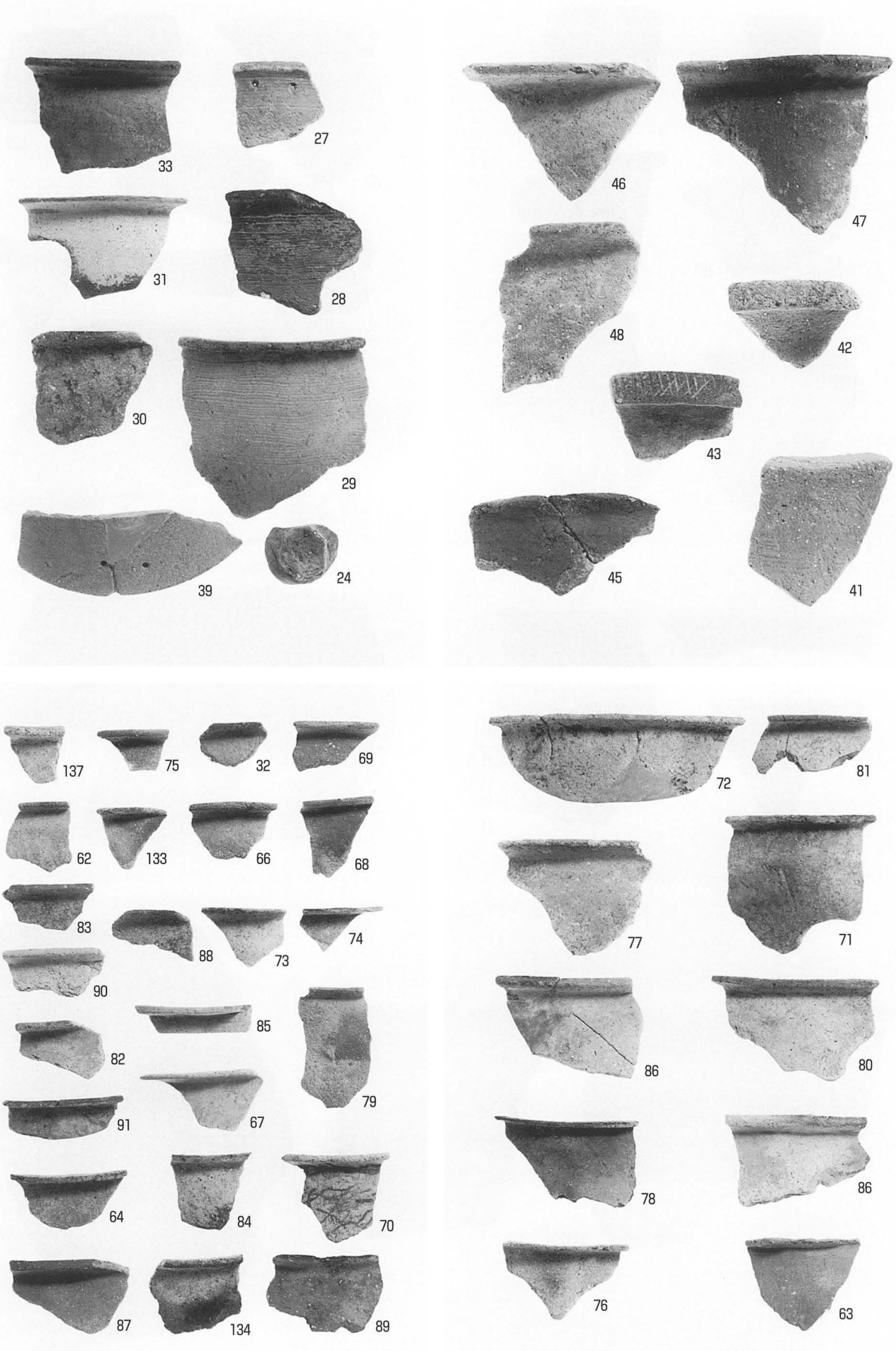
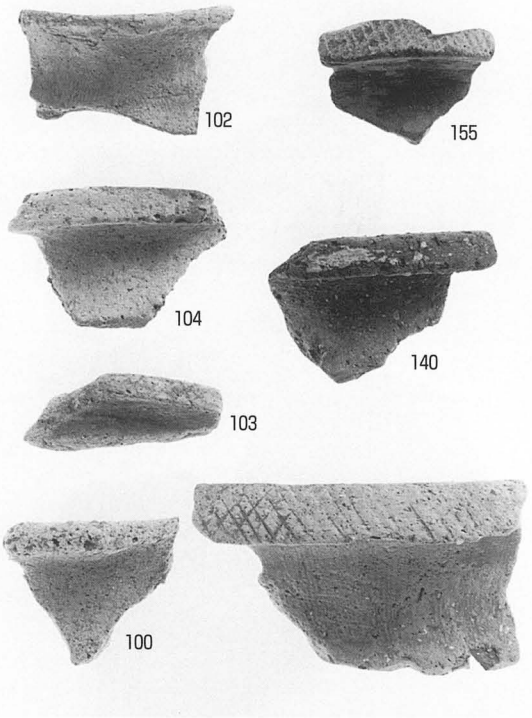
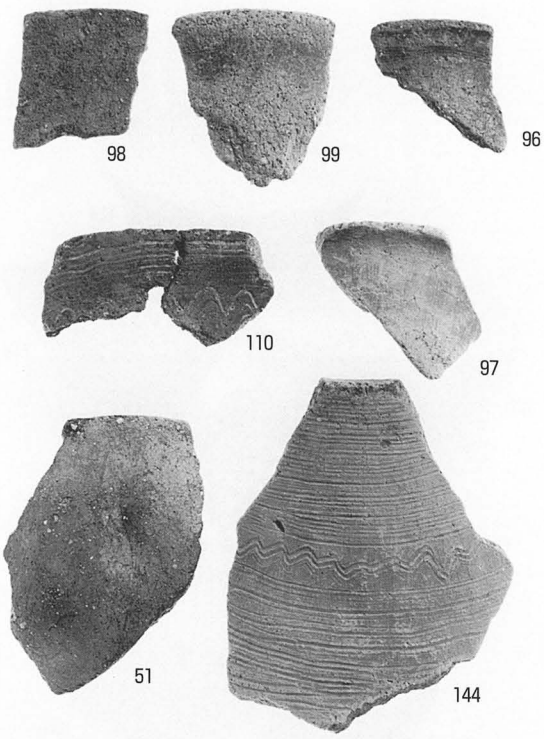
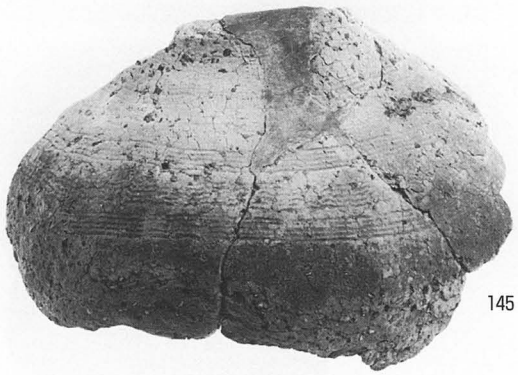


写真22　Ⅸ区出土遺物②







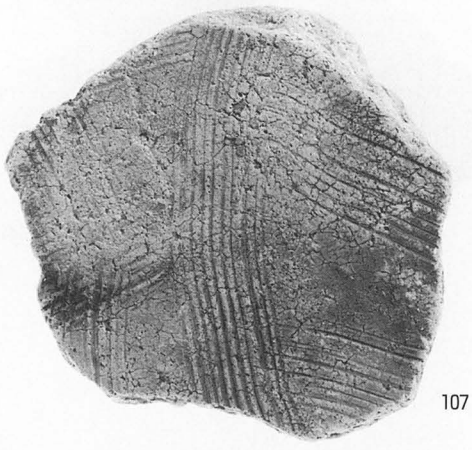


写真23　区区出土遺物③

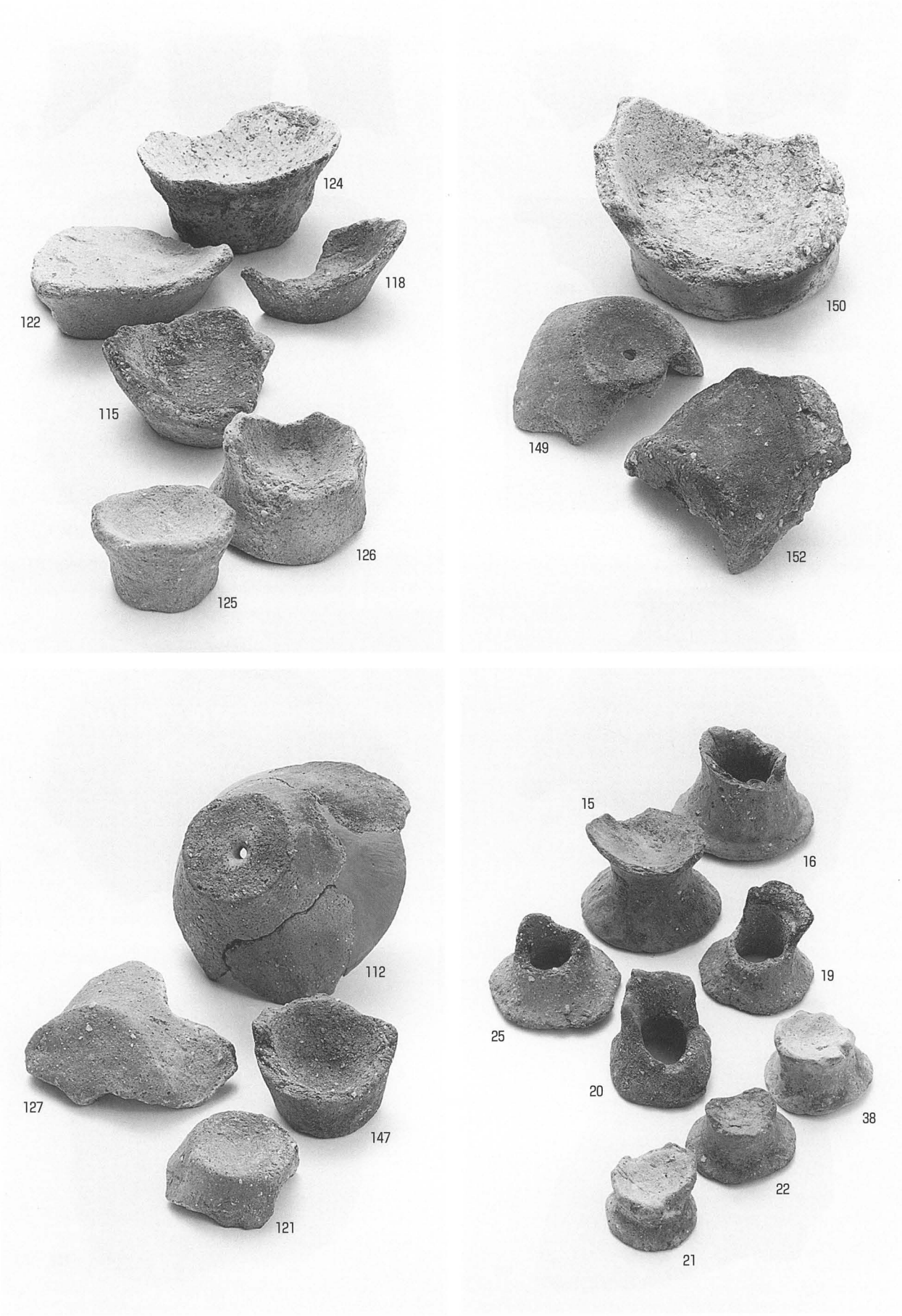


写真24　Ⅸ区出土遺物④

111

128

109

116

S14

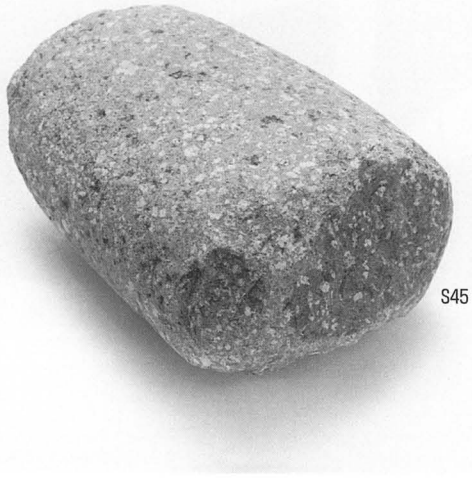
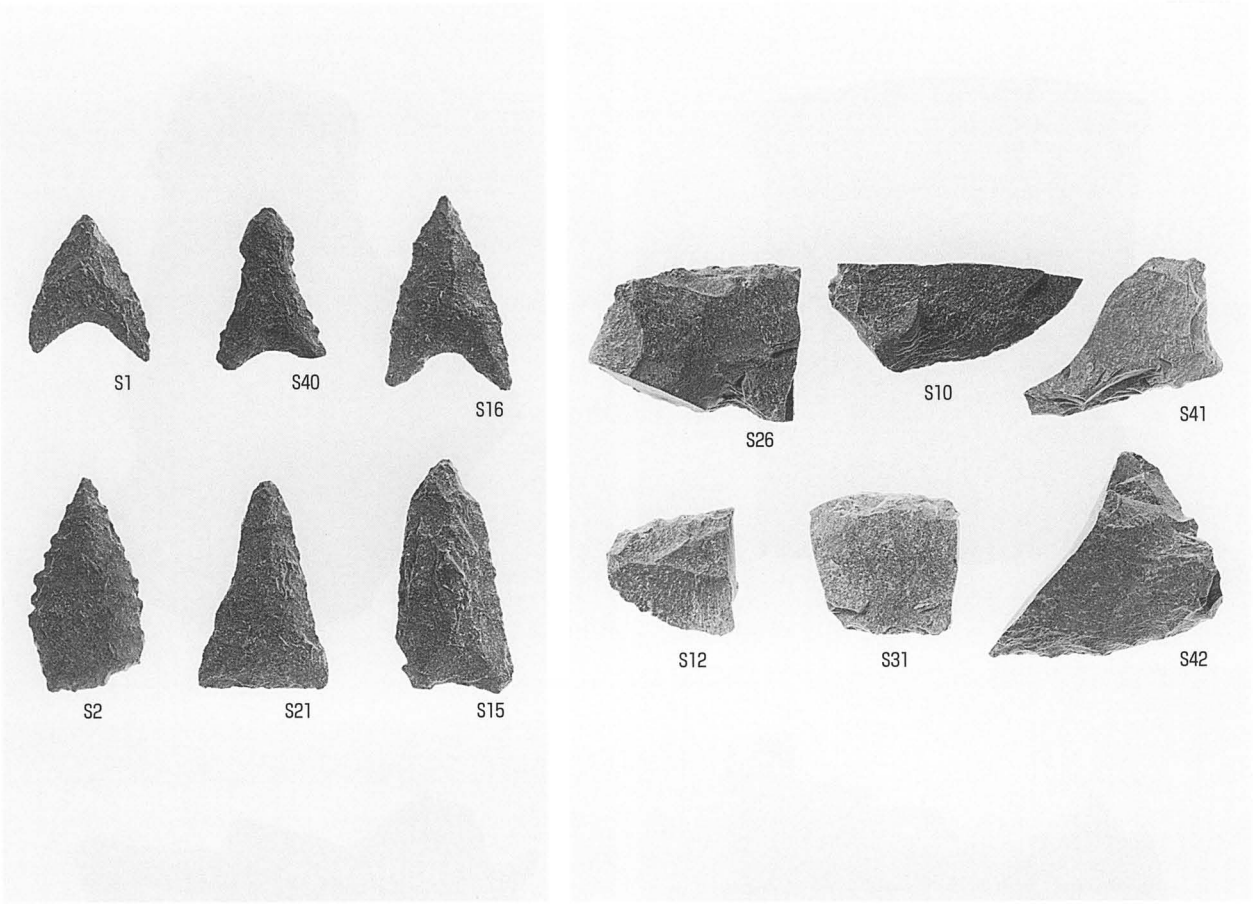

S45

写真25　区区出土遺物⑤



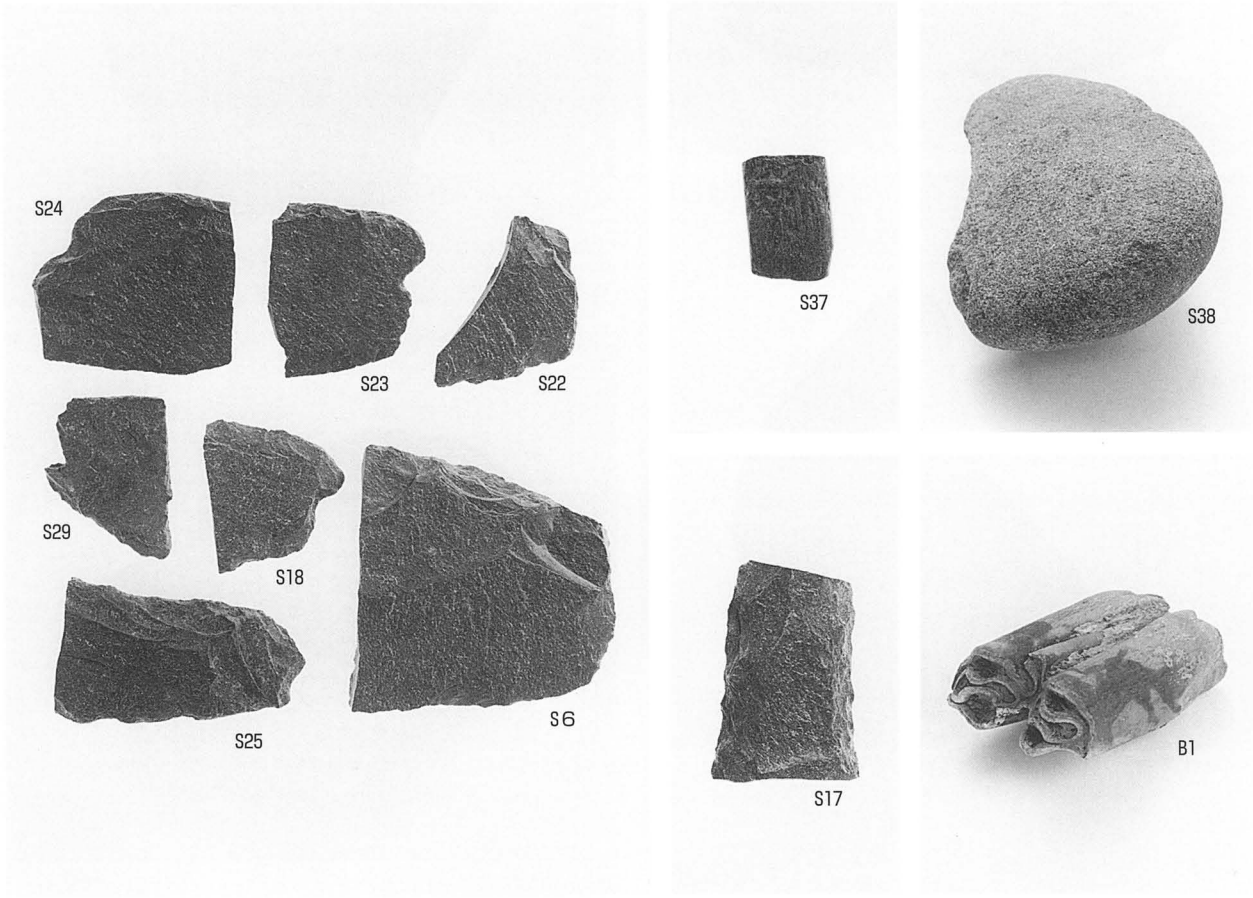


写真26　区区出土遺物⑥

写真27　X・XI区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おくのぼういせきぐんⅦ（おくのぼういせきⅧ・Ⅸ・Ⅹ・XIく）
書名	奥の坊遺跡群Ⅶ（奥の坊遺跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・XI区）
副書名	高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第7冊
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第118集
編著者名	大嶋　和則
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目8番15号　　TEL087－839－2660
発行年月日	西暦2009年2月27日

ふりがな 所収遺跡名	しょざいち 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
おくのぼういせき 奥の坊遺跡	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 たかまつちょう 高松町	37201		34° 19′ 30″	134° 07′ 30″	2000.10.2 ～ 2002.7.5	3,980㎡	高松市東部運動公園整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
奥の坊遺跡	集落	弥　生	土坑 自然河川	弥生土器， 石器	
		古　代	溝	土師器， 須恵器	
		近　世	土坑 溝	土師質土器， 陶磁器	

要約	奥の坊遺跡は高松平野の東を画する丘陵部に所在する。南向きの緩斜面に営まれた弥生時代中期前半の集落跡で，古代や近世の遺構も見られる。本書は，遺跡東部の自然河川を主体とする谷部分のⅨ・Ⅹ・XI区と集落域の北端に当たるⅧ区の報告書である。弥生時代では自然河川から多量の弥生土器や石器が出土しており，特に線刻の見られる石材が出土した。古代では，山田郡北部のみに見られる異方位条里地割の東端を検出した。

高松市東部運動公園整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第７冊

奥の坊遺跡群Ⅶ

（奥の坊遺跡 Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ区）

平成21年2月27日

編　集　高松市教育委員会
　　高松市番町一丁目8番15号
発　行　高松市教育委員会
印　刷　若葉プリント